

【決議事項】

1. 2019 年度に係る財務諸表等（以下の報告書類）
 - 1-1. 同 事業報告
 - 1-2. 同 財務諸表等
 - 1-3. 同 公益目的支出計画実施報告書
 - 1-4. 同 監査報告書
2. 新名誉会員の推薦
3. 一部役員の任期満了による新役員の選任

【報告事項】

1. 2020 年度に係る計画等
 - 1-1. 同 事業計画書
 - 1-2. 同 収支予算書
2. 会費滞納会員の取り扱い

2020 年 6 月 3 日

一般社団法人 情報処理学会

<https://www.ipsj.or.jp/>

目 次

【決議事項】

1. 2019 年度に係る財務諸表等（以下の報告書類）

1-1.	同	事業報告	・・・・・・・・・・・・・・・・	1
1-2.	同	財務諸表等	・・・・・・・・・・・・・・・・	56
1-3.	同	公益目的支出計画実施報告書	・・・・・・・・	69
1-4.	同	監査報告書	・・・・・・・・・・・・・・・・	71

2.	新名誉会員の推薦	・・・・・・・・・・・・・・・・	75
----	----------	------------------	----

3.	一部役員の任期満了による新役員の選任	・・・・・・・・	76
----	--------------------	----------	----

【報告事項】

1. 2020 年度に係る計画等

1-1.	同	事業計画書	・・・・・・・・・・・・・・・・	77
1-2.	同	収支予算書	・・・・・・・・・・・・・・・・	95

2.	会費滞納会員の取り扱い	・・・・・・・・・・・・・・・・	101
----	-------------	------------------	-----

[第 1 号議案]

1-1. 2019 年度事業報告

1. 概況：重点活動
 2. 会員の異動状況
 3. 会議等に関する事項（総会，理事会，各種委員会）
 4. 実施事業 1：調査研究活動（定款第 4 条 1 項 1 号および 2 号）
 5. 実施事業 2：人材育成（定款第 4 条 1 項 4 号）
 6. 実施事業 3：学術講習会の開催（定款第 4 条 1 項 1 号および 2 号）
 7. 実施事業 4：会誌の刊行（定款第 4 条 1 項 1 号および 2 号）
 8. 実施事業 5：論文誌・学術図書等の刊行（定款第 4 条 1 項 1 号および 2 号）
 9. 実施事業 6：標準化活動（定款第 4 条 1 項 3 号）
 10. 実施事業 7：国際活動（定款第 4 条 1 項 5 号および 2 号）
 11. その他：関連学協会との連絡および協力（定款 4 条 1 項 6 号）
 12. 法人運営
- 付 1. 会議等に関する事項（総会、理事会、各種委員会）
- 付 2. 研究会および研究発表・学術講習会等一覧
- 付 3. 刊行物（会誌・論文誌・図書等）一覧
- 付 4. 国際会議一覧
- 付 5. 表彰等
- その他・附属明細書

2019 年度 事業報告

1. 概況および重点活動

IoT (Internet of Things) , ビッグデータ, 人工知能(AI)が社会の注目を集め, これからの未来を大きく変えようとする現在, 本会の果たすべき役割はますます広がっている。これまで学会の抜本的改革を継続的に推進してきたこと, またジュニア会員制度の積極的な推進により, ジュニア会員は増加となったものの, 正会員の減少傾向は依然継続しており, 学生会員の入会も伸び悩み, 個人会員数は昨年度に比べ約 100 名の減少となった。調査研究活動, 学会誌の発行, 論文誌編集活動, 学術講習会の開催, 標準化活動においては, 新たな取り組みに挑戦しつつ, 成果を上げている。また, 2018 年度 10 月から開始した会員サービスについては, 支部統合や利便性向上に向けた, 機能拡充を行っている。財務的には, 厳しい状況であったにもかかわらず, 予算計画の目標を達成した。一方, 会員サービスを中心とするこれまでの学会の在り方を補完する新たな取り組みの検討を進めている。具体的には, 長期戦略理事が中心となり, 各事業の健全な継続性に向けて現状把握と課題の洗い出しを中心に, 各担当理事および支部長から意見を収集, 検討を進め課題整理を行った。社会に対して本会の専門性を還元するため, 魅力的なイベント企画を推進し, 本会会員だけでなく一般の方々に開かれた活動を通して情報処理技術の価値を発信した。また, 情報処理技術の使い手である他学会や関連団体とも積極的に連携し, 技術に対する健全なフィードバックを得ている。本会はこれらを通じて社会から信頼される情報処理分野におけるリーダーシップを確立していきたい。

特筆すべき改革や成果としては, 下記のものがあげられる。

- 2018 年度に改版した学会情報システム (マイページ) の活用普及と機能向上を実施した。
- ジュニア会員向け活動の活性化を図る事を目的として, 「ジュニア会員活性化委員会」が中心となり, ジュニア会員向け Web ページのリニューアルやジュニア会員サポーター募集, メール配信等広報活動, 2020 年度小中高教員新規入会キャンペーンの検討を推進した。また, 各種諸活動においても, ジュニア会員向けのセミナー「Exciting Coding! Junior」, 会誌「先生, 質問です!」コーナー, ジュニア会員の論文掲載料無料化, 支部でのジュニア会員向けイベント等々の施策を行い, ジュニア会員制度の周知強化に努め, 制度創設以来最高の 1,927 名を達成した。
- 新世代企画委員会における若手の活発な取り組みを続け, 会誌「先生, 質問です!」コーナーや, ニコニコ動画との連携, 学会イベント受付のオンライン化, 勉強会フォーラム等の取り組みを推進した。また, ジュニア会員向けサービスの強化を進めた。なお, 全国大会での開催を予定していた「IPSJ-ONE」は新型コロナウイルス感染症による影響で全国大会の現地開催が中止となった為, 開催を中止した。
- Info-WorkPlace 委員会の活動目的を再度見直し「働き方 (WorkPlace) の共有をする」活動へとシフトすることとした。。
- 2018 年度 IFIP IP3 からの認定を受けた, 実務家・IT エンジニア向けサービスである認定情報技術者制度 (CITP) において, 新たに企業認定 1 社および 451 名の認定情報技術者が誕生し, 累計で 9,853 名を認定した。(注: IP3: International Professional Practice Partnership)
- 長期戦略理事が中心となり, 各事業の健全な継続性に向けて現状把握と課題の洗い出しを中心に, 各担当理事および支部長から意見を収集, 検討を進め課題整理を行った。
- デジタルプラクティスの改革を進め, トランザクション (T-DP) , デジタルプラクティスコーナ (会誌) , DP レポートの 3 本柱で再スタートすることとした。

- 産業界向けイベントとしてこれまで実施してきたソフトウェアジャパンを廃止し、これに変えて産業界中心の IT フォーラム活動を継続推進するとともに、イベントとして IT フォーラム 2020 を開催した。
- 「データサイエンティスト戦略委員会」を新設し、教育から資格制度まで一貫統一した施策検討のできる体制化を図った。
- 新型コロナウイルス感染症の影響により、第 82 回全国大会の現地開催が中止となったが、オンライン開催にチャレンジし無事完了した。同様に、研究会による大規模シンポジウム「インタラクション 2020」についてもオンライン開催を無事終了した。

この他にも、グローバル化を目指した取り組み、査読システムのリニューアル、電子図書館のサイトライセンスサービス、国の政策や方針に対する活発なパブリックコメントの発信、国内外学会との連携などで多くの成果が出始めている。

1.1 学会運営体制の充実および財政基盤の強化

急激に変化する環境の中で、学会を安定的に運営しつつ、これを発展させるために、学会としてのトラディショナルな活動は今までどおり大切にしつつ、新しいアイデアを積極的に取り入れて、学会を柔軟に改革できる運営体制の整備として下記の施策を進めた。

- ① 学会価値の向上による会員増と財政基盤の強化に取り組むとともに、理事を中心とした入会促進活動およびジュニア会員制度の積極的な推進に努め、ジュニア会員は増加となったものの、正会員の減少傾向は依然継続しており、学生会員の入会も伸び悩み、昨年度に比べ 99 名の減少となった。
- ② 会員サービスの向上、運用コストの削減、セキュリティ対策の強化等为目标に、2018 年度にリニューアルした学会システムの機能拡充を進めた。また、支部 Web サイトについても ISP の統一とセキュリティ強化を行った。
- ③ 長期戦略理事を中心に各事業の健全な継続性に向けて現状把握と課題の洗い出しを進めた。
- ④ アドバイザリーボードからの「社会が求める情報処理学会とは」、それに伴う「学会運営の仕組み」といった観点からの提言をうけ、企画政策委員会で検討した。
- ⑤ 会員数の増加を図る為にジュニア会員向けサービス拡充や理事を中心に入会促進活動を行った。
- ⑥ 2020 年の本会創立 60 周年を迎えるにあたり、各種記念事業の検討を行った。

1.2 学生・若手研究者育成のための活動および体制強化

- ① 新世代理事を中心とする横串の組織「新世代企画委員会」活動を推進し、新世代（学生・若手研究者・若手技術者）の発想を学会運営に取り込む活動を推進した。
- ② 小学生から大学学部 3 年生までがオープンに入会申込できる「ジュニア会員制度」を推進し、若い世代の入会を促進した。また、「Exciting Coding! Junior 2019」など、数々のジュニア会員向けイベントを開催・共催した。2020 年 3 月末現在ジュニア会員数は 1,927 名である。
- ③ 研究会や支部などの協力も得て、学生や若手研究者のためのイベントを企画開催した。また、学生や若手を対象とした賞を授与した。

1.3 調査研究活動ならびに提言活動の推進

- ① 学会における中心的活動の一つの柱として、研究会による諸活動を推進した。コンピュータサイエンス領域、情報環境領域、メディア知能情報領域の 3 領域に分けて、領域委員会を 3 回ずつ開催し（内 1 回は調査研究運営委員会・3 領域委員会合同委員会）、研究会間での情報交換を促した。
- ② 個々の研究会活動を超えて、領域または調査研究全体による活動を支援するために、調査研究活動の積立資金よりプロジェクト（期間 2019 年 11 月 1 日～2020 年 10 月 31 日）を募集し、国際会議支援、女性

- 研究者支援，若手研究者支援などの5件（総額54万円）を採択し支援した。
- ③ 情報保障の導入を支援するため，アクセシビリティ研究会で実施している文字通訳や手話通訳に対して，調査研究活動の積立資金より40万円を補助した。
 - ④ 複数の研究会の共催による「DICOMシンポジウム」，「インタラクション」などを開催した。
なお，「インタラクション」は新型コロナウイルス感染症の影響により現地開催を中止しオンラインで開催した。
 - ⑤ 情報学分野における研究の最先端の潮流と近未来に向けたチャレンジングな研究課題を俯瞰し，官学間で共有することを目指した「情報学の次世代検討会」を，国立情報学研究所と共催した。
 - ⑥ 研究会活動に対する貢献を顕彰する「研究会活動貢献賞」を新設した。

1.4 グローバル化

- ① 英文論文誌 Journal of Information Processing（以下，JIP）のインパクトファクタ取得について，諸対応を検討した。現時点では JIP がインパクトファクタを取得する条件を満たしていないが，インパクトファクタの評価を行うための Web of Science データベースへの登録は比較的容易であることが判明したため，関係する出版社と交渉し準備を進めた。
- ② 国際的に広く使われている商用査読管理システム ScholarOne Manuscripts の運用を行い，JIP を中心に査読プロセスをグローバルスタンダードに合致させ，利用ノウハウの蓄積を進めた。
- ③ 研究会活動を中心に，国際会議の主催や共催を推進した。情報環境領域プロジェクトとして，ACM CHI への参加費・旅費の援助を行った。
- ④ IEEE や ACM のようなグローバルトップの国際学会との連携（学会員向けサービス等）に加え，若手向け表彰として「IPSJ/IEEE-CS Young Computer Researcher Award」および「IPSJ/ACM Award for Early Career Contributions to Global Research」を継続推進した。
- ⑤ アジア地域の国々との連携の機会を検討し，タイのパタヤで Asia Pacific Conference on Robot IoT System Development and Platform 2019 (APRIS2019)を行った。
- ⑥ アジアの関連学会である中国 CCF (China Computer Federation)，韓国 KIISE (Korean Institute of Information Scientists and Engineers) との中長期的な交流に向けて意見交換や相互訪問を行った。また，中国の福州で開催された CNCC2019 において CJK Joint Technical Forum を共同開催した。

1.5 実務家・IT エンジニア向け活動の強化

- ① 高度IT人材の資格制度である「認定情報技術者（Certified IT Professional：略称 CITP）制度」では，個人認証において技術士（情報工学）に対する資格審査の一部免除制度を今年度から開始するとともに，個人認証の取得を推奨する新たな企業の社員からの受審があった。また，企業認定において新たに1社を認定した（新認定企業からの個人登録は来年度となる見通し）。認定したCITP総数は累計で，2018年度末の9,402名から9,853名へと増大している。
- ② デジタルプラクティス，連続セミナー・短期集中セミナー，ITフォーラムなど，各種の実務家・ITエンジニア向け活動を通じて集客に貢献した。
- ③ 情報処理推進機構（IPA），情報サービス産業協会（JISA），日本情報システム・ユーザー協会（JUAS），電子情報技術産業協会（JEITA），科学技術振興機構（JST），先端 IT 活用推進コンソーシアム（AITC），インターネット協会（IAJ），情報通信技術委員（TTC），日本データ通信協会（JADAC），新世代M2Mコンソーシアム（NGM2M），日本規格協会（JSA），モバイルコンピューティング推進コンソーシアム（MCPC）などの実務家・IT エンジニアを対象とする団体との連携を深めた。

1.6 教育活動の充実

初等中等教育，専門学校そして大学などにおける情報教育，および企業の技術者を対象とした教育プロ

グラムの推進に向けて、以下の施策を実施した。

- ① カリキュラム標準 J17 (J17-CS, J17-IS, J17-CE, J17-SE, J17-IT, J17-GE, J17-CyberSecurity) のフォローアップ作業を継続して行った。
- ② 「情報科」入試実施における評価手法の検討としては、次期学習指導要領を加味した知識体系の整理、情報科での「思考力・判断力・表現力」評価手法の検討を継続して行ない、模擬試験問題について検討した。
- ③ アクレディテーション活動（教育機関における技術者教育プログラムの認定、JABEE からの委託、国際水準を目指して教育改善を推進しソウル協定の活動に協力）を継続した。
- ④ 高校教科「情報」の教員免許更新講習会の開催および教育シンポジウム・ワークショップ・コンテストの運営と後援を実施した。
- ⑤ ソフトウェア工学教育の国際化に関して、引き続き国際動向を調査し、World Conference on Computers in Education (WCCE2021)の広島開催に向けて準備を進めた。
- ⑥ Computing Curricula 2020 (CC2020) (ACM と IEEE-CS 中心のプロジェクト)のイベントを日本で開催予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により中止とした。
- ⑦ 本会全国大会において、中高生を対象とした中高生情報学研究コンテストをオンラインで実施した。
- ⑧ 「ジュニア会員活性化委員会」により、上記の活動をさらに推進した。
- ⑨ 新たに「データサイエンス教育委員会」を立ち上げた。
- ⑩ 日本学術会議による「情報教育の参照基準」の策定に協力し、令和元年 5 月 18 日の公開シンポジウムを情報処理教育委員会が共催した。

1.7 会員サービスおよび広報の充実

- ① オンライン刊行物の新しいビジネスモデルの推進、マルチメディアコンテンツ配信などの新しいサービス提供形態を推進した。
- ② 2014年度に提携したドワンゴ社のニコニコ動画配信は継続し、強化を図った。
- ③ 会員のアクティビティの電子的な記録を収集するため、イベント・シンポジウム等申込サイトの試行を継続した。また、新たなサービスとして、イベント会場でのQRコードによる受付システムを導入した。

1.8 学会システムの運用開始

2018年度に運用を開始したクラウド型 (SaaS, ASP型) 新学会情報システムについて、会誌の冊子版の要不要を会員自身が選択できるようにする等、機能追加を実施した。

関西支部、九州支部に続き残り6支部もWebサイトのISPの統一とセキュリティ強化を行った。また8支部サイトのコンテンツ統合に向けて、各支部の要望をヒアリングし、共通プラットフォームに必要な要件の整理、費用見積を実施した。

1.9 学会創立 60 周年記念事業の推進

本会創立 60 周年記念事業として、本年 3 月に記念全国大会の開催 (2020 年 3 月 5 日～7 日、金沢工大) を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により現地開催を中止 (一部セッションをオンライン開催) した。なお、次年度は、記念会誌特集号「2050 年の情報処理 (2020 年 5 月号)」発行、記念論文 (記念式典にて表彰)、60 年史「情報処理学会 60 年のあゆみ」の刊行、記念出版「情報処理技術遺産とパイオニアたち」、記念式典開催 (10 月 30 日 (金)、明治記念館) の実施を予定している。

2. 会員の異動状況

会員種別	会員数		増減数 ①－②	備考：2019年度の異動内訳				
	① 2019 年度末	② 2018 年度末		入会		退会		資格 喪失
名誉会員	40	39	1	1 1	新入会 正会員から異動	1		
正会員	15,211	15,453	-242	449 827 0	学生会員から異動 ジュニアから異動	1,055 1	名誉会員に異動	462
学生会員	2,585	2,728	-143	1,312 46	ジュニアから異動	621 827 0	正会員に異動 ジュニアに異動	53
ジュニア会員	1,927	1,642	285	829 0 0	正会員から異動 学生から異動	498 0 46	正会員に異動 学生会員に異動	
個人会員 計	19,763	19,862	-99	3,465		3,049		515
賛助会員 (口数)	275 (621)	258 (589)	17 (32)	36 (51)		19 (19)		

*2019年度期末正会員数には終身会員653名を含む。

3. 会議等に関する事項（総会、理事会、各種委員会）

総会、理事会をはじめ、法人運営、調査研究活動、人材育成活動、事業活動、機関誌／出版活動、標準化活動、国際活動に関する各種委員会を開催した。また、総会においては普段交流の少ない賛助会員にも学会活動に親しんでもらい、交流を深めることを目的として講演会と交流会を実施、本会コンピュータ博物館の歴史遺産の一つである「トランジスタ計算機 K-1」の展示も行った。詳細は付録1（p.20～p.34）に掲載する。

4. 実施事業1：調査研究活動（定款第4条1項1号および2号）

4.1 研究発表会、シンポジウム・講習会等 [所掌：調査研究運営委員会および各領域委員会]

40研究会、5研究グループ（内1研究グループは調査研究運営委員会所属）により活動し、研究発表会（155回 内14回はオンライン開催、内12回は開催中止*）およびシンポジウム等（22回 内1回はオンライン開催*）を開催した。詳細は付録2（p.35～p.41）に掲載する。

*新型コロナウイルス感染症の影響により、オンライン開催もしくは開催中止となった。

※前年度参考：40研究会、4研究グループ、研究発表会158回、シンポジウム22回

[1] コンピュータサイエンス領域

10研究会により、研究発表会（40回 内2回はオンライン開催、内3回開催中止）、シンポジウム等（8回）

を行った。それぞれの研究会が積極的な活動を行っているが、中でも特記事項は次の通りである。

- ① データベースシステム(DBS)研究会が電子情報通信学会・日本データベース学会と共催で「第12回 Web とデータベースに関するフォーラム (WebDB Forum 2019) (2019年9月8日～9日, 工学院大学)」を開催した。参加者は339名で、企業スポンサーは19社と盛況であった。
- ② 優秀な若手会員を顕彰するため、領域共通の積立金を活用して2019年度コンピュータサイエンス領域奨励賞を17名に授与した。
- ③ コンピュータサイエンス領域の研究会分野において、顕著な功績のあった8名と1団体に対し、領域共通の積立金を活用して2019年度コンピュータサイエンス領域功績賞を授与した。

[2] 情報環境領域

16研究会により、研究発表会(61回 内9回はオンライン開催, 内3回は開催中止), シンポジウム等(9回 内1回はオンライン開催)を行った。特記事項は次の通りである。

- ① 領域全体の活動として、領域共通の積立金を活用したプロジェクトを募集し、学生スマートフォンアプリコンテスト、国際会議支援、女性研究者支援、研究基礎力向上のための勉強会開催支援、シンポジウム開催支援の5件のプロジェクト(総額54万円)を支援することとした。前年度採用したプロジェクトの一部は成果報告を行い、領域の活性化に貢献したことを確認した。
- ② 10研究会*が合同で、ネットワークに関する研究分野を対象に、研究者間の深いディスカッションと交流の場となるよう合宿形式による「DICOM02019シンポジウム(2019年7月3日～5日, 福島県磐梯熱海温泉 華の湯)」を開催した。参加者は400名であった。
※マルチメディア通信と分散処理(DPS), グループウェアとネットワークサービス(GN), モバイルコンピューティングとパーベイシブシステム(MBL), コンピュータセキュリティ(CSEC), 高度交通システムとスマートコミュニティ(ITS), ユビキタスコンピューティングシステム(UBI), インターネットと運用技術(IOT), コンシューマ・デバイス&システム(CDS), セキュリティ心理学とトラスト(SPT), デジタルコンテンツクリエイション(DCC)各研究会
- ③ 5研究会*が合同で「インタラクティブ2020シンポジウム(2020年3月9日～11日)」を開催した。今回は新型コロナウイルス感染症の影響により現地開催を中止し、インタラクティブ発表も含めてオンラインで開催した。参加者は500名を超えた。ジュニア会員は参加費無料とすることで会員増にも貢献した。
※ヒューマンコンピュータインタラクション(HCI), グループウェアとネットワークサービス(GN), ユビキタスコンピューティングシステム(UBI), デジタルコンテンツクリエイション(DCC), エンタテインメントコンピューティング(EC)各研究会

[3] メディア知能情報領域

14研究会, 4研究グループにより、研究発表会(54回 内3回はオンライン開催, 内6回は開催中止), シンポジウム等(5回)を行った。

- ① コンピュータビジョンとイメージメディア(CVIM)研究会が電子情報通信学会パターン認識・メディア理解(PRMU)研究会と共催で「第22回画像の認識・理解シンポジウム(MIRU2019)(2019年7月29日～8月1日, グランキューブ大阪)」を開催した。電子情報通信学会と交代で幹事学会を務めており、今回は本会が幹事だった。参加者1,053名と盛況であった。
- ② エンタテインメントコンピューティング(EC)研究会が4研究会などの協賛のもと、「エンタテインメントコンピューティング2019シンポジウム(2019年9月20日～22日, 九州大学大橋キャンパス)」を開催し、参加者は200名を超えた。
- ③ 複数研究会でニコニコ生放送等にて研究発表会の動画中継を行った。

4.2 その他

(1) 表彰

優れた研究発表および業績等に対して、山下記念研究賞、業績賞、情報処理技術研究開発賞、マイクロソフト情報学研究賞、IPSJ/ACM Award for Early Career Contributions to Global Research, IPSJ/IEEE Computer Society Young Computer Researcher Award, 若手奨励賞を贈呈した。付録5 (p. 49～p. 52) に掲載する。

(2) 調査研究運営委員会直属研究グループの所属について

領域横断的な研究活動の拡充を目指して、2020年度より、ビッグデータ解析のビジネス実務利活用研究グループ(PBD)が調査研究運営委員会直属の研究グループとして活動することとなった。これにより、調査研究運営委員会直属研究グループはオープンサイエンスと研究データマネジメント研究グループ(RDM)と合わせ2つとなった。

(3) 「情報学の次世代」検討会について

情報学分野における研究の最先端の潮流を俯瞰し、文部科学省第6期科学技術基本計画を念頭に、近未来に向けたチャレンジングな研究課題を官民間で共有することを目指した「情報学の次世代」検討会を、国立情報学研究所との共催で3日にわたって開催した。本検討会では31研究会・研究グループより意欲的な発表があった。また、本検討会での議論に基づいて再度の会合を持ち、情報学に関する新たなプロジェクト提案の具体化を進めている。

5. 実施事業2：人材育成（定款第4条1項4号）

初等中等教育を含む情報教育、および企業の技術者を対象とした教育プログラムの推進に向けて、以下の施策を実施した。

5.1 情報教育カリキュラムの策定 [所掌：情報処理教育委員会]

(1) 情報専門学科カリキュラム標準(J17)のフォローアップ

J17の中核となるJ17-CS, J17-IS, J17-CE, J17-SE, J17-ITの情報専門学科用カリキュラム標準、一般情報教育用カリキュラム標準J17-GEについて、フォローアップ作業を行った。また、一般情報教育用カリキュラム標準J17-GEに準拠した教科書の作成を進めた。

(2) 初等中等教育での情報教育支援

国の情報教育の方向および内容に関して、他学協会とも連携して意見書や提言を行った。高専プロコン交流育成協会(NAPROCK)との連携により、高専プロコン連携シンポジウムの実施を行った。また、初等中等教育現場の情報分野教員の養成支援、教材開発や出張授業などを通じて、教育現場支援をさらに推進した。文科省からの「講師紹介窓口」としての紹介・受付開始・対応ガイドラインの策定をした。5つの教育委員会・学校(青森県、千葉県、長野県、神奈川県、東京都立高等学校)から依頼を受け、講師紹介を行なった。

5.2 アクレディテーション(技術者教育プログラムの認定) [所掌：情報処理教育委員会]

アクレディテーションによる大学・大学院専門教育の質的向上の推進のため、日本技術者教育認定機構(JABEE)委託の認定評価を継続した。関連して、認定校・受審予定校のコミュニティの育成、専門職大学院認証評価などの活動支援を行った。また、JABEEに協力して情報専門系課程教育の質保証に努め、ソウル

協定による国際水準を目指して教育改善を推進した。JABEE審査4件を担当した。JABEEの審査基準の変更に委員を派遣し、審査基準の個別基準の変更作業を行った。JABEEのソウル協定の活動に、委員会として貢献した。

5.3 教員免許更新講習の開催 [所掌：情報処理教育委員会]

2014年度より実施している高校の教科「情報」に関する教員免許更新講習を引き続き実施した。東京地区（東京大学，化学会館），東海地区（名古屋文理大学）と関西地区（大阪大学，大阪電気通信大学）で開催した。本会が講習を実施することは、「情報」に特化した更新講習を実現し、高校の情報科教員の知識の更新（アップデート）に役立つものであった。

5.4 認定情報技術者制度 [所掌：資格制度運営委員会，個人認証審査委員会，企業認証審査委員会]

認定情報技術者（CITP）では、個人認証において技術士（情報工学）に対する資格審査の一部免除制度を今年度から開始するとともに、個人認証の取得を推奨する新たな企業の社員からの受審があった。また、企業認定において新たに1社を認定した（新認定企業からの個人登録は来年度となる見通し）。認定したCITP総数は累計で、2018年度末の9,402名から9,853名へと増大している。CITPホルダーにより第25～28回のCITPコミュニティ定例会議が開催され、11月には、2017、2018年度に引き続き、石巻市と本会東北支部の後援を得て石巻シンポジウムが開催され、「デザイン思考」をワークショップ型で体験することにより価値創造のプロセスを理解する取り組みが行われた。

5.5 その他 [所掌：情報処理教育委員会]

(1) 教育シンポジウムならびにコンテストの運営・後援等

教育に関するシンポジウムならびにコンテストを企画運営した。高校教科「情報」に関するシンポジウムを東京で開催した。大学の情報教育に関するシンポジウム「これからの大学の情報教育」を福岡国際会議場で共催した。情報システムに関連する教育実践の一層の拡充を図るために、情報システム教育コンテストを開催した。また、若い世代への本会のプレゼンス向上を目指して、大学生、高校生等を対象とするコンテストの後援（表彰活動）等を推進した。第82回全国大会は、新型コロナウイルスの影響により残念ながら現地開催は中止となったが、中高生を対象とした中高生情報学研究コンテストは、2018年度を大きく上回る60件の発表を集め、オンラインにて実施した。さらに、高大接続のための情報ブレースメントテストを一般情報教育委員会の委員の所属大学他で実施し、結果を全国大会のイベント企画で報告した。また、日本学術会議による「情報教育の参照基準」の策定に協力し、令和元年5月18日の公開シンポジウムを情報処理教育委員会が共催した。

(2) 大学入試科目に「情報」を導入するための活動

「情報科」での「知識・技能」＋「思考力・判断力・表現力」を評価するための試験問題について、今までに作った問題の整理（問題集や解説本）や新たな作問を継続して行った。

(3) 学会誌への教育関連記事の掲載

会員の情報教育への関心を高め、初中等教育現場関係者の学会活動への参加を促すために、学会誌に「ぺた語義」などの教育関連連載記事を企画・編集した。

(4) 表彰、その他

- ① 優れた情報教育の実践等を顕彰するため、優秀教育賞・教材賞を贈呈した。
- ② 教材，講義素材，講義資料などのデジタルアーカイブ実現に向けて調査・検討を行った。
- ③ 教育関連の事業活動の成果を学会収益に結びつける仕組みや寄付の募集を検討した。
- ④ 国際会議「World Conference on Computers in Education (WCCE2021)」の日本開催に向けた準備検討が進められた。

6. 実施事業3：学術講習会の開催（定款第4条1項1号および2号）

※各開催状況の詳細は付録2（p. 41～p. 43）に掲載する。

6.1 全国大会／FIT

(1) 第82回全国大会 [所掌：全国大会組織委員会]

第82回全国大会を2020年3月5～7日に金沢工業大学扇が丘キャンパスで開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症による影響で現地開催が中止となり、Zoomによるオンライン開催を行った。本大会では、一般セッション、学生セッションと一部のイベント（「MEC (Multi-access Edge Computing)への挑戦」「先生質問です！公開セッション」）はオンライン開催とし、それ以外の表彰式、招待講演、懇親会、イベント企画は中止（または延期）となった。「中高生情報学研究コンテスト（発表件数60件）」「第8回国際人工知能プログラミングコンテスト（Samurai Coding 2019-20）決勝」はオンラインでの審査を行った。60周年記念事業として予定していた「初音ミク ファン メイド ミニライブ IPSJ-39」，「『工学の曙』文庫特別展」，学会のあゆみパネル展示，来場者用の金沢駅-大学間の無料シャトルバス運行および81大会同様予定していた，ニコニコ動画によるメイン会場のライブ配信，「IPSJ-ONE」，「IT情報系 キャリア研究セッション」，託児所の設置，聴覚障害者向け情報保障も中止となった。また，今回より講演参加費の改定を行い，オンライン参加（当日参加）は，予約価格と同じ価格とした。講演件数は1,141件（一般セッション195件，学生セッション946件），参加者数は2,419名（参加券発行数）であった。

※前年度参考：講演件数1,192件，総参加者数2,905名

(2) 第18回情報科学技術フォーラム（FIT2019） [所掌：FIT運営委員会]

事務経費削減と効率化のため，2019年度よりFIT事務局を本会に一本化することとした。

FIT2019（第18回情報科学技術フォーラム）を，2019年9月3～5日に岡山大学津島キャンパスにおいて開催した。講演件数は529件，総参加者数は1,336名であった。船井業績賞受賞者産業技術総合研究所 首席研究員 後藤真孝氏による受賞記念講演を実施した。イベント企画（計18件），前回の既発表論文紹介セッションに代わるトップコンファレンスセッション（3日間で7セッション，37件）を新たに実施した。今回は企業によるインダストリアルセッション（5社）とIT情報系キャリアセッションを開催した。また，スポンサー10口，ランチョンセッション1口を獲得した。その他，視覚障害者向け情報保障（音声認識ツール，PC通訳）の提供や，岡山後楽園でイベントと懇親会を開催し，後楽園セッションスポンサー（6口）を獲得した。託児所を開設し，1名の利用があった。

※前年度参考：講演件数508件，総参加者数1,069名

(3) 表彰 [所掌：全国大会組織委員会]

優れた発表を顕彰するため，全国大会優秀賞・奨励賞などを贈呈した。詳細は付録5（p. 51）に掲載する。

6.2 セミナー／ITフォーラム2020／プログラミング・シンポジウム

(1) 連続セミナー2019 [所掌：セミナー推進委員会]

「データ駆動で新時代を切り拓く」を全体テーマとし，年度内に全6回開催し，本会場（東京）延べ508名，遠隔会場（大阪）延べ102名，遠隔会場（東北）延べ49名，（全体）延べ659名の多数の参加があった。

※前年度参考：全6回，東京／大阪／東北延べ参加者数712名

(2) 短期集中セミナー [所掌：セミナー推進委員会]

年度内に、次の短期集中セミナーを開催した。

- ・「量子コンピュータ&量子通信の最新動向と展望」（4月）参加者：71名
- ・「AI×IoTの社会実装と標準化における課題と取り組み」（10月）参加者：85名
- ・「Society5.0に向けたデータ流通」（12月）参加者：65名
- ・「JPEG/MPEG標準化の最新動向2019～2020年に向けた活動状況～」(12月) 参加者：41名
- ・「Exciting Coding! Junior 2019：スクラッチを使ってプログラミングを学ぼう！」
(12月) 参加者：10組(20名) (小学校高学年向け)
- ・「事例と共に紹介するプロセスアセスメントの有効活用」（1月）参加者：28名
- ・「ここまで来た！空間表現の先端事例と技術動向～CG/CV/VR/HCIの最先端～」
(2月) 参加者：47名

(3) IT フォーラム 2020 [所掌：IT フォーラム推進委員会]

大規模なセミナーイベントとしてのソフトウェアジャパンから、コミュニティ活動主体の IT フォーラム 2020 へと形式を変更して開催した。参加者：184 名。

(4) プログラミング・シンポジウム [所掌：事業運営委員会]

年度内に 2 回（第 61 回プログラミング・シンポジウム、夏のプログラミング・シンポジウム 2019）のシンポジウムを開催した。いずれも 2 泊 3 日の合宿形式で開催され、活発な議論が行われた。第 52 回情報科学若手の会については、台風 19 号による交通機関への影響、参加者の安全を考慮し中止とした。

6.3 IT フォーラム [所掌：IT フォーラム推進委員会]

① 2019 年度はサービスサイエンスフォーラム、コンタクトセンターフォーラム、CITP フォーラムの 3 つの IT フォーラムが活動を行った。各フォーラムの主な活動内容は以下のとおり。

- ・サービスサイエンス：3 分科会がそれぞれ月 1 回程度のミーティングの他、月の研究会、研究会成果を出版した。
- ・コンタクトセンター：2 ヶ月に 1 回程度の勉強会を実施。事例発表や先進事例、研究テーマの発表内容の選定が難しく、隔月開催になっている。勉強会では皆さん積極的な意見交換ができ、活動内容は充実している。
- ・CITP：4 回（名古屋 1 回 毎回 2 時間、石巻シンポジウム・合宿 1 泊 2 日）の全体コミュニティ会合を実施した。11 月には、本会東北支部と石巻市の後援、石巻専修大学と連携してシビックテックを開催した。また、2019 年度版アニュアルレポートの発行を行った。2020 年版も予定している。

② IT フォーラム 2020 において、関連団体*との連携イベントを推進した。

※先端 IT 活用推進コンソーシアム (AITC)

6.4 AI プログラミングコンテスト [所掌：プログラミングコンテスト委員会]

① 学生および若手技術者の育成を目的として、世界規模の対戦型プログラミングコンテスト「Samurai Coding 2019-20」を開催した（オンライン予選と決勝戦）。1 月 20 日（日本時間 1 月 21 日 21:00JST）を締切としたオンライン予選には、37 チームの参加があった。

② 新型コロナウイルス感染症の影響により現地開催が中止となったため予選同様オンラインにて開催した。国際：1 チーム、国内：15 チームの全 16 チーム 30 名が予選結果から選抜された。

6.5 各支部による支部連合大会、講習会等の開催 [所掌：各支部]

支部連合大会、講習会、講演会、セミナー、国際ワークショップ、ジュニア会員向けイベント等、各支部において活発に活動がなされた。なお、一部のイベントに関しては新型コロナウイルス感染症の影響に

より開催中止・延期となった。詳細は、付録 2 (p. 43～p. 44) および付録 5 (p. 53) に掲載する。

7. 実施事業 4：会誌の刊行（定款第 4 条 1 項 1 号および 2 号）

※発刊状況の詳細は付録 3 (p. 45) に掲載する。

7.1 会誌「情報処理」 [所掌：会誌編集委員会]

(1) コンテンツ

- ① 会誌「情報処理」第60巻5号から第61巻4号まで計12号（本文1,324ページ，広告64ページ，平均発行部数16,550部／号）を編集発行した。
- ② 稲見編集長のもと「読まれる学会誌」を目指して，会員サービス，および会員増という観点から編集を行い，時宜を得た特集，連載，単発記事が提供できるよう努めた。
- ③ 学会Webとの連動企画として，昨年に引き続き9月号「研究会推薦博士論文速報」では，本誌に簡略版，Webにその詳細を掲載した。
- ④ 4コマ漫画「IT日和」を終了し，新たにさまざまなITに関する企画を取材し，マンガ表現で分かりやすく解説する「IT紀行」の連載を開始した。
- ⑤ 会議レポートの掲載数を増やし，会員へ国内外会議の周知，また積極的な参加を呼びかけた。
- ⑥ 時事性・話題性の高い記事をスピーディに掲載する「特別解説」，著名人による「巻頭コラム」，連載「古機巡礼/二進伝心」，連載「ビブリオ・トーカー私のオススメー」，連載「5分で分かる!? 有名論文ナナメ読み」，連載「情報の授業をしよう!」，連載「集まれ！ジュニア会員!!」，連載「先生，質問です!」，教育コーナー「ぺた語義」を引き続き掲載し，概ね好評を得た。また，書籍化した「ビブリオ・トーカー私のオススメー」の今年度の販売部数は50部であった。
- ⑦ 気軽に読める技術者向け製品紹介のページとして，連載「買い物自慢」を開始した。
- ⑧ 論文投稿者向けの連載「論文必勝法」を開始し，大好評を得た。
- ⑨ 新入生，新入社員向けの特集「フレッシュマンに向けたプログラミングのススメ」（60巻6号），高専特集「未来の学びを主導する高専教育」（60巻7号）などを掲載した。
- ⑩ 話題のSF漫画『AIの遺電子』とコラボレーションした特集「『AIの遺電子』に学ぶ未来構想術」（61巻1号）を掲載した。

(2) その他，広報・宣伝の充実および編集体制の改善

- ① 冊子版に掲載された広告を Web カタログとして学会 Web 上に掲載するサービスを継続した。
- ② 学生向けの「就職情報」の掲載企業は 26 社であった。
- ③ 学生向けのサービスとして新たに「インターンシップ情報」（60 巻 7 号付録）を開始した。掲載企業は 13 社であった。
- ④ メールニュースをより魅力的なものとするため，昨年に引き続き「理事からのメッセージ」を掲載した。
- ⑤ App Store での会誌電子版の販売を終了し，Kindle での販売を開始した。また Fujisan にて特集別刷電子版の販売を継続した。
- ⑥ 読者から要望の多かった，会誌を 1 冊まとめてダウンロードできる PDF を電子図書館に掲載した。
- ⑦ IPSJ メールニュースにおける会誌・論文誌の目次配信を継続した。
- ⑧ 58 巻 4 号特別企画として作成した「情報処理学会 LINE スタンプシール」のダウンロード数は 11,129 件となった。
- ⑨ 学会の知名度向上をはかるため，技術書の展示会「技術書典 7」に会誌編集委員会として出展し，学会

オリジナルTシャツ、会誌特集別刷を作成して販売した。

- ⑩ 全国大会において開催予定であった「『先生、質問です！』公開セッション」は新型コロナウイルス感染症の影響により現地開催を中止し、cluster を使ったバーチャル空間でイベントを開催した。
- ⑪ デジタルプラクティス WG (DWG) を新設した。

8. 実施事業5：論文誌・学術図書等の刊行（定款第4条1項1号および2号）

※各発行状況の詳細は付録3（p. 45～p. 47）に掲載する。

8.1 論文誌（ジャーナル/JIP/トランザクション/デジタルプラクティス）

(1) 「情報処理学会論文誌（ジャーナル）」（月刊） [所掌：ジャーナル編集委員会]

① 論文の充実（論文投稿数の増加に向けた取り組み）

論文誌（一般論文、特集号論文）の月刊体制を維持し、235 編（含 JIP preprint52 編）が掲載された。招待論文を 1 編および特集号を 17 号発行した。ジャーナル/JIP 編集委員会幹事会が提案母体となる「若手研究者特集号」を企画（投稿条件：第一著者が会員）し、投稿と同時に第一著者 35%の方が入会をした。全国大会でイベント企画「論文必勝法」を実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となった。

- ② 国際会議等で発表済みの研究内容をジャーナル/JIP に投稿する際の自己引用に関する規則を整備し、著作権に関する取扱いを明確化した。
- ③ マルチメディアコンテンツを含む論文についての公開方法や著作権等の諸課題の検討を進めた。
- ④ 論文誌編集委員の貢献に報いるため、論文編集委員会より論文編集貢献賞を選定し贈呈した。

(2) 「Journal of Information Processing (JIP)」 [所掌：JIP 編集委員会]

年間論文掲載数の目標 70 編に対して掲載件数は 73 編（うち招待論文 4 編）であった。国外からの投稿に対する優遇策を継続して実施している。

(3) トランザクション（10 誌） [所掌：各トランザクション編集委員会]

- ① 研究会が編集した「情報処理学会論文誌（トランザクション）」10 誌を年度内に計 38 回発行した。トランザクションの掲載論文は計 118 編（含 JIP preprint21 編）となった。
- ② DP 誌の一部を論文誌（トランザクション）に再編する方針を決定し、規約改正と発行の準備を進めた。

(4) 実務活動の論文誌「情報処理学会デジタルプラクティス」 [所掌：デジタルプラクティス編集委員会]

- ① 論文誌「デジタルプラクティス」通巻 38 号～41 号の特集号企画と編集、投稿論文の審査・共同推敲を行った（招待論文 27 編、特集号投稿論文 7 編、一般投稿論文 10 編、推薦論文 1 編を掲載）。
- ② DP 掲載論文から電気科学技術奨励賞（旧オーム賞）の候補を推薦し、3 名が受賞した。本会からの推薦以外にも、DP 掲載論文に関連する案件 3 件が電気科学技術奨励賞（旧オーム賞）を受賞した。
- ③ FIT2019 ではイベント企画「働き方改革と IT～デジタルプラクティスライブ～」を行った。
- ④ 著者に、より強い動機をもってクオリティの高い論文を執筆していただくために「デジタルプラクティス論文賞」の選考を行った。全国大会での表彰を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により現地開催が中止となったため、次年度総会の交流会で行うこととした。
- ⑤ App store「情報処理学会」アプリ終了に伴い「デジタルプラクティス」の配信も終了した。それによりランニングコストが削減された。
- ⑥ 第 82 回全国大会で企画セッション「DX を推進する俊敏なシステム開発・運用—アジャイルにつなぐ

ビジネスと ICT—デジタルプラクティスライブ—」を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により開催を中止した。

- ⑦ 実務現場における知見を社会全体で広く共有することを目的とし、FUJITSU ファミリー会における企業実践論文との提携を開始した。日立 IT ユーザ会、NEC C&C システムユーザー会との提携も検討中。
- ⑧ 「デジタルプラクティス」は 43 号をもって現在の形態を終了し、44 号よりトランザクション (TDP)、会誌のコンテンツ (デジタルプラクティスコナ (仮称))、DP レポートの 3 本柱で再スタートすることとした。来年度は新体制がスムーズに進むよう、規程の改正や委員の補充などを実施する。

(5) その他

- ① 各誌の優れた論文を顕彰するため、論文賞、デジタルプラクティス論文賞等を贈呈した。詳細は付録 5 (p. 49, p. 53) に掲載する。
- ② 創立 60 周年記念論文の審査方法や審査スケジュールを策定し、2019 年 12 月より公募を開始し 14 件が応募された。

8.2 専門誌：教科書シリーズ [所掌：出版委員会]

「IT Text データベースの基礎」を刊行した。また既企画のメンテナンスを中心に活動を行い、重版を 19 冊行った。委員を新たに 2 名追加した。

8.3 歴史資料の保存・公開 [所掌：歴史特別委員会、コンピュータ博物館小委員会]

- ① 「情報処理技術遺産」5 件と「分散コンピュータ博物館」1 件の関連調査と認定を行った。(情報処理技術遺産累計：108 件、分散コンピュータ博物館累計：10 件)。詳細は付録 5 (p. 53) に掲載する。
- ② 「コンピュータ博物館」に英語版 12 版 (OCR カテゴリ)、英語版 13 版 (遺産認定機器の追加、年表に記載されていて解説のない項目に解説を追加) の公開を行った。
- ③ 「コンピュータ博物館」の今年度のアクセス数は、457,194 件 (日英合わせ)、転載数 20 件であった。
- ④ 第 82 回全国大会で特別セッション「私の詩と真実」をする予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により開催を中止した。
- ⑤ オーラルヒストリー 1 件を会誌に掲載した。
- ⑥ 本会総会で「K-1」を展示した。
- ⑦ 雑誌「OHM」2019 年 6 月号にコンピュータの歴史に関する特集記事を投稿した。

8.4 電子図書館事業の推進 [所掌：デジタルコンテンツ事業検討委員会]

- ① サイトライセンスサービスは目標契約数通りの 70 件となった。
- ② 論文誌ジャーナル掲載論文への doi 付与を検討した。
- ③ 電子図書館のユーザインタフェースの改善を行った。
- ④ 電子図書館の運用面を検討する WG を設立し、財政面、運用面、プラットフォーム等の検討に着手した。

9. 実施事業 6：標準化活動 (定款第 4 条 1 項 3 号)

9.1 情報規格調査活動 [所掌：情報規格調査会]

(1) 国際標準化中心メンバーとしての貢献

前年度から引き続き、メディア符号化 (SC29)、デジタル記録媒体 (SC23)、文字コード (SC2) などの

重点領域の委員会議長，幹事国などの国際役職引き受けを継続するとともに，国の代表として，JTC1 総会（5 月ハワイ，11 月デリー）に出席し，審議プロセス・組織の見直し，新規標準化領域などの議論に参加した。

- ① 今年度の引き受け件数は，議長 4 件（全 22SC 委員会中），セクレタリアート 5 件（全 22SC 委員会中）。その他，コンビーナ（各 SC 委員会傘下の WG 主査）13 件（85WG 中），プロジェクトエディタ 延べ 84 名と昨年同様に貢献した。
- ② 重要な標準化領域に対しては新たな会員の参加を促しつつ積極的に貢献している。今年度から JTC1 総会が年 2 回開催されることになり，JAG(JTC 1 Advisory Group)の会議が開催されなくなった。それに伴い，JTC 1 直下にサブグループ 12 個（AG:Advisory Group 1 個，SWG:Special Working Group 2 個，SG:Study Group 7 個，AHG:Ad Hoc Group 2 個）が設置され，これに対応するため国内では，WG 以外のサブグループに一括して対応する JTC 1 サブグループ対応小委員会が活動を開始した。なおサブグループはその後，SWG，SG，AHG も全て AG とすることになり，2019 年度末時点で 14 個の AG が存在している。
- ③ 日本提案による国際標準化の推進としては，新業務項目（NP）の提案(承認済)6 件，国際標準（IS）などの発行されたもの 11 件などである。
- ④ 国際会議の日本での開催：JTC 1/SC 22，SC 24，SC 25，SC 34，SC 41，および SC 42 の計 6 件の国際会議を開催した。また，2020 年 11 月に岡山で開催される JTC 1 総会に向けて，着実に準備を進めている。
- ⑤ 標準化の対象が社会システムなど上位のレイヤに移るトレンドの中，JTC 1 が取り組むテーマが ISO，IEC，および ITU-T と重複する傾向が進んでいるため，JTC 1 と連携テーマがある ITU-T への国内対応委員会を設置している（一社）情報通信技術委員会（TTC）との連絡会を継続して開催した。

(2) 健全な情報規格調査会の運営の維持

- ① 国際標準化活動への参加・貢献の割合をできる限り維持することに努めた。260 回の標準化国際会議への参加者は，延べ 881 人であった。
- ② 今年度も引き続き，本部と情報規格調査会との連絡会を開催した。中長期戦略，予算策定など，情報共有を図りつつ運営を推進した。

(3) 広報活動とセミナーの実施

- ① 前年度に引き続き，委員会活動を広く紹介するための一般向けの広報誌としての活動報告を年 1 回発行した。
- ② 情報技術標準化フォーラム（2019年5月21日）：日本電信電話（株）高橋克巳氏による「データ利活用について一技術面から」，弁護士・ひかり総合法律事務所／理化学研究所革新知能統合研究センター客員主管研究員／国立情報学研究所客員教授 板倉陽一郎 氏による「データ利活用について一法制面から」の2件の講演を実施した。
- ③ SC42「AI×IoT の社会実装と標準化における課題と取り組み」，SC29「JPEG/MPEG 標準化の最新動向 2019～2020 年に向けた活動状況～」，SC7「事例と共に紹介するプロセスアセスメントの有効活用」の 3 件の短期集中セミナーを実施した。

(4) 表彰

標準化関連活動への貢献を顕彰するため，標準化貢献賞等を贈呈した。詳細は付録 5（p. 54）に掲載する。

10. 実施事業7：国際活動（定款第4条1項5号および2号）

10.1 関連する海外学協会との連携・協力

(1) International Federation for Information Processing (IFIP) 活動への参加 [所掌：IFIP 委員会]

- ① IFIP 日本代表、各 TC 日本代表の総会 General Assembly (GA) ・理事会 Council への参加
IFIP 総会（10月12日～13日キエフ（ウクライナ））に村山 IFIP 日本代表(兼 IFIP Vice President) が参加した。
- ② 2020年の IFIP 総会より、IFIP 日本代表が村山優子氏から相田仁氏に交代することとした。
- ③ 各 TC 日本代表が TC-meeting へ参加した。会誌（3月号）への活動報告、会議レポートの掲載のほか、メールニュース、Web を利用した情報発信を行った。
- ④ International Professional Practice Partnership (IFIP IP3) へ継続的に参画している（IP3は2015年10月に正式に IFIP の組織と承認された）。

(2) IEEE-Computer Society との連携・協力

- ① 2019年7月15日～19日にアメリカ ウィスコンシン州にて開催された The 43rd Annual International Computer Software & Applications Conference (COMPSAC2019) への技術協力を行った。
- ② 第82回全国大会において IEEE-CS 会長 Leila De Floriani 氏を招聘し招待講演を行い、IEEE-CS と当学会の情報交換を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により開催を中止した。
予定演題「Representation and analysis methods for spatial data visualization」
- ③ 2019年6月にフロリダ州で開催された IEEE-CS BoG meeting に本会論文誌担当理事が参加した。
- ④ 姉妹学会 MOU を継続し、会員向けの連携サービスを継続。
- ⑤ IEEE-CS と本会との Joint Award として、「IPSJ/IEEE-CS Young Computer Researcher Award」2名の受賞者を決定した。

(3) ACM との連携・協力

- ① ACM と本会との Joint Award として、「IPSJ/ACM Award for Early Career Contributions to Global Research」1名の受賞者を決定した。
- ② 第82回全国大会において、Joint Award 表彰式と ACM 会長 Cherri Pancakes 氏のメッセージ披露を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により開催を中止した。

(4) 海外学協会との連携・協力

- ① China Computer Federation (CCF) と Korean Institute of Information Scientists and Engineers (KIISE) との連携・協力
 - ・10月に中国、12月に韓国にて3学会によるCJK Meetingを行い交流を深めた。
 - ・10月のCCFの年次大会に本会から会長が出席した。また、CJK Joint Technical Forumへ参加した。
 - ・12月のKIISEの年次大会に本会から副会長が出席した。
 - ・第82回全国大会において、CCF President and Fellow Hong Mei 氏を招聘し招待講演を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により開催を中止した。
予定演題「Big Data in China」
 - ・第82回全国大会において、KIISE2020会長 Yunmook Nah 氏を招聘し招待講演を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により開催を中止した。
予定演題「Data Center Trends: Infrastructure for Intelligent Society」
- ② 他の海外学会との協力関係の継続
以下の海外学会との協力関係を継続するとともに、アジアの関連学会とは中長期的な交流に向けて

意見交換や相互訪問を行った。

- ・ Institute of Electrical and Electronics Engineers (IEEE)
- ・ Australian Computer Society (ACS)
- ・ SEARCC (South East Asian Regional Computer Confederation)
- ・ Computer Society of India (CSI)

③ The International Association for Pattern Recognition (IAPR) 活動への参加

(5) 国際会議の開催 (3 件)

※開催状況の詳細は付録4 (p. 48) に掲載する。

1 1. その他：関連学協会等との連携および協力（定款 4 条 1 項 6 号）

11.1 関連学協会・日本学術会議

(1) 日本工学会および電気・情報関連学会連絡協議会への参加

日本工学会事務研究委員会への参加、電気・情報関連学会連絡協議会への参加など関連学協会の共通の問題について意見交換を行った。

(2) 研究発表・学術講習会等の共催

電子情報通信学会との共催による「情報科学技術フォーラム (FIT)」ほか、研究発表会および学術講習会において、関連学協会等と適宜共催を行った。また、土木学会、電子情報通信学会と連携し第 43 回土木情報学シンポジウムの開催に協力した。

(3) 日本学術会議など関連団体等への協力

日本学術会議に協力学術研究団体として協力するとともに、理学・工学系学協会連絡協議会に参加した。

11.2 会議の協賛後援等

(1) 国内会議の協賛・後援等

「日本機械学会 第 32 回計算力学講演会」（一般社団法人 日本機械学会主催，2019 年 9 月 16 日～18 日開催）ほか、関連学協会等の会議の協賛・後援等 140 件を行った。

(2) 国際会議の協賛・後援等

「The 8th IIAE International Conference on Intelligent Systems and Image Processing 2020(ICISIP2020)」(一般社団法人 産業応用工学会主催，2020 年 8 月 27 日～31 日開催)ほか、関連学協会等の会議の協賛・後援等 17 件を行った。

1 2. 法人運営

12.1 入会促進

(1) 新規会員の獲得と会員減の防止

会員減対策として以下の施策を実施した。ジュニア会員については、ジュニア会員向けの諸活動が功を奏し増加となったものの、正会員の減少は依然継続しており、学生会員の入会も伸び悩み、今年度の個人会員合計は昨年度に比べ 99 名の減少となった。

- ① ジュニア会員制度を推進し若い世代の入会促進に努めた。

- ② 各活動において学会の価値向上策に取り組むとともに、理事を中心に、新規会員の勧誘および退会防止に努めた。
- ③ 連続セミナー・IT フォーラム 2020 の開催、デジタルプラクティス改革など実務家・IT エンジニアに向けた活動を推進した。なお、入会費用の無料施策により今年度は、CITP 認定者のうち 31 名（個人 7 名、企業 24 名）の無料入会があった。
- ④ 産業界に属する会員への学会価値向上に向けて検討を行った。
- ④ 2020 年度に小中学校教員新規入会キャンペーンの実施に向けた検討を進めた。

(2) 学生会員ならびにジュニア会員の獲得と育成

- ① ジュニア会員活性化委員会（時限）のもと、ジュニア会員関連施策の横連携の強化を図り、ジュニア会員向けサービスの強化、ジュニア会員が学生会員や正会員として会員を継続するようなフォローに関する検討を継続した。
- ② ジュニア会員制度を通じて若年層に学会活動を広く周知するとともに、ジュニア会員向けのセミナー「Exciting Coding! Junior」（2 回）、会誌「先生、質問です!」コーナー新設、ジュニア会員の論文掲載料無料化、支部でのジュニア会員向けイベント等々の施策を行い、学生会員育成活動を推進した。なお、全国大会での開催を予定していた中高生によるポスターセッション（中高生情報学研究コンテスト）は、新型コロナウイルス感染症の影響により全国大会の現地開催が中止となった為、オンライン審査により行った。
- ③ 学生・若手向けセミナーの企画開催など、学生会員の新規獲得と正会員への定着率の向上に努めた。
- ④ 研究会ならびに支部の協力により新規学生会員の獲得活動を実施し、学生会員の正会員への移行・定着の施策として 1 研究会への無料登録を継続した。
- ⑤ 学会ホームページ上でのジュニア会員向け Web ページのコンテンツを整備、リニューアルし入会メリットの訴求に努めた。

12.2 政策提言活動の推進

情報処理に対する一般社会の価値認識を高めるとともに、学会の存在感の向上を図り、国および関連機関から「頼られ&相談される学会」を目指して政策提言活動を推進し、文部科学省第 6 期科学技術基本計画を念頭に、近未来に向けたチャレンジングな研究課題を官民間で共有することを目指した「情報学の次世代」検討会に参加、協力を行った。

12.3 運営体制の充実・改善等

(1) 新世代発想の学会運営への取り込み

- ① 第 82 回全国大会において、IPJSJ-ONE（第 77 回に開始）を引き続き実施し、さらに、初音ミクのファンメイドミニライブとして IPJSJ-39（ミク）を電気通信大学のバーチャルライブ研究会の協力を得て実施を予定していたが、新型コロナウイルス感染症による影響で全国大会の現地開催が中止となった為、開催を中止した。
- ② 2018 年度に開始した会誌記事「先生、質問です!」の連載を引き続き行い、情報系の研究の魅力や情報社会の方向性に関する情報発信を行った。
- ③ 学生会員・ジュニア会員の入会促進、そして育成に資するサービスやイベントの充実に向け、プログラミング教育を手掛けるスタートアップと協力関係を築いた。
- ④ 民間企業との共同研究を促進させるために、情報学広場のコンテンツを活用した共同研究マッチングのスキームについて、民間共同研究マッチング企業と連携を開始した。

(2) 長期的ビジョンの継続体制の確立

長期戦略理事のもと、各事業の健全な継続性に向けてまずは現状把握と課題の洗い出しを中心に、各担

当理事および支部長から意見を収集し検討を進め課題整理を行った。引き続き次年度に向けて各課題の解決方法等の検討を進めていく。

(3) アドバイザリーボードによる運営改善

「魅力ある学会」に向け、学会活動に関する中長期計画を踏まえつつ、第三者機関であるアドバイザリーボードミーティングを2019年7月に開催し、ボードメンバーからの助言を実施事業の企画および運営の改善に役立てた。

(4) 広報活動の推進・諸活動のデータ収集

- ① 学会 Web の充実の他、Facebook, Twitter ならびに App Store への会誌とデジタルプラクティスの掲載、本会公式ニコニコチャンネルなどソーシャルメディアを活用した積極的な広報活動を推進した。
- ② 各種行事等の場での入会促進および学会紹介、IPSJ メールニュースの内容充実を図った。
- ③ 会員の入退会、大会・セミナー等への投稿・申込み状況、会誌等のモニタ会員による評価など、関連データの収集・分析を継続し諸活動の評価・改善に努めた。
- ④ 学会の重要な広報チャネルである学会ホームページについて、わかりにくいとの声が多数寄せられているため、まずは現状の問題点の洗い出しに着手。今後優先順位をつけて改善を推進する。

(5) 会員サービスの充実に向けた学会情報システムの見直し

今年度は、2018 年度に運用を開始した学会システムの拡充、全支部 Web サイトの ISP を統一し、セキュリティ強化を行った。

(6) 2018 年度監事付帯意見への対応

2018 年度監事付帯意見（2019 年 6 月開催の第 636 回理事会に監事が提出）について、改善策の検討ならびに学会運営および中長期計画への反映などの対応を実施し、結果を 644 回理事会（2020 年 4 月）で報告した。監事付帯意見は、各事業の評価と継続・維持・統廃合の判断について、ジュニア会員の継続的獲得の 2 項目からなり、前者については、企画政策委員会、長期戦略理事が中心となって今年度まずは各事業の現状把握と課題の洗い出しを中心に検討を進め、次年度はその解決方法について財務的な視点も含め進めていくこととした。また後者については、この活動の主旨として単に本会の有料学生会員を増やすということだけが目的ではなく、今後「情報」の重要性が高まっていく中で我が国の情報分野に関わる人の層を厚くし、広げていくというような視点こそが重要であり、ジュニア会員活性化委員会ではこうした視点での施策並びに効果の観察法についても検討を継続しつつ、ジュニア会員向けの各種施策やジュニア会員の拡大並びに定着化を図っていく。

(7) 著作権関連 [所掌：著作権委員会]

著作権の利用許諾に関する対応などを行った。また、最高裁に対し知的財産権担当専門委員 17 名の推薦を行った。

(8) 参加しやすい総会を目指した取り組み [所掌：総務財務運営委員会]

普段交流の少ない賛助会員にも学会活動に親しんでもらうことを目指し、2019 年 6 月の総会において講演会（「Situation as a New Computational Abstraction for Human-Embedded Computing」, 「企業研究者から政治の世界へ ～ ICT を活用した政策の実現に向けた取り組み」）や交流会の実施、本会コンピュータ博物館の歴史遺産の一つである「トランジスタ計算機 K-1」の展示を行い 24 社のご参加を頂いた。また、歴代会長の懇談会を行い、学会に関する意見交換を行った。

(9) ダイバーシティへの取り組み [所掌：Info-WorkPlace 委員会]

- ① IT 界における後期高齢者ロールモデルとして若宮正子氏のインタビューを行い、会誌 60 巻 6 号に記事を掲載した（60 巻 6 号）。
- ② 第 81 回全国大会で行ったイベント企画「来たれ！ワークライフバランス伝道師」の登壇者執筆による

小特集「ワークライフバランス」を編集し、会誌 60 巻 8 号に掲載した。

- ③ 2019 年 8 月に行われたイベント「女子中高生夏の学校 2019～科学・技術・人との出会い～」に唯一の情報系団体として出展した。
- ④ 12 月 15 日に親子で情報処理技術に触れるワークショップ「電子工作でクリスマス飾りを作ろう会 2019」を enPiT WiT 女性部会と共催した。

12.4 その他表彰等

(1) 顕彰、名誉会員・フェローの選定など

功績賞，学会活動貢献賞の贈呈のほか，フェロー認定，情報処理技術遺産認定を行った。詳細は付録 5 (p. 49, p. 53) に掲載する。

(2) 学会運営サポート

健全な法人運営のために，監査法人のほか弁護士，税理士，社労士との顧問契約を継続している。

(3) 事務局職員

事務局常勤職員の年度末在籍者は 27 名（本部 20 名，規格 7 名，前年末は 28 名）である。

以上

付1. 会議等に関する事項（総会、理事会、各種委員会）

■総会

[2019年度定時総会の構成（定款・法人法上の社員）]

総代表会員数：128名

※総会成立定数：65名

*会議の結果はいずれも全会一致

開催年月日	議事事項	会議結果
2019年度定時総会 2019年6月5日 議長：西尾章治郎（会長） 出席：116名（内、委任状68名）	<決議事項> 第1号議案：2018年度に係る財務諸表等の件 第2号議案：新名誉会員の推薦の件 第3号議案：一般規則の改訂 第4号議案：一部役員の任期満了による新役員の選任の件 <報告事項> 第1号報告：2019年度に係る計画等の件 第2号報告：会費滞納会員の取り扱いの件 <表彰（議事終了後）> 功績賞、フェロー、論文賞、業績賞、研究開発賞、教材賞、学会活動貢献賞、感謝状	承認 承認 承認 承認 報告 報告 ---

■理事会

[第636回までの構成（理事26名）]

会 長：西尾章治郎

副 会 長：浅井光太郎、岡部寿男

先任理事：荒木拓也、伊藤 智、大内一成、河内谷清久仁、重野 寛、関口智嗣、谷口倫一郎、富士 仁、坊農真弓、美馬のゆり、
屋代智之

後任理事：川原圭博、楠 房子、倉本 到、栗原英俊、佐藤真一、高橋克巳、田島 玲、寺田 努、中野美由紀、並木美太郎、
平井規郎、湊 真一

監 事：砂原秀樹、串田高幸

[第637回以降の構成（理事27名）]

会 長：江村克己

副 会 長：岡部寿男、中川八穂子

先任理事：川原圭博、楠 房子、倉本 到、栗原英俊、佐藤真一、高橋克巳、田島 玲、寺田 努、中野美由紀、並木美太郎、
平井規郎、湊 真一

後任理事：伊藤 智、鬼塚 真、小野寺民也、窪田 歩、清水佳奈、下條真司、高橋尚子、田中淳裕、長 健太、西垣正勝、
西山博泰、本田新九郎

監 事：串田高幸、渡辺 尚

※理事会成立定数：14名

*会議の結果はいずれも全会一致

開催年月日	議事事項 ※〔 〕内：担当理事	会議の結果
決議の省略・報告の省略 2019年4月19日（監事確認日）	<法令および定款により理事会決議があったものとする事項>	
議決可能理事数：全議案とも26名	1. 2019年3月の新規入会申請〔総務〕	承認
	2. 2019年度終身会員の承認について〔総務〕	承認
	3. 支部運営委員会構成について〔総務〕	承認
	4. シンポジウム等の開催願い/終了報告〔調査研究〕	承認
	5. 国内会議の協賛・後援等依頼〔事業〕	承認
	6. 国際会議の協賛・後援等依頼〔事業〕	承認
	7. スーパーコンピューティングコンテストへの共催申請および寄付の扱い・運用要項(案)について〔教育〕	承認
	8. 情報規格調査会委員の変更〔標準化〕	承認
	9. 平成31年度JIS原案共同作成事業に関する契約締結の承認願い〔標準化〕	承認
	<法令および定款により理事会報告があったものとする事項>	
	1. 2019年3月期開催会議〔総務〕	確認
	2. 2019年度支部報告会日程および担当役員について〔総務〕	確認
	3. 2018年度功績賞受賞者：推薦文等〔総務〕	確認
	4. 2019年本田賞の推薦について〔総務〕	確認
	5. 第16回日本学術振興会賞の推薦について〔総務〕	確認
	6. 理事からのメッセージ〔会誌〕	確認
	7. 第66回情報処理学会教科書編集委員会議事録〔会誌〕	確認
	8. 第83回調査研究運営委員会議事録〔調査研究〕	確認
	9. 第459回論文誌ジャーナル/JIP編集委員会（幹事会）議事録（抜粋）〔論文誌〕	確認
	10. 第55・56回セミナー推進委員会議事録〔技術応用〕	確認
	11. 第104回デジタルプラクティス編集委員会議事録〔技術応用〕	確認
	12. 第50回企業認定審査委員会議事録〔技術応用〕	確認
	13. 第81回全国大会開催報告〔事業〕	確認

[illegible]

	参：理事会アクションアイテムリスト	確認
決議の省略・報告の省略 2019年7月29日（監事確認日） 議決可能理事数：全議案とも27名	<法令および定款により理事会決議があったものとする事項> 1. 2019年6月の新規入会申請〔総務〕 2. シンポジウム等の開催願ひ〔調査研究〕 3. ASP-DAC2021国際会議開催申請書（再提出）〔調査研究〕 4. 編集規程/トランザクション編集集議運営細則改訂案〔論文誌/調査研究〕 5. 国内会議の協賛・後援等依頼〔事業〕 6. 平成31年度委託契約「IoTセキュリティガイドラインの国際標準化」締結承認申請〔標準化〕 7. 平成31年度委託契約「IoT向け通信 PF の通信プロトコル等に関する国際標準化」締結承認申請〔標準化〕 8. 情報規格調査会委員の変更〔標準化〕 <法令および定款により理事会報告があったものとする事項> 1. 2019年6月期開催会議〔総務〕 2. 2019年6月月次損益管理表〔財務〕 3. 2019年度マイクロソフト情報学研究賞・情報処理技術研究開発賞選定手続きについて〔総務〕 4. 第49回新世代企画委員会議事録〔総務〕 5. 第3回ジュニア会員活性化委員会議事録〔総務〕 6. 日本工学会フェローについて（認定報告）〔総務〕 7. 第244・245回会誌編集委員会議事録、会誌特集・巻頭コラム一覧、理事からのメッセージ〔会誌〕 8. 第66回情報処理学会教科書編集委員会議事録〔会誌〕 9. 第461回論文誌ジャーナル/JIP 編集委員会（幹事会）議事録抜粋〔論文誌〕 10. 第59回セミナー推進委員会議事録〔技術応用〕 11. 第107・108回デジタルプラクティス編集委員会議事録、特集一覧〔技術応用〕 12. 第53回資格制度運営委員会議事録〔技術応用〕 13. 第61回個人認証審査委員会議事録〔技術応用〕 14. 第52・53回企業認定審査委員会議事録〔技術応用〕 15. 2019年度第2回全国大会運営委員会・第82回全国大会第1回プログラム委員会合同委員会議事録〔事業〕 16. FIT運営委員会（通算70回）〔事業〕 17. 第71回プログラミングコンテスト委員会議事録〔事業〕 18. 第367回規格役員会議事録〔標準化〕	承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認
決議の省略・報告の省略 2019年8月30日（監事確認日） 議決可能理事数：全議案とも27名	<法令および定款により理事会決議があったものとする事項> 1. 2019年7月の新規入会申請〔総務〕 2. 会誌連載記事「IT 紀行」取材のための旅費・謝金について〔会誌〕 3. シンポジウム等の開催願ひ/終了報告〔調査研究〕 4. 2019年度山下記念研究賞受賞候補者一覧〔調査研究〕 5. 2019年度情報処理学会短期集中セミナーの開催について〔技術応用〕 6. 2019年度第1回CITP個人認証合格者承認依頼〔技術応用〕 7. 国内会議の協賛・後援等依頼〔事業〕 8. 国際会議の協賛・後援等依頼〔事業〕 9. データサイエンス教育委員会設立について〔教育〕 10. 平成31年度委託契約「IoT相互運用性に関する国際標準化」締結承認申請〔標準化〕 <法令および定款により理事会報告があったものとする事項> 1. 2019年7月期開催会議〔総務〕 2. 2019年7月月次損益管理表〔財務〕 3. 2020年度役員・代表会員選挙日程〔総務〕 4. 第50回新世代企画委員会議事録〔総務〕 5. 第1～3回情報システム委員会議事録〔総務〕 6. 第246回会誌編集委員会議事録、会誌特集・巻頭コラム一覧、理事からのメッセージ〔会誌〕 7. 各領域委員会報告（議事録抜粋）〔調査研究〕 8. 第22回技術応用運営委員会・第14回ITフォーラム推進委員会合同委員会議事録〔技術応用〕 9. 第54回資格制度運営委員会議事録〔技術応用〕 10. 第62回個人認証審査委員会議事録〔技術応用〕 11. 第54回企業認定審査委員会議事録〔技術応用〕	承認 再提案 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認
第640回理事会 2019年9月20日 議長：江村克己（会長） 議決可能理事数：全議案とも27名	<承認事項> 1. 会誌連載記事「IT 紀行」取材のための予算について（再提案）〔会誌〕 2. コンテンツ配布に關しての提案〔会誌〕 3. APSEC2018国際會議終了報告書〔調査研究〕 4. ASP-DAC2019国際會議終了報告書〔調査研究〕 5. ICMU2020国際會議開催申請書〔調査研究〕	承認 承認 承認 承認 承認

[illegible]

議長：江村克己（会長） 出席：役員・支部長	2. 各支部からの状況報告 3. 中長期戦略について	確認 確認
決議の省略・報告の省略 2019年12月24日（監事確認日） 議決可能理事数：全議案とも27名	<法令および定款により理事会決議があったものとする事項> 1. 2019年11月の新規入会申請〔総務〕 2. 2020年度役員選挙理事会推薦最終候補者〔総務〕 3. 2020年度代表会員最終候補者〔総務〕 4. マイページでの「会誌送付の選択」機能追加について〔企画〕 5. シンポジウム等の開催願い/終了報告〔調査研究〕 6. 2019年デジタルプラクティス論文賞について〔技術応用〕 7. FIT運営委員会規程改訂について〔事業〕 8. 国内会議の協賛・後援等依頼〔事業〕 9. 国際会議の協賛・後援等依頼〔事業〕 <法令および定款により理事会報告があったものとする事項> 1. 2019年11月期開催会議〔総務〕 2. 2019年11月月次損益管理表〔財務〕 3. 第186回総務財務運営委員会議事録〔総務〕 4. 2019年度第8回企画政策委員会議事録〔総務〕 5. 第51・52回新世代企画委員会議事録〔総務〕 6. 第249回会誌編集委員会議事録、会誌特集・巻頭コラム一覧、理事からのメッセージ〔会誌〕 7. 2019年度第1回出版委員会議事録〔会誌〕 8. 第466回論文誌ジャーナル/JIP編集委員会（幹事会）議事録抜粋〔論文誌〕 9. 2019年度第1回論文賞選定委員会（ジャーナル）議事録〔論文誌〕 10. トランザクション編集委員会の設立について〔調査研究〕 11. 第24回技術応用運営委員会・第17回ITフォーラム推進委員会合同委員会議事録〔技術応用〕 12. 2019年度第4回全国大会運営委員会・第82回全国大会第3回プログラム委員会合同委員会議事録〔事業〕 13. FIT2019学術賞選定委員会議事録〔事業〕 14. 第75回プログラミングコンテスト委員会議事録〔事業〕 15. 第371回規格役員会議事録〔標準化〕	承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認
第642回理事会 2020年1月28日 議長：江村克己（会長） 議決可能理事数：全議案とも27名 出席理事数：22名	<承認事項> 1. 名誉会員の推薦について〔総務〕 2. データサイエンティスト戦略委員会設立について〔技術応用/教育〕 3. 初等中等教育機関の教職員を対象とした割引キャンペーンについて〔教育〕 4. 作業委員会（教員研修教材MOOCワーキンググループ）設置のお願い〔教育〕 <審議事項> 1. 事業計画・予算ほか〔総務/財務〕 （1）2020年度事業計画（1次）・2019年度報告（1月現在） （2）2020年度予算（1次）・2019年度決算見込（1月現在） <報告事項> 1. 法令・定款による理事の職務執行状況報告（9月-11月）〔総務〕 2. 2019年度会員状況（2019年12月現在）〔総務〕 3. 各事業の健全な継続性に向けて（中長期戦略）〔企画〕 4. 学会Webページ他についてのアンケート報告〔総務〕 5. 第187回総務財務運営委員会議事録〔総務〕 6. 2019年度第9回企画政策委員会議事録〔総務〕 7. 会誌広告状況（2020年1月現在）〔会誌〕 8. 第58・59回資格制度運営委員会議事録〔技術応用〕 参. 理事会アクションアイテムリスト	承認 承認 承認 承認 継続検討 継続検討 確認 確認 継続検討 確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認
決議の省略・報告の省略 2020年1月31日（監事確認日） 議決可能理事数：全議案とも27名	<法令および定款により理事会決議があったものとする事項> 1. 2019年12月の新規入会申請〔総務〕 2. 2020年度支部予算配分額〔総務〕 3. 感謝状／学会活動貢献賞の選定について〔総務〕 4. 2019年度マイクロソフト情報学研究賞／情報処理技術研究開発賞について〔総務〕 5. 日本工学会フェロー候補者の推薦について〔総務〕 6. シンポジウム等の開催願い〔調査研究〕 7. 委員長の任期延長について（プログラミング・シンポジウム運営委員会）〔事業〕 8. 国内会議の協賛・後援等依頼〔事業〕 9. 国際会議の協賛・後援等依頼〔事業〕 10. 教員免許更新講習関連作業従事者への旅費・謝金支給について〔教育〕 11. 情報規格調査会委員の変更〔標準化〕 <法令および定款により理事会報告があったものとする事項> 1. 2019年12月期開催会議〔総務〕 2. 2019年12月月次損益管理表〔財務〕 3. 第53回新世代企画委員会議事録〔総務〕	承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認

[illegible]

■各種委員会

※委員は6月以降の構成を掲載（以下、同）

◎委員長・主査、○副委員長・財務委員、幹事・副査、△担当理事（担務）、*オブザーバ、アドバイザ委員

1. 創立60周年記念事業

1.1 記念事業実行委員会

◎江村克己、○岡部寿男、○中川八穂子、平井規郎、窪田 歩、栗原英俊、田中淳裕、寺田 努、本田新九郎、中野美由紀、長 健太、楠 房子、清水佳奈、湊 真一、下條真司、東野輝夫、発田 弘

[7月22日、11月21日、'20年3月27日] 記念事業全体の推進

1.2 記念全国大会運営委員会（＝第82回全国大会運営委員会）

◎/△岡部寿男、●/△中野美由紀、△長 健太、倉本 到、中沢 実

[6月27日、8月20日、12月5日ほか電子メールベース] 記念全国大会の推進

1.3 記念全国大会プログラム委員会（＝第82回全国大会プログラム委員会）

◎中沢 実、○河並 崇、△中野美由紀、△長 健太、斎藤正史、中沢 憲二、楠 房子、長尾篤樹、佐藤未来子、青木秀一、谷田英生、古川雅子、中田眞城子、井上弘士、三村 守、土田修平、大平雅雄、千石 靖

[6月27日、8月20日、12月5日ほか電子メールベース] 記念全国大会の企画・運営・実施

1.4 記念会誌編集委員会（＝会誌編集委員会）

◎稲見昌彦、○大山恵弘、○加藤由花、○中田眞城子、△楠 房子、△清水佳奈、井本和範、江渡浩一郎、大石康智、大川徳之、太田智美、川上 玲、佐藤史子、城島貴弘、須川賢洋、田名部元成、鳥澤健太郎、福地健太郎、坊農真弓、水野加寿代、茂木和彦、湯村 翼、谷田英生、坂東宏和、金子 格、間瀬正啓、戸田貴久、山本優歌、吉野松樹

[4月15日、5月13日、6月10日、7月1日、8月19日、9月9日、10月7日、11月18日、12月16日、'20年1月15日、2月17日、3月2日]

記念会誌の企画・編集

1.5 記念論文選定委員会（＝論文誌担当理事、調査研究担当理事、各論文誌編集長）

◎湊 真一、小川剛史、清原良三、倉本 到、斎藤英雄、柴山悦哉、下條真司、高橋篤司、竹中要一、建部修見、中山泰一、灘本明代、並木美太郎、西垣正勝、西田知博、西田直樹、藤井 敦、棟朝雅晴、吉川正俊

[電子メールベース] 記念論文の企画・選考

1.6 60年のあゆみ編集委員会

◎東野輝夫、○岡部寿男、浅井光太郎、伊藤 智、屋代智之、寺田 努、柴山悦哉、中川八穂子

[6月3日、9月17日、11月8日、12月10日、12月26日、'20 1月20日、1月29日、2月21日] 60年のあゆみ編集の推進

1.7 記念出版委員会

◎発田 弘、○旭 寛治、△楠 房子、△清水佳奈、高橋義雄、橋爪宏達、前島正裕、松永俊雄

[1月26日] 情報処理技術遺産とオーラルヒストリの書籍化推進

1.8 記念式典実施委員会

◎岡部寿男、○中川八穂子、○窪田 歩、○田中淳裕、平井規郎、栗原英俊

[7月12日、9月10日、10月24日、11月12日、12月5日、'20年1月16日、2月27日、3月16日] 記念式典開催の推進

1.9 記念事業総務財務委員会

◎岡部寿男、○中川八穂子、平井規郎、栗原英俊、窪田 歩、田中淳裕

[5月29日、7月12日、9月10日、10月24日、11月12日、12月5日、'20年1月16日、2月27日、3月16日]

記念事業の全体調整／予算執行管理／記念式典の企画立案

2. 法人運営

2.1 企画政策委員会

◎/△岡部寿男、○/△中川八穂子、川原圭博、倉本 到、栗原英俊、高橋克巳、寺田 努、並木美太郎、平井規郎、鬼塚 真、小野寺民也、窪田 歩、田中淳裕、西垣正勝、西山博泰、本田新九郎

[4月24日、5月29日、6月19日、7月12日、9月10日、10月24日、11月12日、12月5日、'20年1月16日、2月27日、3月16日]

監事付帯意見対応／アドバイザリーボード対応／中長期戦略に関する検討／会員サービスに関する検討ほか

2.2 政策提言委員会

◎/△岡部寿男、○/△寺田 努、本田新九郎、小野寺民也、倉本 到、栗原英俊、高橋克巳、並木美太郎、西垣正勝、平井規郎

[電子メールベース] パブコメ対応 ほか

2.3 総務財務運営委員会

◎/△中川八穂子、○/△平井規郎、○/△栗原英俊、△窪田 歩、△田中淳裕、△高橋克巳、△小野寺民也

[4月24日、5月29日、6月19日、7月12日、9月10日、10月24日、11月12日、12月5日、'20年1月16日、2月27日、3月16日]

総会関連事項／損益状況／研究倫理対応／その他運営上の諸課題の検討対応

2.3.1 本部・規格連絡会

◎中川八穂子、○/△伊藤 智、○栗原英俊、平井規郎、○関 喜一、河合和哉、山本英朗、福田昭一、伊藤雅樹、落合真一

[12月26日] 本部・規格調査会間の連絡

2.4 情報システム委員会（電子化委員会より名称変更）

◎栗原英俊、○田中淳裕、窪田 歩、砂原秀樹、平井規郎

[6月4日、8月7日、10月11日、'20年1月24日] 情報システムに関する諸対応

2.4.1 セキュリティ委員会

◎砂原 秀樹、大谷和子、△窪田 歩、△栗原英俊、佐々木良一、△田中淳裕、寺田真敏、鳥居 悟、△平井規郎、丸山 宏

[電子メールベース] 情報セキュリティに関する諸対応

2.5 新世代企画委員会

◎川原圭博、○鬼塚 真、△小野寺民也、五十嵐悠紀、梶川 光一、鍛冶口結衣、桂井麻里衣、△楠 房子、△栗原 英俊、樺 惇志、△高橋 克巳、田島 玲、△中野美由紀、△平井規郎、村尾和哉、譲原洸樹

[4月24日、5月22日、7月5日、8月20日、9月27日、12月18日、'20年1月22日、2月27日]

新世代（学生・若手研究者・若手技術者）の発想を学会運営に取り込むための施策を検討、実施

2.6 Info-WorkPlace委員会

◎木塚あゆみ、△倉本 到、楠 房子、清水佳奈、伊東 香、大場みち子、小山清美、加藤由花、佐藤真一、高橋尚子、田島 玲、長 健太、永瀬美穂、中野美由紀、西山博泰、坊農真弓、渡辺知恵美

[6月12日、10月24日、'20年1月30日] ダイバーシティ社会を活性化するための施策を検討、実施

2.7 ジュニア会員活性化委員会（時限）

◎佐藤真一、○高橋尚子、川原圭博、楠 房子、田島 玲、寺田 努、中野美由紀、鬼塚 真、清水佳奈、長 健太、西山博泰、本田新九郎、伊藤一成、兼宗 進、北村操代、杉田由美子、高岡詠子、吉田 葵、和田 勉

[7月9日、9月18日、12月24日、'20年3月24日] ジュニア会員向け活動の活性化

2.8 データサイエンティスト戦略委員会（時限）

◎中川八穂子、○岡部 寿男、佐藤 真一、高橋 尚子、加藤 浩、萩谷 昌己、浅井 光太郎、田島 玲、西山 博泰、西 直樹、旭 寛治、掛下 哲郎、*小野寺 民也、*高橋 克巳

['20年3月16日] データサイエンティスト領域における当会の活動についての基本方針策定

2.9 支部長会議

◎/△江村克己、△岡部寿男、△中川八穂子、△平井規郎、△栗原英俊、△窪田 歩、△田中淳裕、各支部長：杉本雅則（北海道）、大町真一郎（東北）、大島哲也（東海）、堀田裕弘（北陸）、増澤利光（関西）、會澤邦夫（中国）、高橋 寛（四国）、梅田政信（九州）

[9月20日、12月11日（役員検討会）] 本部-支部の意見交換

2.10 アドバイザリーボード

◎中村道治、荒川 薫、有川節夫、稲田修一、井上友二、宇治則孝、小原 格、辻 篤子、永井良三、藤原 洋

[7月8日] 第三者的な見地からの情報処理学会の運営に関する助言

3. 調査研究活動

3.1 調査研究運営委員会

◎/△倉本 到、○/△並木美太郎、○/△西垣正勝、石川佳治、清原良三、小林 稔、酒井哲也、西田知博、森嶋厚行

開催年月日	主な議事事項	会議結果
2019年6月13日	1. 2019年度委員構成確認 2. 2020年度調査研究活動への学会補助額について 3. 2020年度共通費の賦課について 4. 2020年度シンポジウム事務諸費について 5. 60周年記念会誌特集号「2050年の情報処理」について 6. 退任主査への貢献賞の授与について	確認 承認⇒ 各領域・研究会に提案 承認⇒ 各領域・研究会に提案 承認⇒ 各領域・研究会に提案 承認⇒ 各領域・研究会に提案 承認⇒ 各領域・研究会に提案 確認・継続審議
2019年10月2日 (調研・3領域合同)	1. 2020年度研究会登録費算定方法 2. 研究会の継続・新設について 3. 情報学の次世代検討会報告	承認⇒ 理事会報告 承認⇒ 理事会報告 確認
2020年3月25日	1. 情報保障への補助について 2. 新型コロナウイルス感染症への対応について 3. 研究会活動貢献賞について 4. 監事付帯意見への対応状況／事業報告／事業計画 5. 2019年度活動状況／2020年度計画 6. 第33回IFIP委員会報告	承認 確認 確認 確認 確認 確認

3.2 コンピュータサイエンス領域委員会（山下記念研究賞選定委員会を兼ねる）

◎/△並木美太郎、○森嶋厚行、井上弘士、岩下武史、光来健一、関嶋政和、瀧本英二、田宮 豊、西田直樹、丸山勝久、吉川正俊、渡辺晴美

2019年6月28日	領域共通-1. 2019年度山下記念研究賞 領域共通-2. 2020年度調査研究活動への学会補助額について 領域共通-3. 2020年度共通費の賦課について 領域共通-4. 2020年度シンポジウム事務諸費について 領域共通-5. 60周年記念会誌特集号「2050年の情報処理」について 領域共通-6. 2018年度調査研究活動状況および決算報告	選定⇒ 理事会提案 承認 承認 承認 確認 確認
2019年10月2日 (調研・3領域合同)	調査研究運営委員会に同じ。	
2020年2月18日	領域共通-1. 2020年度領域委員長・財務委員について 領域共通-2. 監事付帯意見への対応状況／事業報告／事業計画 領域共通-3. 2019年度活動状況／2020年度計画 領域共通-4. 第33回IFIP委員会報告	確認・承認 確認 確認 確認

3.3 情報環境領域委員会（山下記念研究賞選定委員会を兼ねる）

◎/△西垣正勝、○清原良三、秋元良仁、井上創造、太田 賢、木村朝子、児玉公信、斉藤典明、重野 寛、田上敦士、寺田真敏、内藤 整、難波英嗣、松浦 博、水野慎士、宮下健輔、森信一郎、山内利宏

[7月11日、10月2日(調研・3領域合同)、『20年2月26日] コンピュータサイエンス領域委員会の領域共通事項に同じ。

3.4 メディア知能情報領域委員会（山下記念研究賞選定委員会を兼ねる）

◎/△倉本 到、○西田知博、井村誠孝、緒方広明、兼宗 進、川村秀憲、倉田博之、澤田秀之、鹿内菜穂、関根 聡、鶴岡慶雅、土橋宜典、中野倫靖、長原 一、西村雅史、原田要之助

[7月25日、10月2日(調研・3領域合同)、『20年2月19日] コンピュータサイエンス領域委員会の領域共通事項に同じ。

4. 人材育成活動

4.1 資格制度運営委員会 ※傘下のWGは掲載略

◎西 直樹、○吉野松樹、△田島 玲、△西山博泰、旭 寛治、掛下哲郎、寛 捷彦、玉井哲雄、林 雅弘、深澤良彰

[4月16日、5月23日、6月17日、7月29日、9月12日、10月24日、11月22日、12月20日、1月31日、2月28日、3月27日]

認定情報技術者制度の検討

4.2 情報処理教育委員会（教育賞選定委員会を兼ねる） ※傘下の委員会は掲載略

◎萩谷昌己、●佐渡一広、○辰己丈夫、○松永賢次、△佐藤 真一、△高橋尚子、石川 洋、稲垣知宏、植原啓介、上松恵理子、大岩 元、角田博保、寛 捷彦、掛下哲郎、加藤 浩、金寺 登、*神沼靖子、兼宗 進、久野 靖、斎藤俊則、酒森 潔、高岡詠子、高田真吾、長尾和彦、中谷多哉子、中山泰一、松澤芳昭、美馬のゆり、*鷺崎弘宜、和田 勉

[5月14日、7月2日、9月10日、11月19日、『20年1月20日、3月17日]

JABEE対応／情報学分野の参照基準／次期学習指導要領改訂／免許更新講習／傘下の小委員会報告ほか

5. 事業活動

5.1 事業運営委員会

◎/△中野美由紀、●/△長 健太、西垣正勝

[電子メールベース] 全国大会、FIT、その他イベントの運営推進

5.2 全国大会運営委員会 ※プログラム委員会、現地実行委員会は掲載略

◎/△岡部寿男、●/△中野美由紀、△長 健太、倉本 到、中沢 実

[6月27日、8月20日、12月5日ほか電子メールベース] 全国大会の運営・開催推進

5.3 FIT運営委員会 ※情報科学技術推進委員会・幹事会・実行委員会・プログラム委員会は掲載略

◎岡部寿男、●佐藤洋一、○柏野邦夫、中川八穂子、△中野美由紀、西垣正勝、前田英作、佐藤真一、金子寛彦、△長 健太、宇都木契、椿 郁子、河村 圭、松高 靖、寺尾 真、蔵田武志

[7月10日、10月15日ほか電子メールベース] FITの運営・開催推進

5.4 プログラミング・シンポジウム幹事会 ※運営委員会は掲載略

◎横山大作、浅野智之、大島 聡、大日向大地、新屋良磨、対馬かなえ、三廻部 大

[5月31日、10月17日、12月16日、'20年2月26日] 夏のプロシン／若手の会／冬のプロシンの開催推進

5.5 プログラミングコンテスト委員会

◎平石 拓、*鷺崎弘宜、△寺田 努、△長 健太、近山 隆、深澤紀子、坂本一憲、高田真吾、田中哲朗、小林祐樹、河内谷清久仁、三輪 誠、横山大作

[6月17日、7月16日、8月26日、9月27日、10月31日、11月29日、'20年1月27日、3月13日]

プログラミングコンテストの開催推進

5.6 技術応用運営委員会

◎浅井光太郎、○中川八穂子、○/△田島 玲、△西山 博泰、窪田 歩、田中 淳裕、本田 新九郎、細野 繁、旭 寛治、西 直樹、高橋 克巳、*吉野松樹

[7月3日、8月30日、12月6日、'20年3月19日 ほか電子メールベース] 技術応用活動全体の調整・推進

5.7 ITプロフェッショナル委員会

◎旭 寛治、△平井規郎、△田島 玲、筧 捷彦、掛下哲郎、西 直樹、林 雅弘、深澤良彰

[11月8日 ほか電子メールベース] 情報処理技術者のプロフェッションの確立と人材育成

5.8 セミナー推進委員会

◎/△田島玲、○/△西山博泰、荒木拓也、北村操代、那須川哲哉、齋藤正史、浦本直彦、中野美由紀、杉田由美子、平山敏弘、海老澤竜、福島俊一、青木秀一、吉田 葵、稲葉 利江子

[4月19日、5月24日、6月20日、7月22日、9月10日、10月11日、11月11日、12月16日、'20年1月31日、2月25日、3月]

連続セミナー・短期集中セミナーの開催推進

5.9 ITフォーラム推進委員会 ※ソフトウェアジャパン関連委員会は掲載略

◎/△田島 玲、○/△西山 博泰、諏訪良武、河合 洋、平林元明、河口信夫

[7月3日、8月30日、10月21日、12月6日、'20年3月27日 ほか電子メールベース] ITフォーラム・ソフトウェアジャパンの運営推進

6. 会誌

6.1 会誌編集委員会

◎稲見昌彦、○大山恵弘、○加藤由花、○中田真城子、△楠 房子、△清水佳奈、井本和範、江渡浩一郎、大石康智、大川徳之、太田智美、川上 玲、佐藤史子、城島貴弘、須川賢洋、田名部元成、鳥澤健太郎、福地健太郎、坊農真弓、水野加寿代、茂木和彦、湯村 翼、谷田英生、坂東宏和、金子 格、間瀬正啓、戸田貴久、山本優歌、吉野松樹

[4月15日、5月13日、6月10日、7月1日、8月19日、9月9日、10月7日、11月18日、12月16日、'20年1月15日、2月17日、3月2日]

全回共通：会誌の編集刊行

7. 機関誌／出版活動

7.1 論文誌運営委員会

◎/△湊 真一、△倉本 到、△下條真司、△並木美太郎、△西垣正勝

[電子メールベース] 論文誌全体に関する諸課題の対応

7.2 JIP編集委員会（幹事会）

◎柴山悦哉、○/△湊 真一、ほか「6.3 ジャーナル編集委員会（幹事会）」メンバ

*Adam KOZYNIAK、*Monica CARLY、*Robert DELANEY、*Sylvain KAMDEM

【海外編集委員】 Audun JOSANG（ノルウェー）、Jungsuk SONG（韓国）、M.M. Hafizur Rahman（マレーシア）

[4月9日、5月8-9日、6月11日、7月3日、9月11日、10月3日、11月7日、11月29日、'20年1月16日、2月4日、3月10日]

全回共通：JIPの編集刊行

7.3 論文誌ジャーナル編集委員会（幹事会）

◎中山泰一、○/△湊 真一、○大平雅雄、○野呂正明、○波多野大督、○真鍋宏幸、阿倍博信、市野将嗣、片山 薫、末代誠仁、北原鉄朗、中嶋秀治、山田太造、和佐州洋

[4月9日、5月8-9日、6月11日、7月3日、9月11日、10月3日、11月7日、11月29日、'20年1月16日、2月4日、3月10日]

全回共通：論文誌ジャーナルの編集刊行

7.4 トランザクション運営委員会

◎/△湊 真一、柴山悦哉、小川剛史、清原良三、斎藤英雄、高橋篤司、竹中要一、建部修見、灘本明代、西田知博、西田直樹、藤井 敦、棟朝雅晴、吉川正俊

[11月12日] トランザクションの編集刊行に関する諸課題の対応

7.5 デジタルプラクティス編集委員会

◎細野 繁、●茂木 強、●藤瀬 哲朗、△田島 玲、△西山 博泰、青木 学聡、荒木 拓也、粟津 正輝、飯村結香子、石井一夫、石黒剛大、今原修一郎、江谷典子、大嶋嘉人、鬼塚 真、上條浩一、斎藤彰宏、坂下 秀、佐藤 聡、佐藤裕一、澤谷由里子、澤邊知子、立床雅司、新田 清、浜 直史、濱崎雅弘、平井千秋、平林元明、藤原一毅、横井直明、吉野松樹 *喜連川 優

[4月26日、5月21日、6月18日、7月16日、9月17日、10月15日、11月19日、12月17日、'20年1月21日、2月25日]

全回共通：デジタルプラクティスの編集刊行

7.6 デジタルコンテンツ事業検討委員会

◎/△岡部寿男、○平井規郎、安達 淳、△ 楠 房子、△栗原英俊、△田島 玲、△中野美由紀、△ 西垣正勝、水野慎士、△湊 真一

[7月11日] デジタルコンテンツ事業の推進

7.7 出版委員会

△楠 房子、△清水佳奈、金子 格、嶋田義皓、阪田史郎

[11月25日、'20年3月12日] 実務書の出版企画に関する検討

7.7.1 教科書編集委員会

◎阪田史郎、○菊池浩明、△楠 房子、△清水佳奈、駒谷昇一、辰己丈夫、田名部元成、中島 毅、山本里枝子、沼尾雅之、石井一夫、斎藤典明

[3月29日、7月5日、10月8日、12月25日、'20年3月25日] 教科書シリーズの刊行に関する検討

7.8 歴史特別委員会（傘下の小委員会は掲載略）

◎発田 弘、○旭 寛治、△楠 房子、△清水佳奈、高橋義雄、橋爪宏達、前島正裕、松永俊雄

[6月5日、9月18日、'20年1月29日]

コンピュータに関する歴史の公開推進、情報処理技術遺産等の認定ほか

7.9 著作権委員会

◎△楠 房子、●△清水佳奈、天野真家、大谷和子、倉本 到、下條真司、田島玲、並木美太郎、西垣正勝、平井規郎、湊 真一

[電子メールベース] 知的財産権専門委員推薦、その他著作権に関する対応

8. 標準化活動

8.1 情報規格調査会（規格役員会）

◎/△伊藤 智、○河合和哉、○関 喜一、△田中淳裕、山本英朗、成井良久（～9月）／田丸健三郎（10月～）、伊藤雅樹、東 充宏（～9月）／田昭一（10月～）、落合真一、*中野宏和

[4月9日、5月14日、6月11日、7月9日、9月10日、10月16日、11月19日、12月10日、'20年1月21日、2月18日、3月17日]

規格賛助員の入退会等／委員変更／国際会議派遣・招致／月次決算／JTC1総会対応／標準化関連受託対応ほか

9. 国際活動

9.1 IFIP委員会

☆村山優子（IFIP日本代表）、◎/△倉本 到、○/△並木美太郎、○/△西垣正勝、廣川 直、五十嵐淳、齋藤俊則、中野 冠、相田 仁、亀田壽夫、内木哲也、小向太郎、金川信康、栗原 聡、北村喜文、星野准一、掛下哲郎

[11月1日] IFIP年次総会報告／各TCの活動報告ほか。

9. 上記以外の委員会および委員は次サイトを参照

<https://www.ipsj.or.jp/annai/committee/meibo/2019meibo.html>

付2. 研究会および研究発表・学術講習会等一覧

[研究会等の詳細]

研究会等の名称（（ ）内：英略称、*：研究グループ）	主査名（運営委員数）	登録者数
[コンピュータサイエンス領域]		
データベースシステム（DBS）	吉川正俊（46）	386
ソフトウェア工学（SE）	丸山勝久（42）	440
システム・アーキテクチャ（ARC）	井上弘士（28）	276
システムソフトウェアとオペレーティング・システム（OS）	光来健一（28）	235
システムとLSIの設計技術（SLDM）	田宮 豊（26）	228
ハイパフォーマンスコンピューティング（HPC）	岩下武史（38）	451
プログラミング（PRO）	西田直樹（27）	282
アルゴリズム（AL）	瀧本英二（23）	174
数値モデル化と問題解決（MPS）	関嶋政和（28）	256
組込みシステム（EMB）	渡辺晴美（26）	224
[情報環境領域]		
マルチメディア通信と分散処理（DPS）	田上敦士（39）	277
ヒューマンコンピュータインタラクション（HCI）	木村朝子（36）	408
情報システムと社会環境（IS）	児玉公信（21）	178
情報基礎とアクセス技術（IFAT）	難波英嗣（10）	118
オーディオビジュアル複合情報処理（AVM）	内藤 整（13）	54
グループウェアとネットワークサービス（GN）	斉藤典明（33）	190
ドキュメントコミュニケーション（DC）	秋元良仁（8）	63
モバイルコンピューティングとパーベイシブシステム（MBL）	太田 賢（44）	223
コンピュータセキュリティ（CSEC）	山内利宏（48）	588
高度交通システムとスマートコミュニティ（ITS）	重野 寛（25）	138
ユビキタスコンピューティングシステム（UBI）	井上創造（37）	216
インターネットと運用技術（IOT）	宮下健輔（49）	390
セキュリティ心理学とトラスト（SPT）	寺田真敏（20）	104
コンシューマ・デバイス&システム（CDS）	森信一郎（34）	202
デジタルコンテンツクリエイション（DCC）	水野慎士（17）	88
高齢社会デザイン（ASD）	松浦 博（26）	88
[メディア知能情報領域]		
自然言語処理（NL）	関根 聡（31）	440
知能システム（ICS）	川村秀憲（5）	175
コンピュータビジョンとイメージメディア（CVIM）	長原 一（62）	502
コンピュータグラフィックスとビジュアル情報学（CG）	土橋宜典（29）	216
コンピュータと教育（CE）	兼宗 進（43）	535
人文科学とコンピュータ（CH）	鹿内菜穂（26）	220
音楽情報科学（MUS）	中野倫靖（29）	287
音声言語情報処理（SLP）	西村雅史（26）	192
電子化知的財産・社会基盤（EIP）	原田要之助（16）	100
ゲーム情報学（GI）	鶴岡慶雅（26）	199
エンタテインメントコンピューティング（EC）	井村誠孝（18）	169
バイオ情報学（BIO）	倉田博之（14）	102
教育学習支援情報システム（CLE）	緒方広明（24）	188
アクセシビリティ（AAG）	澤田秀之（19）	72
*ネットワーク生態学（NE）	鳥海不二夫（--）	---
*会員の力を社会につなげる（SSR）	筑 捷彦（--）	---
*情報処理に関する法的問題（LIP）	高岡詠子（--）	---
*ビッグデータ解析のビジネス実務利活用（PBD）	石井一夫（--）	---
[調査研究運営委員会]		
*オープンサイエンスと研究データマネジメント研究グループ（RDM）	山地一禎（--）	---

1. 研究発表会（調査研究活動分）

*2020年2月下旬から3月に開催予定の研究発表会はコロナウィルス感染症の影響により

1.1 コンピュータサイエンス領域

実情に応じて開催中止・延期・オンライン開催

1.1.1 データベースシステム研究発表会

回次	開催年月	場所	発表件数	参加者数	共催団体、その他備考
第169回	2019年9月10日	工学院大学新宿キャンパス	20	76	電子情報通信学会
第170回	2019年12月23日～24日	国立情報学研究所	17	43	電子情報通信学会

1.1.2 ソフトウェア工学研究発表会

第202回	2019年7月12日～14日	小樽経済センター	23	69	電子情報通信学会
第203回	2019年12月12日～13日	早稲田大学	10	32	
第204回	2020年3月2日～3日	化学会館	19	-	*オンライン開催

1.1.3 システム・アーキテクチャ研究発表会

第228回	2019年6月11日～12日	指宿温泉 休暇村 指宿	25	50	電子情報通信学会
第229回	2019年7月24日～26日	北見市民会館	37	96	電子情報通信学会
第230回	2019年11月13日～15日	愛媛県男女共同参画センター	16	77	電子情報通信学会
第231回	2020年1月22日～24日	慶應義塾大学日吉キャンパス	41	79	電子情報通信学会
第232回	2020年2月27日～28日	与論町中央公民館	48	60	電子情報通信学会

1.1.4 システムソフトウェアとオペレーティング・システム研究発表会

第146回	2019年5月30日～31日	那覇市IT創造館	13	33	
第147回	2019年7月24日～25日	北見市民会館	17	42	
第148回	2020年2月27日～28日	高知工科大学永福キャンパス	13	38	

1.1.5 システムとLSIの設計技術研究発表会

第188回	2019年5月15日	東京工業大学	7	30	電子情報通信学会
第189回	2019年11月13日～15日	愛媛県男女共同参画センター	39	102	電子情報通信学会
第190回	2020年1月22日～24日	慶應義塾大学日吉キャンパス	41	61	電子情報通信学会
第191回	2020年2月27日～28日	与論町中央公民館	48	53	電子情報通信学会

1.1.6 ハイパフォーマンスコンピューティング研究発表会

第169回	2019年5月10日	海洋研究開発機構横浜研究所	10	64	
第170回	2019年7月24日～26日	北見市民会館	43	143	
第171回	2019年9月20日	国立情報学研究所	10	50	
第172回	2019年12月18日～19日	沖縄産業支援センター	24	62	
第173回	2020年3月16日～18日	北海道立道民活動センター	24	-	*開催中止

1.1.7 プログラミング研究発表会

第124回	2019年6月6日～7日	名古屋大学東山キャンパス	7	35	
第125回	2019年7月25日～26日	北見市民会館	13	33	
第126回	2019年10月30日～31日	国立情報学研究所	8	30	
第127回	2020年1月15日～16日	医療イノベーション推進センター	8	23	
第128回	2020年3月13日	早稲田大学西早稲田キャンパス	4	-	*オンライン開催

1.1.8 アルゴリズム研究発表会

第173回	2019年5月10日～11日	熊本大学	16	55	電子情報通信学会
第174回	2019年9月17日	信州大学長野(工学)キャンパス	6	20	
第175回	2019年11月28日～29日	旧大連航路上屋	25	49	電子情報通信学会
第176回	2020年1月29日～30日	下呂市民会館	7	34	併催：人工知能学会
第177回	2020年3月16日	東北大学	10	-	*開催中止

1.1.9 数理モデル化と問題解決研究発表会

第123回	2019年6月17日～19日	沖縄科学技術大学院大学	62	62	電子情報通信学会
第124回	2019年7月29日	MGM Resorts International	13	15	
第125回	2019年9月25日	カナモトホール	12	20	
第126回	2019年12月11日～12日	電気通信大学	15	29	
第127回	2020年3月2日～3日	松江市玉湯公民館	23	-	*開催中止

1.1.10 組込みシステム研究発表会

第51回	2019年6月21日	東海大学高輪キャンパス	17	19	
第52回	2019年11月13日～15日	愛媛県男女共同参画センター	39	95	電子情報通信学会
第53回	2020年2月27日～28日	与論町中央公民館	48	55	電子情報通信学会

1.2 情報環境領域

1.2.1 マルチメディア通信と分散処理研究発表会

第179回	2019年5月23日～24日	奄美市社会福祉センター	40	18	電子情報通信学会
第180回	2019年9月19日～20日	石川県政記念しいのき迎賓館	23	32	
第181回	2019年12月26日～27日	アクティブリゾート宮城蔵王	14	26	
第182回	2020年3月12日～13日	情報セキュリティ大学院大学	64	-	*オンライン開催

1.2.2 ヒューマンコンピュータインタラクション研究発表会

第183回	2019年6月10日～11日	東京大学山上会館	21	76	電子情報通信学会/日本バーチャリアリティ学会/ヒューマンインタフェース学会/映像情報メディア学会
第184回	2019年7月22日～23日	北海道大学百年記念会館	18	40	
第185回	2019年12月10日～11日	淡路夢舞台国際会議場	29	32	
第186回	2020年1月15日～16日	大濱信泉記念館	36	64	
第187回	2020年3月16日	国士舘大学世田谷キャンパス	33	-	*オンライン開催

1.2.3 情報システムと社会環境研究発表会

第148回	2019年6月1日	武蔵大学江古田キャンパス	5	16	
第149回	2019年8月23日	東京電機大学東京千住キャンパス	7	26	
第150回	2019年11月23日～24日	名桜大学	17	28	
第151回	2020年2月28日	明治大学紫紺館	14	21	*オンライン発表も併用

1.2.4 情報基礎とアクセス技術研究発表会

第135回	2019年7月6日	東京大学駒場1キャンパス	2	30	併催：人工知能学会
第136回	2019年9月10日	工学院大学新宿キャンパス	20	55	電子情報通信学会
第137回	2020年2月15日	東京工業大学大岡山キャンパス	2	9	
第138回	2020年3月27日	中央大学後楽園キャンパス	5	-	*開催中止

1.2.5 オーディオビジュアル複合情報処理研究発表会

第105回	2019年6月13日～14日	福江文化会館	15	35	電子情報通信学会/映像情報メディア学会
第106回	2019年9月19日～20日	新潟大学駅南キャンパス	20	75	電子情報通信学会/電気学会/映像情報メディア学会
第107回	2019年12月5日～6日	アイナいわて県民情報交流センター	24	93	電子情報通信学会/映像情報メディア学会
第108回	2020年2月27日～28日	沖縄ブルー電話	12	16	*オンライン発表も併用

1.2.6 グループウェアとネットワークサービス研究発表会

第108回	2019年5月9日～10日	東京農工大学小金井キャンパス	15	39	電子情報通信学会
第109回	2020年1月23日～24日	隠岐島文化会館	42	23	
第110回	2020年3月16日～17日	国士舘大学世田谷キャンパス	19	-	*オンライン開催

1.2.7 ドキュメントコミュニケーション研究発表会

第113回	2019年7月17日～18日	筑波大学計算科学研究センター	10	22	電子情報通信学会
第114回	2019年9月27日～28日	フューチャー株式会社	24	90	電子情報通信学会
第115回	2019年12月4日	セコム本社セコムホール	4	25	
第116回	2020年3月27日	中央大学後楽園キャンパス	5	-	*開催中止

1.2.8 モバイルコンピューティングとバーベイスシステム研究発表会

第91回	2019年5月23日～24日	奄美市社会福祉センター	40	31	電子情報通信学会
第92回	2019年8月29日～30日	葉山港管理事務所	23	23	
第93回	2019年11月20日～22日	大和平群/奈良先端科学技術大学院大学	29	32	
第94回	2020年3月2日	名古屋大学IB電子情報館	57	-	電子情報通信学会 *オンライン開催

1.2.9 コンピュータセキュリティ研究発表会

第85回	2019年5月23日～24日	大阪大学豊中キャンパス	20	58	電子情報通信学会
------	----------------	-------------	----	----	----------

第86回	2019年7月23日～24日	高知工科大学永国寺キャンパス	66	112	電子情報通信学会
第87回	2019年12月3日～4日	沖縄県立美術館・博物館	13	44	
第88回	2020年3月12日～13日	情報セキュリティ大学院大学	64	-	*オンライン開催

1.2.10 高度交通システムとスマートコミュニティ研究発表会

第77回	2019年5月23日～24日	奄美市社会福祉センター	40	25	電子情報通信学会
第78回	2019年9月6日	サニ貸会議室	12	54	電子情報通信学会/電気学会
第79回	2019年11月20日～22日	大和平群/奈良先端科学技術大学院大学	29	24	
第80回	2020年3月9日	公立はこだて未来大学	12	-	*オンライン開催

1.2.11 ユビキタスコンピューティングシステム研究発表会

第62回	2019年6月6日～7日	東京ビッグサイト	14	46	
第63回	2019年8月26日～27日	豊橋技術科学大学	15	24	
第64回	2019年12月10日～11日	淡路夢舞台国際会議場	29	34	
第65回	2020年3月2日	名古屋大学IB電子情報館	57	-	電子情報通信学会 *オンライン開催

1.2.12 インターネットと運用技術研究発表会

第45回	2019年5月23日～24日	大阪大学豊中キャンパス	20	72	電子情報通信学会
第46回	2019年6月14日	小樽商科大学	17	68	
第47回	2019年9月19日～20日	広島大学東千田キャンパス	18	66	
第48回	2020年3月2日～3日	名古屋大学東山キャンパス	30	-	電子情報通信学会 *オンライン開催

1.2.13 セキュリティ心理学とトラスト研究発表会

第33回	2019年5月9日～10日	東京農工大学小金井キャンパス	15	50	電子情報通信学会
第34回	2019年7月23日～24日	高知工科大学永国寺キャンパス	66	70	電子情報通信学会
第35回	2019年9月19日～20日	広島大学東千田キャンパス	18	6	
第36回	2020年3月3日	沖縄県青年会館	55	-	電子情報通信学会 *オンライン開催

1.2.14 コンシューマ・デバイス&システム研究発表会

第25回	2019年5月30日～31日	岩手県立大学アイーナキャンパス	11	24	
第26回	2019年8月29日～30日	葉山港管理事務所	23	57	
第27回	2020年1月23日～24日	隠岐島文化会館	42	21	

1.2.15 デジタルコンテンツクリエイション研究発表会

第22回	2019年6月7日～8日	アイランドホテル浦島	6	12	
第23回	2019年11月7日～8日	九州工業大学百周年中村記念館	24	28	
第24回	2020年1月23日～24日	隠岐島文化会館	42	22	

1.2.16 高齢社会デザイン研究発表会

第15回	2019年8月26日～27日	豊橋技術科学大学	15	16	
第16回	2019年12月6日	コク品川オフィス会議室	4	20	
第17回	2020年2月28日	京都工芸繊維大学	14	-	*開催中止

1.3 メディア知能情報領域

1.3.1 自然言語処理研究発表会

第240回	2019年6月13日～14日	遠野市民センター	17	36	
第241回	2019年8月29日～30日	小樽商科大学	28	89	
第242回	2019年10月25日～26日	奈良先端科学技術大学院大学	8	28	
第241回	2019年12月4日～5日	NHK放送技術研究所	19	81	電子情報通信学会

1.3.2 知能システム研究発表会

第196回	2019年6月21日～22日	広島経済大学立町キャンパス	10	27	電子情報通信学会
第197回	2020年2月17日	沖縄県青年会館	13	6	
第198回	2020年3月7日～10日	ルッソリゾートホテル	17	-	併催：人工知能学会/電子情報通信学会 *開催中止
第199回	2020年3月23日～24日	静岡大学浜松キャンパス	12	-	*オンライン開催

1.3.3 コンピュータビジョンとイメージメディア研究発表会

第217回	2019年5月30日～31日	リソニック記念青少年総合センター	44	81	電子情報通信学会
第218回	2019年9月4日～5日	岡山大学津島キャンパス	26	108	電子情報通信学会
第219回	2019年11月7日～8日	九州工業大学百周年中村記念館	24	39	
第220回	2020年1月23日～24日	奈良先端科学技術大学院大学	34	91	電子情報通信学会/バーチャリアリティ学会
第221回	2020年3月16日～17日	京都大学	48	-	電子情報通信学会 *開催中止

1.3.4 コンピュータグラフィックスとビジュアル情報学研究発表会

第174回	2019年6月27日	早稲田大学国際会議場	4	14	
第175回	2019年9月28日	東京大学本郷キャンパス	9	27	
第175回	2019年11月7日～8日	九州工業大学百周年中村記念館	24	27	
第176回	2020年3月17日～18日	東映デジタルセンター	17	-	*開催中止

1.3.5 コンピュータと教育研究発表会

第150回	2019年6月8日	北海道大学	9	38	
第151回	2019年10月5日～6日	岩手県立大学アイーナキャンパス	13	44	
第152回	2019年11月15日～17日	広島大学情報メディア教育研究センター	24	59	
第153回	2020年2月15日～16日	大阪教育大学天王寺キャンパス	24	90	
第154回	2020年3月14日	電気通信大学	23	-	*オンライン開催

1.3.6 人文科学とコンピュータ研究発表会

第120回	2019年5月11日	京都大学人文科学研究所	13	59	
第121回	2019年8月1日	慶應義塾大学日吉キャンパス	13	42	
第122回	2020年2月1日	佐賀大学	8	70	

1.3.7 音楽情報科学研究発表会

第123回	2019年6月22日～23日	京都大学	67	142	協賛：電子情報通信学会
第124回	2019年8月27日～28日	静岡文化芸術大学	15	55	
第125回	2019年11月19日	駒澤大学駒沢キャンパス	6	58	
第126回	2020年2月17日～18日	東京工業大学大岡山キャンパス	15	85	

1.3.8 音声言語情報処理研究発表会

第127回	2019年6月22日～23日	京都大学	67	119	協賛：電子情報通信学会
第128回	2019年7月19日～20日	風鈴屋	12	36	併催：電子情報通信学会
第129回	2019年10月11日	キャンパスラunde 京都	7	19	
第130回	2019年12月6日	NHK放送技術研究所	19	75	電子情報通信学会
第131回	2020年2月13日～14日	加賀・片山津温泉佳水郷	11	28	

1.3.9 電子化知的財産・社会基盤研究発表会

第84回	2019年6月3日～4日	KGU関内メディアセンター	21	75	電子情報通信学会
第85回	2019年9月19日～20日	石川県政記念しいのき迎賓館	23	31	
第86回	2019年11月22日	新潟大学駅南キャンパス	10	15	
第87回	2020年2月14日	佛教大学二条キャンパス	12	23	

1.3.10 ゲーム情報学研究発表会

第42回	2019年7月19日～20日	北海道大学札幌キャンパス	12	37	
第43回	2020年3月13日～14日	早稲田大学	28	-	*オンライン開催

1.3.11 エンタテインメントコンピューティング研究発表会

第52回	2019年6月10日～11日	東京大学山上会館	21	66	電子情報通信学会/日本バーチャリアリティ学会/ヒューマンインタフェース学会/映像情報メディア学会
第53回	2019年8月20日～21日	情報科学芸術大学院大学	2	13	
第54回	2019年12月13日	奈良先端科学技術大学院大学	11	31	
第55回	2020年3月18日～19日	首都大学東京日野キャンパス	27	-	*開催中止

1.3.12 バイオ情報学研究発表会

第58回	2019年6月17日～19日	沖縄科学技術大学院大学	62	71	電子情報通信学会
第59回	2019年9月8日	東京工業大学大岡山キャンパス	5	17	

第60回	2019年12月2日	博多駅南BMT貸会議室	7	15	
第61回	2020年3月12日	北陸先端科学技術大学院大学	13	29	併催：人工知能学会 *オンライン発表も併用

1.3.13 教育学習支援情報システム研究発表会

第28回	2019年6月1日	岩手県立大学アイナキャンパス	5	113	
第29回	2019年11月15日～17日	広島大学情報メディア教育研究センター	24	55	
第30回	2020年3月8日～10日	神戸大学瀧川記念学術交流会館	24	-	*開催中止

1.3.14 アクセシビリティ研究発表会

第10回	2019年8月23日～24日	早稲田大学西早稲田キャンパス	16	58	
第11回	2019年12月13日～14日	早稲田大学西早稲田キャンパス	8	26	
第12回	2020年3月13日～15日	筑波技術大学	32	-	電子情報通信学会 *開催中止

2. シンポジウム等

2.1 調査研究活動分 *インタラクシオン2020はコロナウィルス感染症の影響により現地開催中止（オンライン開催）

名称	開催年月	場所	演題数	参加数
The 3rd. cross-disciplinary Workshop on Computing Systems, Infrastructures, and Programming (xSIG 2019)	2019年5月27日～29日	慶應義塾大学 日吉キャンパス	44	119
マルチメディア、分散、協調とモバイル (DICOM2019) シンポジウム	2019年7月3日～5日	福島県磐梯熱海温泉 華の湯	272	400
第22回画像の認識・理解シンポジウム (MIRU2019)	2019年7月29日～8月1日	グランキューブ大阪	338	1053
情報教育シンポジウム2019 (SSS2019)	2019年8月17日～19日	大阪電気通信大学	53	146
DAシンポジウム2019 -システムとLSIの設計技術-	2019年8月28日～30日	山代温泉ゆのくに天祥	46	104
ソフトウェアエンジニアリングシンポジウム2019 (SES2019)	2019年8月29日～31日	工学院大学 新宿キャンパス	74	188
組込みシステムシンポジウム2019 (ESS2019)	2019年9月5日～6日	下呂温泉水明館	34	87
第12回Webとデータベースに関するフォーラム (WebDB Forum 2019)	2019年9月8日～9日	工学院大学 新宿キャンパス	159	339
エンタテインメントコンピューティングシンポジウム (EC2019)	2019年9月20日～22日	九州大学 大橋キャンパス	141	211
コンピュータセキュリティシンポジウム (CSS2019)	2019年10月21日～24日	ハウステンボス	223	805
Asia Pacific Conference on Robot IoT System Development and Platform (APRIS2019)	2019年11月1日～4日	Pattaya, Thailand	37	83
ゲームプログラミングワークショップ2019 (GPW2019)	2019年11月8日～10日	箱根セミナーハウス	43	83
第27回マルチメディア通信と分散処理ワークショップ (DPSWS2019)	2019年11月11日～13日	登別温泉登別万世閣	49	75
グループウェアとネットワークサービスワークショップ2019 (GNWS2019)	2019年11月14日～15日	伊豆大島ホテル白岩	24	31
ユーザブルセキュリティ・プライバシー (USP) 論文読破会3	2019年11月29日	化学会館	16	39
第12回インターネットと運用技術シンポジウム (IOTS2019)	2019年12月5日～6日	沖縄産業支援センター	27	94
第31回コンピュータシステム・シンポジウム (ComSys2019)	2019年12月10日～11日	大阪大学 吹田キャンパス	44	83
人文科学とコンピュータシンポジウム (じんもんこん2019)	2019年12月14日～15日	立命館大学 大阪いばらきキャンパス	48	178
第9回災害コミュニケーションシンポジウム	2019年12月26日	キャンパスプラザ京都	11	57
高度交通システム研究フォーラム2020	2020年1月24日	慶應義塾大学 日吉キャンパス	14	80
ウインターワークショップ2020・イン・京都	2020年1月24日～25日	YIC京都工科自動車大学校	21	50
*インタラクシオン2020	2020年3月9日～11日	学術総合センター内 一橋講堂	243	593

2.2 教育活動分

高校教科「情報」シンポジウム2019秋 —ジョーシン2019秋—	2019年10月26日	専修大学 神田キャンパス	8	97
-------------------------------------	-------------	--------------	---	----

3. 事業活動

3.1 全国大会 *コロナウィルス感染症の影響により現地開催中止（一部セッションをオンライン開催）

名称	開催年月	場所	一般講演	招待講演	参加数
第82回全国大会	2020年3月5日～7日	金沢工業大学 扇が丘キャンパス	1,141	3	2,419名（参加券発行数）

3.2 FIT（情報科学技術フォーラム）

FIT2019 第18回情報科学技術フォーラム	2019年9月3日～5日	岡山大学 津島キャンパス	529	1	1,336
-------------------------	--------------	-----------------	-----	---	-------

※共催：電子情報通信学会（情報・システムソサイエティ、ヒューマンコミュニケーショングループ）

3.3 連続セミナー2019：テーマ「データ駆動で新時代を切り拓く」

名称	開催年月	場所	演題数	本会場 参加数	遠隔会場 参加数
AIと歩む未来(1)：自然言語処理の最新動向	2019年6月26日	本会場：理化学研究所 革新知能統合研究センター 遠隔会場：大阪大学 中之島センター 遠隔会場：東北大学	5	108	24
トラスト時代におけるセキュリティ技術	2019年7月30日	本会場：化学会館 遠隔会場：大阪大学 中之島センター 遠隔会場：東北大学	5	71	9
AIと歩む未来(2)：画像・映像処理の最前線	2019年9月26日	本会場：化学会館 遠隔会場：大阪大学 中之島センター 遠隔会場：東北大学	5	84	31
エッジコンピューティングの課題と未来	2019年10月25日	本会場：日本大学 遠隔会場：大阪大学 中之島センター 遠隔会場：東北大学	5	95	32
シミュレーションと人工知能	2019年11月15日	本会場：化学会館 遠隔会場：大阪大学 中之島センター 遠隔会場：東北大学	5	81	16
IT分野の研究開発動向を俯瞰する	2019年12月9日	本会場：国立研究開発法人科学技術振興機構 東京本部別館 遠隔会場：大阪大学 中之島センター 遠隔会場：東北大学	9	68	24

※全体スポンサー：ヤフー株式会社

※ドリンクスポンサー：ヤフー株式会社、日本電気株式会社、株式会社日立製作所

※協賛：照明学会、映像情報メディア学会、電気学会、情報サービス産業協会、電子情報通信学会、電子情報技術産業協会、人工知能学会、モバイルコンピューティング推進コンソーシアム、情報通信技術委員会、インターネット協会、新世代M2Mコンソーシアム

※後援：特定非営利活動法人 ITコーディネータ協会、国立研究開発法人理化学研究所 革新知能統合研究センター

3.4 短期集中セミナー

名称	開催年月	場所	演題数	参加数	備考
量子コンピュータ&量子通信の最新動向と展望	2019年4月11日	一般社団法人情報通信技術委員会 2階AB会議室	6	71	※1,2

※1) 主催：情報処理学会、情報通信技術委員会

※2) 協賛：照明学会、電子情報通信学会、電気学会、映像情報メディア学会

AI×IoTの社会実装と標準化における課題と取り組み	2019年10月9日	産業技術総合研究所 臨海副都心センター 別館 11F会議室	6	85	※1
----------------------------	------------	-------------------------------------	---	----	----

※1) 協賛：人工知能学会、産業技術総合研究所、電気学会、電子情報通信学会、映像情報メディア学会、日本技術士会、照明学会

Society5.0に向けたデータ流通	2019年12月3日	日本教育会館 8F第二会議室	5	65	※1,2
---------------------	------------	----------------	---	----	------

※1) 主催：情報処理学会、データ流通推進協議会

※2) 協賛：電気学会、電子情報通信学会、映像情報メディア学会、照明学会、情報通信技術委員会、モバイルコンピューティング推進コンソーシアム、情報サービス産業協会

JPEG/MPEG標準化の最新動向2019 ～2020年に向けた活動状況～	2019年12月13日	機械振興会館6階66会議室	11	41	※1
---------------------------------------	-------------	---------------	----	----	----

※1) 協賛：電気学会、照明学会、電子情報通信学会、映像情報メディア学会、電子情報技術産業協会、ビジネス機械・情報システム産業協会、日本技術士会、IEEE東京支部

Exciting Coding!Junior 2019@tokyo	2019年12月21日	青山学院アスタジオ 地下1階 講義室	---	10組20名	
事例と共に紹介するプロセスアセスメントの有効活用	2020年1月10日	機械振興会館 地下3階 研修1号室	8	28	※1,2

※1) 後援：日本SPICEネットワーク、国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構

※2) 協賛：電気学会、照明学会、電子情報通信学会、情報サービス産業協会、日本規格協会、映像情報メディア学会、日本技術士会

ここまで来た!空間表現の先端事例と技術動向 ～CG/CV/VR/HCIの最先端～	2020年2月4日	(株)フォーラムエイト セミナールーム	5	48	※1,2
---	-----------	------------------------	---	----	------

※1) 主催：情報処理学会、最先端表現技術利用推進協会

※2) 協賛：照明学会、電子情報通信学会、電気学会、映像情報メディア学会

Exciting Coding!Junior 2019@Kanazawa	2020年3月7日	金沢工業大学 扇が丘キャンパス	---		※1
--------------------------------------	-----------	--------------------	-----	--	----

※1) コロナウイルス感染症の影響により開催中止

3.5 プログラミング・シンポジウム

名称	開催年月	場所	演題数	参加数
夏のプログラミング・シンポジウム2019	2019年9月6日～8日	かんぼの宿 伊豆高原	8	24
第52回情報科学若手の会	2019年10月12日～14日	軽井沢研修所	台風19号により中止	
第61回プログラミング・シンポジウム	2020年1月10日～12日	ラフォーレ倶楽部 伊東温泉湯の庭	15	68

3.6 IPSJ International AI Programming Contest

*コロナウィルス感染症の影響により現地開催中止（オンライン審査）

名称	開催年月	場所	チーム数	参加数	備考
Samurai Coding 2018-19 (Final Round)	2020年3月6日	金沢工業大学 扇が丘キャンパス	16	24	※

※) 協賛：情報サービス産業協会、電子情報技術産業協会、電子情報通信学会、人工知能学会、日本ソフトウェア科学会、日本情報システム・ユーザー協会、情報科学国際交流財団、IEEE Computer Society、IEEE Computer Society Tokyo/Japan Joint Chapter、IEEE Japan Office、The Korean Institute of Information Scientists and Engineers、China Computer Federation
後援：文部科学省、総務省、経済産業省、情報処理推進機構
ゴールドスポンサー：いい生活、日立製作所、野村ホールディングス
サポーター：日本レジストリサービス、富士通、ナレッジクリエーションテクノロジー

4. 技術応用活動

4.1 個別ITフォーラム（4件）

名称	代表者名
サービスサイエンス	諏訪良武
コンタクトセンター	河合 洋
CITP	平林元明
勉強会	河口信夫

4.2 ITフォーラム関連のイベント

名称	開催年月	場所	演題数	参加数	備考
ITフォーラム2020	2020年2月7日	一橋大学一橋講堂会議室 ・学術総合センターNII		184	※1,2

※1) スポンサー：6口

※2) ITフォーラム3件（他団体連携1件（AITC））を開催

5. 支部活動（※役員会等は除く）

5.1 北海道支部 *一部講演会 コロナウィルス感染症の影響により延期

・情報処理北海道シンポジウム2019（10月5日、北海道大学） 演題数62件、参加者数108名

5.2 東北支部 *一部研究会 コロナウィルス感染症の影響により現地開催中止（オンライン開催）

・電気関係学会東北支部連合大会（8月22日～23日、秋田大学） 演題数289件、参加者482名

・支部研究会 7回（11月28-29日、12月6日、12月21日、'20年2月8日、2月9日、2月20日、*3月10日）

・支部講演会 4回（6月19日、10月24日、12月16日、'20年1月28日）

5.3 東海支部

・電気・電子・情報関係学会東海支部連合大会（9月9日-10日、大同大学） 演題数460件、参加者数 889名

・講演会 6回（5月20日、7月18日、9月10日、11月25日、12月5日、'20年1月16日）

・研究会 10回（協賛等）

・学生研究発表助成 1件

5.4 北陸支部

・特別講演会 1回（5月10日）

・研究講演会 2回（'20年1月16日、1月30日）

・電気関係学会北陸支部連合大会（8月31-9月1日、石川工業高等専門学校） 演題数195件、参加者数352名

・北陸地区学生による研究発表会（'19年3月2日、富山高専）

5.5 関西支部

・関西支部支部大会（9月23日、大阪大学中之島センター）

・支部研究会：ネットワークサービス研究会（9月23日）、

グリーン組込みコンピューティング研究会（9月23日）、

社会と環境のエージェント知能研究会（9月23日）、

プログラミング・情報教育研究会（9月23日）、

行動変容と社会システム研究会（9月23日）、

・支部セミナー 3回（7月28日、6月9日、11月1日、8日）

・講演会 1回（11月18日）

・連続セミナー2019（遠隔会場） 6回（6月26日、7月30日、9月26日、10月25日、11月15日、12月9日）

5.6 中国支部

- ・電気・情報関連学会中国支部連合大会（10月26日、鳥取大学） 演題数188件、参加者数360名
- ・講演会 10回（5月31日、6月13日、7月30日、8月2日、9月20日、10月23日、11月8日、'20年2月5日、2月7日、3月26日
- ・講習会 3回（9月19日、11月22日、12月6日）

5.7 四国支部 *一部のイベント コロナウイルス感染症の影響により中止・延期

- ・電気系学会四国支部連合大会（9月21日、新居浜工業高等専門学校） 参加者数340名
- ・共催事業 4回（10月19日、10月19日、'20年2月29日、2月28-29日）
- ・講演会 4回（5月15日、7月18日、12月16日、'20年1月7日）

5.8 九州支部 *火の国情報シンポジウム コロナウイルス感染症の影響により開催中止

- ・電気関係学会九州支部連合大会（9月27-28日、九州工業大学） 聴講者数766名
- ・若手の会セミナー（12月6-7日、国民宿舎 虹ノ松原ホテル） 参加者数19名
- ・*火の国情報シンポジウム（'20年3月9-10日、九州工業大学） *開催中止
- ・講演会等 2回（10月5日、11月29日）

付3. 刊行物（機関誌・図書）一覧

1. 会誌「情報処理」（月刊）

発行年月日	巻	号	特集テーマ	その他参考		
				記事数	本文頁数	広告頁数
2019年4月15日	60	5	オープンサイエンスの動向と情報科学の役割	24	99	6
2019年5月15日	60	6	フレッシュマンに向けたプログラミングのススメ	26	96	6
2019年6月15日	60	7	未来の学びを主導する高専教育	27	120	6
2019年7月15日	60	8	グローバルに活躍する／ワークライフバランス	46	115	6
2019年8月15日	60	9	集めよ！ジュニア会員！！	72	123	6
2019年9月15日	60	10	ソーシャル・マジョリティ研究／セキュリティ人材育成の現状と実践	32	123	6
2019年10月15日	60	11	ディジタルタイプ—文字情報処理基盤の今とこれから—	19	99	6
2019年11月15日	60	12	「京」の後の時代を支えるスパコン	21	125	4
2019年12月15日	61	1	『AIの遺電子』に学ぶ未来構想術	29	133	4
2020年1月15日	61	2	ブロックチェーン技術の最新動向	17	89	6
2020年2月15日	61	3	5G時代の幕開けに向けた研究開発と実証	20	101	4
2020年3月15日	61	4	新たなモビリティ時代のサイバーセキュリティ	23	101	4

2. 「情報処理学会論文誌（ジャーナル）」（月刊）

※オンライン刊行のみ

発行年月日	巻	号	特集テーマ	その他参考		
				論文数	テクニカルノート数	本文頁数
2019年4月15日	60	4	ソフトウェア工学	17	1	176
2019年5月15日	60	5	情報システム論文	5	0	28
2019年6月15日	60	6	---	2	0	19
2019年7月15日	60	7	---	9	0	90
2019年8月15日	60	8	組込みシステム工学	9	0	89
2019年9月15日	60	9	デジタルトランスフォーメーションを加速するコンピュータセキュリ	30	0	168
2019年10月15日	60	10	ユビキタスコンピューティングシステム(VIII)/エージェント理論・技術	28	0	347
2019年11月15日	60	11	エンタテインメントコンピューティング	15	4	152
2019年12月15日	60	12	ユーザブルセキュリティ	24	1	237
2020年1月15日	61	1	オープンイノベーションを加速するコラボレーション技術とネット ワークサービス/生き活きたスマートシティを実現する高度交通 システムとパーベシブシステム	20	0	133
2020年2月15日	61	2	人文科学とコンピュータ/インタラクションの理解および基盤・応用 技術/ネットワークサービスと分散処理/組込みシステム工学	41	1	386
2020年3月15日	61	3	若手研究者/IoT活用のためのインターネットと運用技術	27	1	236

3. 「Journal of Information Processing (JIP)」(年刊)

※オンライン刊行のみ

				その他参考		
発行年	巻	号	備考	論文数	テクニカルノート数	本文頁数
2019年4月15日	27	—	トランザクション連携論文: 0	2	1	24
2019年5月15日	27	—	トランザクション連携論文: 2	5	0	52
2019年6月15日	27	—	トランザクション連携論文: 3	3	0	34
2019年7月15日	27	—	トランザクション連携論文: 1	2	0	24
2019年8月15日	27	—	トランザクション連携論文: 3	4	0	38
2019年9月15日	27	—	トランザクション連携論文: 0 Special Issue of Applications and the Internet in Conjunction with Main Topics of COMPSAC 2018	15	0	151
2019年10月15日	27	—	トランザクション連携論文: 2	2	0	24
2019年11月15日	27	—	トランザクション連携論文: 4	8	0	80
2019年12月15日	27	—	トランザクション連携論文: 4	8	0	90
2020年1月15日	28	—	トランザクション連携論文: 0	7	0	85
2020年2月15日	28	—	トランザクション連携論文: 2	9	1	106
2020年3月15日	28	—	トランザクション連携論文: 0	6	0	55

4. 「情報処理学会論文誌(トランザクション)」(不定期、10誌)

※オンライン刊行のみ

				その他参考	
発行年月日	巻	号	トランザクション名	論文数	本文頁数
2019年5月21日	12	2	プログラミング	4	21
2019年7月17日	12	3	プログラミング	3	19
2019年9月18日	12	4	プログラミング	1	7
2019年11月20日	12	5	プログラミング	1	6
2020年1月29日	13	1	プログラミング	2	24
2019年7月17日	12	2	数理モデル化と応用	9	100
2019年12月23日	12	3	数理モデル化と応用	9	88
2020年3月25日	13	1	数理モデル化と応用	3	37
2019年4月11日	12	2	データベース	3	11
2019年7月17日	12	3	データベース	2	17
2019年10月23日	12	4	データベース	10	79
2020年1月27日	13	1	データベース	5	44
2019年7月29日	12	3	コンピューティングシステム	6	86
2019年11月28日	12	4	コンピューティングシステム	3	0
2020年2月12日	13	1	コンピューティングシステム	1	27
2019年5月24日	9	2	コンシューマ・デバイス&システム	4	46
2019年9月27日	9	3	コンシューマ・デバイス&システム	3	19
2020年2月26日	10	1	コンシューマ・デバイス&システム	5	57
2019年8月27日	7	2	デジタルコンテンツ	1	14
2020年2月26日	8	1	デジタルコンテンツ	4	39
2019年6月28日	5	2	教育とコンピュータ	5	39
2019年10月11日	5	3	教育とコンピュータ	6	57
2020年2月21日	6	1	教育とコンピュータ	5	68
2019年5月27日	12	—	Bioinformatics	1	4
2019年7月31日	12	—	Bioinformatics	1	9
2020年1月8日	13	—	Bioinformatics	1	6
2020年3月27日	13	—	Bioinformatics	1	9
2019年8月1日	12	—	System LSI Design Methodology	4	28
2020年2月28日	13	—	System LSI Design Methodology	6	40

2019年5月10日	11	-	Computer Vision and Applications	1	22
2019年6月4日	11	-	Computer Vision and Applications	1	7
2019年6月10日	11	-	Computer Vision and Applications	1	10
2019年6月25日	11	-	Computer Vision and Applications	1	9
2019年7月17日	11	-	Computer Vision and Applications	1	14
2019年7月24日	11	-	Computer Vision and Applications	1	13
2019年11月4日	11	-	Computer Vision and Applications	1	6
2019年11月20日	11	-	Computer Vision and Applications	1	18
2019年11月29日	11	-	Computer Vision and Applications	1	17

5. 「情報処理学会デジタルプラクティス」(年4回)

				その他参考	
発行年月日	巻	号	特集テーマ	論文数	本文頁数
2019年4月15日	10	2	ディープラーニングのプラクティス	9	152
2019年7月15日	10	3	フィンテック／ブロックチェーン	15	246
2019年10月15日	10	4	働き方改革とIT	9	166
2020年1月15日	11	1	DX時代のスキル標準と人材育成	11	224

6. その他出版(重版)

※判型：A5、委託出版社名：オーム社

発行年月	書籍名	発行部数	本文頁数
2019年5月20日	IT textシリーズ Javaオブジェクト指向プログラミング(1版13刷)	101	270
2019年5月20日	IT textシリーズ ソフトウェア開発(改訂2版)(2版5刷)	500	224
2019年5月20日	IT textシリーズ 画像工学(1版2刷)	300	232
2019年5月25日	IT textシリーズ 情報リテラシー(1版3刷)	100	248
2019年5月25日	IT Textシリーズ(一般教育) 情報と社会(1版11刷)	100	236
2019年5月25日	IT textシリーズ 情報セキュリティ(1版16刷)	500	288
2019年5月25日	IT textシリーズ データベースの基礎(1版1刷)	2000	273
2019年5月25日	IT textシリーズ 離散数学(1版5刷)	400	240
2019年5月30日	IT textシリーズ 人工知能(改訂2版)(2版4刷)	700	244
2019年6月30日	IT textシリーズ 数理最適化(1版3刷)	70	272
2019年7月30日	IT textシリーズ コンパイラとバーチャルマシン(1版15刷)	400	212
2019年8月30日	IT textシリーズ ネットワークセキュリティ(1版2刷)	400	206
2019年10月10日	IT textシリーズ Java基本プログラミング(1版6刷)	300	234
2019年9月10日	IT textシリーズ アルゴリズム論(1版17刷)	700	230
2019年11月1日	IT textシリーズ コンピュータアーキテクチャ(改訂2版)(2版1刷)	1500	232
2019年10月30日	IT Textシリーズ データマイニングの基礎(1版9刷)	100	286
2019年11月30日	IT textシリーズ ヒューマンコンピュータインタラクション(改訂2版)(2版5刷)	1200	260
2019年12月10日	IT textシリーズ ソフトウェア開発(改訂2版)(2版6刷)	600	224
2019年11月20日	IT textシリーズ ネットワークセキュリティ(1版3刷)	700	206
2020年1月30日	IT Textシリーズ(一般教育) 情報システム基礎(1版12刷)	300	218
2020年1月30日	IT textシリーズ 情報と職業(改訂2版)(2版5刷)	800	232
2020年1月30日	IT textシリーズ オペレーティングシステム(改訂2版)(2版3刷)	900	260
2020年1月30日	IT textシリーズ 基礎Web技術(改訂2版)(2版3刷)	300	188
2020年1月30日	IT Textシリーズ(一般教育) 情報とネットワーク社会(1版6刷)	500	192
2020年2月20日	IT textシリーズ ソフトウェア工学演習(1版14刷)	150	228
2020年2月25日	IT textシリーズ 応用Web技術(改訂2版)(2版2刷)	300	210
2020年2月25日	IT textシリーズ 情報通信ネットワーク(1版2刷)	259	274

付4. 国際会議一覧

※以下は、2019年度内に終了報告が完了した国際会議

名称	開催年月	場所	参加数	内 海外参加	海外 共催団体
The 13th International Workshop on Security (IWSEC2018)	2018年9月3日-5日	日本（宮城）	94名	10名	---
25th Asia-Pacific Software Engineering Conference (APSEC2018)	2018年12月4日-7日	日本（奈良）	253名	129名	
24th Asia and South Pacific Design Automation Conference (ASP-DAC 2019)	2019年1月21日-24日	日本（東京）	346名	238名	・ IEEE CAS ・ IEEE CEDA ・ ACM SIGDA

付5. 表彰等 *いずれも所属（ ）内は選定当時、掲載は順不同、敬称略

1. 新名誉会員（3名） [賞状等発送をもって表彰 *2020年度定時総会（2020年6月）表彰中止により] [理事会（2020年1月）]

- ・西尾章治郎（阪大）
- ・土井美和子（NICT/奈良先端大/東北大）
- ・Zide Du（China Computer Federation）

2. 功績賞（3名）・顕功賞：該当なし [賞状等発送をもって表彰 *2020年度定時総会（2020年6月）表彰中止により] [功績賞選定委員会（2020年3月）]

- ・富田悦次（電通大）
- ・松本裕治（理化学研）
- ・笠原博徳（早大）

3. 新フェロー（16名） [賞状等発送をもって表彰 *2020年度定時総会（2020年6月）表彰中止により] [フェロー選定委員会（2020年2月）]

- ・浦本直彦（三菱ケミカルエンジニアリング） 「非構造・半構造情報処理とデータ・クラウドセキュリティの研究開発への貢献」
- ・栄藤 稔（阪大） 「動画画像国際標準化および大規模データ処理技術の実用化に対する貢献」
- ・大場みち子（はこだて未来大） 「先駆的ICT人材育成および知的活動の思考プロセスの測定と分析に関する研究」
- ・川越恭二（立命館大） 「時間データベースに関する先駆的研究」
- ・小林直樹（東大） 「高階モデル検査に関する研究およびIFIPに対する貢献」
- ・斎藤隆文（農工大） 「CGにおける非写実的表現等の先駆的研究」
- ・白田由香利（学習院大） 「データ工学と数理科学を中心とした教育への貢献」
- ・土田正士（首都大） 「高スケーラブルデータベース統合基盤の研究開発と標準化に対する貢献」
- ・鳥居 悟（富士通研） 「組織の情報セキュリティインシデント対処技術の研究開発に対する貢献」
- ・橋本隆子（千葉商科大） 「国際的な女性技術者支援活動への貢献」
- ・長谷川輝之（KDDI） 「広域データ通信の品質向上手法の発明ならびに実用化」
- ・富士 仁（NTT） 「セキュアなデータ活用技術の研究開発」
- ・前田 章（JST） 「画像処理および社会基盤システム技術の研究開発と学会運営への貢献」
- ・森嶋厚行（筑波大） 「データ統合と群衆データベースシステム研究開発および学会運営への貢献」
- ・森島繁生（早大） 「人物顔画像分析及びアニメーション合成の研究と実用化に対する貢献」
- ・暦本純一（東大） 「ヒューマンコンピュータインタラクション研究領域に対する貢献」

4. 論文賞（6件21名） [賞状等発送をもって表彰 *2020年度定時総会（2020年6月）表彰中止により] [論文賞選定委員会（2020年2月）]

(1) 情報処理学会論文賞

- ・PR-SCTPを用いた分割ダウンロード方式における所要時間とブロック到達順序を考慮した要求方式
武田和也、舟阪淳一（広島市立大）
- ・ジャミング転移による硬さおよび形状の提示が可能な食感提示システムの提案
笹川真奈、新島有信、青木良輔、渡部智樹、山田智広（NTT）
- ・敵対的生成ネットワークを用いた3次元点群形状特徴量の教師なし学習
上西和樹、古屋貴彦、大淵竜太郎（山梨大）

(2) Journal of Information Processing Outstanding Paper Award

- ・Chosen Message Attack on Multivariate Signature ELSA at Asiacrypt 2017
Yasufumi Hashimoto（琉球大）、Yasuhiko Ikematsu、Tsuyoshi Takagi（東大）

(3) 情報処理学会論文誌 コンシューマ・デバイス&システム 優秀論文賞

- ・ノンストップ顔認証システムによる大規模イベントのチケット本人確認の性能改善
奥村明俊、星野隆道、半田 享、西山雄吾、田淵仁浩（NECソリューションイノベータ）

(4) IPSJ Transactions on Computer Vision and Applications Outstanding Paper Award

- ・Effective hyperparameter optimization using Nelder-Mead method in deep learning
Yoshihiko Ozaki、Masaki Yano、Masaki Onishi（産総研）

5. 業績賞（3件12名、*：代表貢献者） [賞状等発送をもって表彰 *2020年度定時総会（2020年6月）表彰中止により] [業績賞選定委員会（2020年3月）]

- ・「世界トップクラスの性能を実現したオープンな高次元ベクトル近傍検索の開発」
*岩崎雅二郎、宮崎大輔、加藤優介、森本浩介、菅原晃平（ヤフー）

- ・「低被ばく化×線透視診断装置向け映像処理技術の研究開発と実用化」

*荻野昌宏、高野橋健太、鈴木克己（日立）

- ・「防災や交通渋滞等の社会課題解決に寄与する「リアルタイム人口統計」の開発実用化」

*寺田雅之、赤塚裕人、深澤佑介、石黒 慎（NTTドコモ）

6. 情報処理技術研究開発賞（1名）

[賞状等発送をもって表彰 *2020年度定時総会（2020年6月）表彰中止により] [情報処理技術研究開発賞選定委員会（2020年1月）]

- ・ 関 晃仁（東芝） 「カメラ画像を用いた周辺環境認識技術の研究開発」

7. マイクロソフト情報学研究賞（2名）

[賞状等発送をもって表彰 *2020年度定時総会（2020年6月）表彰中止・第82回大会現地開催中止により] [マイクロソフト情報学研究賞選定委員会（2020年1月）]

- ・ 大浦圭一郎（名工大） 「統計的歌声合成技術の研究開発」
- ・ 大越 匡（慶大） 「ユーザの情報受容性を向上させる情報提示タイミングに関する研究」

8. IPSJ/ACM Award for Early Career Contributions to Global Research（1名）

[賞状等発送をもって表彰 *2020年度定時総会（2020年6月）表彰中止・第82回大会現地開催中止により] *2020年6月 ACM Award Banquet招待 [IPSJ/ACM審査会（2020年2月）]

- ・ 矢谷浩司（東大） 「Mobile Interactive Systems for Intellectual Productivity Support」

9. IPSJ/ IEEE Computer Society Young Computer Researcher Award（3名）

[IEEE COMPSAC2020（2020年7月）表彰 *2020年度定時総会（2020年6月）発表中止・第82回大会現地開催中止] [IPSJ/IEEE-CS審査会（2020年2月）]

- ・ 石川冬樹（NII） 「Research on Intelligence-driven Engineering of Dependable Smart Systems」
- ・ 塩谷亮太（東大） 「Outstanding Achievements on Microprocessor Architecture」
- ・ 村尾和哉（立命館大） 「Outstanding Research on Human Activity Recognition for Wearable Computing」

10. 山下記念研究賞（57編）

[賞状等発送をもって表彰 *第82回全国大会現地開催中止により] [各領域委員会（2019年7月）]

<コンピュータサイエンス領域>

- ・ Compressed Vector Set: A Fast and Space-Efficient Data Mining Framework [DBS] 小山田昌史（NEC）
- ・ Apache DrillとFPGAアクセラレータを統合するシステムアーキテクチャの提案 [DBS] 渡辺 聡（日立製作所）
- ・ 企業のソフトウェア開発に対する自動プログラム修正技術適用の試み [SE] 内藤圭吾（NTTデータ）
- ・ ITシステム開発における類似プロジェクト検索技術の開発 [SE] 山本智基（NTTデータ）
- ・ ルーティングアルゴリズムによる通信帯域の測定と理解 [ARC] 河野隆太（慶大）
- ・ 1Tbps 実現に向けたルータのメモリ階層の最適化 [ARC] 田中京介（電通大）
- ・ 追記型インターフェイスによるSSDのテイルレイテンシ改善 [OS] 田所秀和（東芝メモリ）
- ・ FDSOIプロセスにおけるスタック構造のソフトエラー耐性を高める対策手法の提案 およびデバイスシミュレーションを用いた評価 [SLDM] 山田晃大（トヨタ自動車）
- ・ 最大充足化問題を用いた抵抗性オープン故障に対するテスト生成法 [SLDM] 山崎紘史（日大）
- ・ Volta世代のGPUにおける重力ツリーコードの性能評価 [HPC] 三木洋平（東大）
- ・ 小疎行列積計算のGPU最適化 [HPC] 長坂侑亮（富士通研）
- ・ Dual-context Modal Logic as Left Adjoint of Fitch-style Modal Logic [PRO] 角谷良彦（マインド・アーキテクト）
- ・ On the Multi-Service Center Problem [AL] 伊藤健洋（東北大）
- ・ 厳しい評価回数制限下における多変数問題に対するアプローチの提案 [MPS] 開発拓也（ソフトクリエイティブホールディングス）
- ・ A motion planning method for mobile robot considering rotational motion in area coverage task [EMB] 矢野泰生（京大）

<情報環境領域>

- ・ SmartFinder：集約型自己組織化スマートデバイス位置推定方式のノード間メトリックを用いた拡張とその実装 [DPS] 北之馬貴正（Phindex Technologies）
- ・ 分散エッジ環境における機械学習実現最適化の検討～エッジ上で動作するアルゴリズム・オントロジーの決定と転移学習適用による最適化検討～ [DPS] 森 郁海（三菱電機）
- ・ 抵抗膜方式の多重座標計測による布製タッチセンサの提案 [HCI] 青木靖太（関西大）
- ・ BBEEP：歩行者との衝突予測に基づく警告音を用いた視覚障害者のための衝突回避支援システム [HCI] 粥川青汰（早大）

- ・広域観光支援システムへのデザイン思考アプローチ適用の試み [IS] 上田翔磨 (富士通マーケティング)
- ・Real-time free viewpoint rendering via view-dependent polygon plane arrangement [AVM] 野中敬介 (KDDI総研)
- ・複数対話型エージェントの役割分担によるユーモア生成システムの基礎検討 [GN] 中原涼太 (富士ソフト)
- ・講演者および聴講者の双方を支援するためのVR講演システムの開発 [GN] 森本麻代 (NEC)
- ・読み手意識 (Audience Awareness) 尺度に基づく「わかりやすい説明文章」の背景要因の検討 [DC] 辻 義人 (はこだて未来大)
- ・SOXFire: XMPPに基づく都市センサ情報流通基盤 [MBL] 米澤拓郎 (名大)
- ・スマートフォンによる歩行者と車両の交通状況理解システムの設計と評価 [MBL] 秋川亮太 (阪大)
- ・超音波の分離放射による音声認識機器への攻撃: ユーザスタディ評価と対策技術の提案 [CSEC] 飯島 涼 (早大)
- ・実世界でも攻撃可能なAudio Adversarial Example [CSEC] 矢倉大夢 (筑波大)
- ・車両からの電波の長期計測による路側機の高精度測位方式の提案 [ITS] 戸田和宏 (野村総研)
- ・飲料のアルコール濃度計測を行うスマートアイスキューブの試作と評価 [UBI] 松井秀憲 (東大)
- ・Wi-Fiチャネル状態情報を用いた教師無し学習によるドアの開閉検知手法 [UBI] 尾原和也 (NTT)
- ・DNSシンクホールとハニーポットを用いた不正FQDNに対する通信観測システムの開発 [IoT] 佐保航輝 (大分大)
- ・九州大学における要機密情報の保護方法に関する一考察 [IoT] 嶋吉隆夫 (九大)
- ・覗き見耐性を持つマウス操作と数字盤を組み合わせた個人認証方式の提案と評価 [SPT] 坂本憲理 (NTTテクノクロス)
- ・公共施設における動的案内サインを用いた人流誘導システムの評価 [CDS] 市川裕介 (NTT)
- ・両面透過型多層空中像表示技術の提案と実装 [DCC] 巻口誉宗 (NTT/北大)
- ・認知症フレンドリーな社会デザインのためのマルチステークホルダープラットフォームプロセス [ASD] 岡田 誠 (DFJ1)

<メディア知能情報領域>

- ・A proposal for a unified corpus of the Ainu language [NL] NowakowskiKarolPiotr (北見工大)
- ・競輪予想記事の自動配信に向けた的中車券予測 [IGS] 吉田拓海 (北大)
- ・Linking videos and languages: Representations and Their Applications [CVIM] 大谷まゆ (サイバーエージェント)
- ・色と動き情報の学習による静止画像からのシネマグラフ生成 [CVIM] 遠藤結城 (豊橋技科大)
- ・人物の単視点全身画像の再照明 [CG] 金森由博 (筑波大)
- ・仮想ネットワーク構築ライブラリ VITOCHA とネットワーク技術者教育 [CE] 鈴木孝彦 (中京大)
- ・初等・中等教育における体系的なプログラミング教育のための評価規準に関する試案 [CE] 大森康正 (上越教育大)
- ・加減情報の再構成 [CH] 高田智和 (国語研)
- ・End-to-End Pre-Modern Japanese Character (Kuzushiji) Spotting with Deep Learning [CH] TarinClanuwat (ROIS-DS/NII)
- ・GPRに基づくメロディセグメンテーションによるフレーズの分散表現の獲得 [MUS] 平井辰典 (駒澤大)
- ・階乗隠れセマルコフモデルに基づく音楽音響信号に対するカバー譜生成 [MUS] 柴田健太郎 (京大)
- ・von Mises分布DNNに基づく振幅スペクトログラムからの位相復元 [SLP] 高道慎之介 (東大)
- ・非線形ひずみ除去のための敵対的denoising autoencoder [SLP] 俵 直弘 (NTT)
- ・情報社会における倫理審査と倫理審査委員会3000個問題 [EIP] 吉見憲二 (佛教大)
- ・協力ゲームHanabiにおける相手の思考時間を戦略の指標に加えたエージェントの開発と評価 [GI] 佐藤栄介 (筑波大)
- ・誇張した咀嚼運動の映像提示による食感知覚操作に関する基礎検討 [EC] 鈴木佑司 (東大)
- ・偶然の遊びにおける主観的確率とエンタテインメント性との関係の調査 [EC] 水口 充 (京産大)
- ・libRCGA: 動力学モデルの高速なパラメータ推定のための遺伝的アルゴリズムライブラリ [BIO] 前田和勲 (九工大)
- ・Notebookによる講義・演習環境の開発 [CLE] 長久 勝 (ライフマティクス/NII)
- ・視覚障害者の移動特性を考慮した位置推定手法 [AAC] 山本晃平 (NUS)

11. 大会優秀賞・大会奨励賞

[賞状等発送をもって表彰 *第82回全国大会現地開催中止により] [第81回全国大会 大会優秀賞・大会奨励賞選定委員会 (2019年6月)]

(1) 大会優秀賞 (10名)

- ・小高充弘 (長崎大/NII)
- ・加藤綾子 (文教大)
- ・小林聖哉 (会津大)
- ・駒宮 亘 (電通大)
- ・近藤拓弥 (中京大)
- ・坂本一仁 (セコム)
- ・佐藤悠祐 (工学院大)
- ・田中滉己 (京大)
- ・本多佑希 (大阪電通大)
- ・渡邊 優 (電機大)

(2) 大会奨励賞 (6名)

- ・風間健太郎 (農工大)
- ・木村信裕 (名城大)
- ・濱政 光 (阪大)
- ・山田泰基 (東工大)
- ・山本洋太 (千葉大)
- ・山本 玲 (中京大)

(1) 優秀教材賞（1件）

- ・上田 浩（法政大） 「倫倫姫と学ぼう！情報倫理：多言語情報倫理・セキュリティ教育オンラインコース」

13. 若手奨励賞（15件）

[当該コンテストにて表彰] [若手奨励賞選定委員会（2019年4月～2020年3月）]

＜第25回スーパーコンピューティングコンテスト（2019年8月）＞

- ・aTKoder 行方 光一、大佐 健人、行方 聖（筑波大学附属駒場高等学校）

＜第30回全国高等専門学校プログラミングコンテスト（2019年10月）課題部門＞

- ・：：：d o o - 自動点字相互翻訳システム - 板橋竜太、鈴木惣一郎、藤巻晴葵、鴨下陽一、門脇斎斗（東京工業高等専門学校）

＜第30回全国高等専門学校プログラミングコンテスト（2019年10月）自由部門＞

- ・G u l l i v e r B l o c k s - VRで新しい創造体験を - 田村雄登、大野公平、橘田 陽、栗田桃花、藤川興昌（東京工業高等専門学校）

＜第30回全国高等専門学校プログラミングコンテスト（2019年10月）競技部門＞

- ・独立行政法人国立高等専門学校機構東京工業高等専門学校 柴田紘希、岡田 航、山口翔太、山下晃弘（東京工業高等専門学校）

＜ETロボコン2019 プログラミング部門（2019年11月）＞

- ・K A M O G A W A 小西康介、内田賀子、神原太朗、杉江青葉、竹歳留加、後藤聡文（京都府立京都高等技術専門学校）

＜パソコン甲子園2019 プログラミング部門（2019年11月）＞

- ・KMB86 行方光一、米田優峻（筑波大学附属駒場高等学校）
- ・魔法少女ぶつりょなマ 井上誠大、平木康傑（灘高等学校）
- ・eelTree 行方 聖、米山瑛士（筑波大学附属駒場高等学校）

＜パソコン甲子園2019 モバイル部門（2019年11月）＞

- ・シリコン谷の仲間たち 中根睦仁、古田怜音、豊田真吾（鈴鹿工業高等専門学校）

＜第19回日本情報オリンピック（2020年3月）＞

- ・松尾 凜太郎（麻布学園麻布高等学校）
- ・平木 康傑（灘高等学校）
- ・米田 寛峻（開成高等学校）

＜中高生情報学研究コンテスト（2020年3月）＞

- ・ykyuki.net 窪田靖之（川北町立川北中学校）
- ・中央大学附属高等学校A 小川瑞貴（中央大学附属高等学校）
- ・π&cone ニノ方理仁（芝中学校）

14. 学会活動貢献賞／感謝状

[賞状等発送をもって表彰 *2020年度定時総会（2020年6月）表彰中止により] [総務財務運営委員会（2020年1月）]

(1) 学会活動貢献賞：「学会誌における編集業務への貢献」（1名）

- ・金子 格（名古屋市立大）

(2) 学会活動貢献賞：「論文誌への査読貢献」（3名）

- ・寺西 裕一（NICT）
- ・由井蘭隆也（北陸先端大）
- ・寺田 努（神戸大）

(3) 学会活動貢献賞：「デジタルプラクティスへの査読貢献」（1名）

- ・掛下哲郎（佐賀大）

(4) 学会活動貢献賞：「FIT2019第18回情報科学技術フォーラム開催への貢献」（1名）

- ・谷口秀夫（岡山大）

(5) 学会活動貢献賞：「第81回全国大会開催への貢献」（1名）

- ・吉村賢治（福岡大）

(6) 感謝状：「プログラミングコンテストSamurai Codingへの貢献」（1名）

- ・大塚信吾（フィックスターズ）

<北海道>

- (1) 研究奨励賞 (5名) ・柿澤宏昭 ・菅原 優 ・新 恭兵 ・田中寿弥 ・森澤勝明
- (2) 学術研究賞 (2件) ・佐藤拓斗、渡邊拓貴、橋爪宏達、杉本雅則 ・鳥谷部直弥、古谷勇、喜田拓也
- (3) 技術研究賞 (2件) ・小澤怜、市橋克哉、前原洋祐、塩谷浩之、郷原一寿 ・DaniloGuimarGoncalves、廣瀬善大、今井英
- (4) ポスター賞 (3名) ・織田智矢 ・田澤 輝 ・深井美沙
- (5) 工業高専奨励賞 (3名) ・神原早紀 ・鳥木瑛司 ・佐々木律

<東北>

- (1) 学生奨励賞 (14名) ・藤田卓磨 ・森 元遼 ・赤堀立樹 ・諏訪光輔 ・伊藤拓哉 ・伊藤雄謙 ・伊藤 樹
・北山晃太郎 ・榊田琢杜 ・高橋 竣 ・鈴木真生 ・寺田拳汰 ・伊藤 真 ・立花隼一
- (2) 奨励賞 (5名) ・河合洋弥 ・千葉智貴 ・舩沢 亘 ・鈴木拓也 ・渡邊 亮
- (3) 野口研究奨励賞 (1名) ・鈴木 顕

<東海>

- (1) 電気関係学会東海支部連合大会奨励賞他受賞者 (5名)
・生駒流季 ・坂尾真也 ・橋川直樹 ・程田凌羽 ・松岡弘貴
- (2) 学生論文奨励賞 (6名)
・岩田紗希 ・五十嵐響 ・鴨下友馬 ・福井 宏 ・内田脩斗 ・田中久順

<北陸>

- (1) 優秀論文発表賞 (6名) ・小林 慧 ・秋山貴明 ・有田元気 ・上野友裕 ・飯森 亮 ・上原祐介
- (2) 優秀学生表彰 (11名) ・澤田知貴 ・堀川健斗 ・兵田憲信 ・大塚達史 ・藤井翔也 ・茶谷卓実
・阿知良滯 ・森吉優衣 ・上坂拓実 ・高林祐実 ・舟根あいか

<関西>

- (1) 学生奨励賞 (7名) ・河島健司 ・堤野理貴 ・伊藤 稔 ・石井幹大 ・岸本和理 ・高木一宏 ・武内俊樹

<中国>

- (1) 優秀論文発表賞 (5名) ・松山摩偉児 ・牧田岳大 ・桂木章吾 ・中田有哉 ・原田慎太郎
- (2) 奨励賞 (2名) ・小林周太郎 ・原 武志

<四国>

- (1) 学生奨励賞

<九州>

- (1) 奨励賞-連合大会 (5名) ・齊藤 燎 ・川原祐樹 ・薛 冰宇 ・濱田浩輝 ・安倍彩香
- (2) 奨励賞-火の国シボ (5名) ・鈴木積規 ・寺嶋友哉 ・堀 将太 ・北山耕平 ・三島直也
- (3) 奨励賞-若手の会 (1名) ・猪股能成

16. 情報処理技術遺産および分散コンピュータ博物館

[賞状等発送をもって認定 *2020年度定時総会 (2020年6月) 認定中止・第82回大会現地開催中止により] [歴史特別委員会 (2019年11月)]

- (1) 情報処理技術遺産 (5件) ※ () 内は製造者、製造年
・NECスーパーコンピュータSX-2 パッケージ (日本電気、1985年)
・FACOM VPシリーズEモデルのMCCボード (富士通、1987年)
・HITAC S-820 (日立、1987年)
・地球シミュレータ (宇宙開発事業団・日本原子力研究所・海洋科学技術センター・日本電気、2002年運用開始)
・スーパーコンピュータ「京」 (理化学研究所・富士通、2012年～2019年)
- (2) 分散コンピュータ博物館 (1件)
・富士通DNA館

17. デジタルプラクティス論文賞 (1件5名)

[賞状等発送をもって表彰 *2020年度定時総会 (2020年6月) 表彰中止・第82回大会現地開催中止により] [デジタルプラクティス編集委員会 (2019年11月)]

- ・深層学習によるコンクリート護岸劣化領域検出システムの開発
齋藤彰儀、上総虎智、平木悠太 (ブレインパッド)、天方匡純、吉田武司 (八千代エンジニアリング)

- ・オープンソース脆弱性スキャナ「Vuls」の開発

神戸 康多（フューチャー）

19. FIT関連の各賞

- (1) FIT2019船井業績賞（1名）※船井情報科学振興財団主催 [FIT2019(2019年9月)表彰] [FIT船井業績賞選定委員会（2018年9月）]
・後藤 真孝（産総研）

- (2) FIT2019船井ベストペーパー賞（3件）※船井情報科学振興財団主催 [FIT2020(2020年9月)表彰] [FIT賞選定委員会（2019年11月）]
・ケアプラン作成支援システムのための 非負値行列因子分解に基づく特徴語補完

兵頭幸起（横国大）、寺尾勇一、林 慧子、佐野貴洋、竹林奈々子（リゾートトラスト）、濱上知樹（横国大）

- ・pub/subメッセージングにおける負荷分散性と低遅延性の適応的制御

坂野遼平、首藤一幸（東工大）

- ・路車間通信を用いた合流支援システムによる車両挙動安定性の評価

菊池典恭、矢野貴大、中林昭一、金子 富、浜口雅春（沖電気）

- (3) FIT2019論文賞（6件） [FIT2020(2020年9月)表彰] [FIT賞選定委員会（2019年11月）]

- ・心電心拍・脳血流・鼻部皮膚温度の変化に着目した暗算課題のストレス検出

加賀翔太郎、加藤昇平（名工大）

- ・パラメータ推定とピクセルラベリングの同時学習に基づく競技コート認識

田良島周平（NTTコミュニケーションズ）

- ・符号化特徴と復元画像の相互情報量最大化に基づくGANベース画像符号化方式の検討

工藤 忍、折橋翔太、谷田隆一、清水 淳（NTT）

- ・非線形運動方程式にもとづく転倒モデルの構築および、粒子フィルタによる転倒シミュレーション精度の評価

小林知輝、栗原陽介（青学大）

- ・カーネル脆弱性を利用した攻撃に対する仮想記憶空間の切替え処理の保護と改ざん検出

葛野弘樹（岡大/セコム）、山内利宏（岡大）

- ・営業活動における意思決定システムの適用と評価

中山義人（東大）、森 雅広（NTTデータ・タイムズ）、斎藤 忍（NTT）、成末義哲、森川博之（東大）

- (4) FIT2019ヤングリサーチアワード（7名） [FIT2020(2020年9月)表彰] [FIT賞選定委員会（2019年11月）]

- ・原田崇司（高知工科大）
- ・岩田晃平（名工大）

- ・和田凌司（九大）

- ・大屋瑠璃（九工大）

- ・植村知規（Massachusetts General Hospital／九工大）

- ・平林輪樹（東大）

- ・川原田美雪（東大）

20. 情報規格調査会関連の表彰

- (1) 標準化功績賞（3名） [情報規格調査会総会（2019年5月）表彰] [情報規格調査会]
・篠木裕二（ITSCJ）

- ・鈴木俊宏（日本マクセル）

- ・山田朝彦（産総研）

- (2) 標準化顕功賞（該当なし） [情報規格調査会総会（2019年5月）表彰] [情報規格調査会]

- (3) 標準化貢献賞（8名） [情報規格調査会総会（2019年5月）表彰] [情報規格調査会]

- ・齋藤稔（富士通）
- ・酒井康夫（日本自動認識システム協会）

- ・志水信哉（NTT）

- ・杉本和夫（三菱電機）
- ・原田要之助（情報セキュリティ大学院大）

- ・堀田勝美（コンピテックジャパン）

- ・八木隆（日立製作所）
- ・山影朋夫（東芝インフラシステムズ）

- (4) 国際規格開発賞（16名：17件） [情報規格調査会 技術委員会（2019年4月～2020年2月）表彰] [情報規格調査会]

- ・池田宏明（千葉大）

- ・小川茂孝（アイシーリンク）

- ・小野文孝（東京大）

- ・蔵田武志（産総研）

- ・小石健二（パナソニック）

- ・坂無英徳（産総研）

- ・坂本健一（NTTデータ）

- ・鈴木輝彦（ソニー）

- ・鈴木 俊宏（日本マクセル）

- ・関洋平（筑波大）

- ・中島毅（芝浦工業大）

- ・永沼美保（日本電気）

- ・原潤一（リコー）

- ・原田登（NTT）

- ・星沢拓（日立製作所）

- ・渡邊修（拓殖大）

- (5) 産業標準化事業表彰 [工業標準化表彰式（2019年10月）表彰] [経済産業省]

- ・経済産業大臣表彰（個人）（経済産業大臣表彰）：鈴木俊宏（日本マクセル）

- ・経済産業大臣表彰（組織）（経済産業大臣表彰）：日本マクセル

- ・経済産業大臣表彰（組織）（経済産業大臣表彰）：富士通

- ・奨励者表彰受賞者（産業技術環境局長表彰）：大山潤爾（産総研）

- ・奨励者表彰受賞者（産業技術環境局長表彰）：水野由紀子（日本規格協会）

- ・功労者表彰受賞者（産業技術環境局長表彰）：高村誠之（NTT）

その他および附属明細書（法定記載事項）

1. その他、内部統制の整備についての決議に該当はありません。
2. その他、事業報告の内容を補足する重要な事項はありません。

以上

[第 1 号議案]

1-2. 2019 年度財務諸表等

1. 貸借対照表

付. 貸借対照表 内訳表

2. 正味財産増減計算書

付 1. 正味財産増減計算書 内訳表

付 2. 参考：事業別サマリー

3. 財務諸表に対する注記

4. 附属明細書

5. 財産目録

2019年度 財務諸表

1. 貸借対照表

2020年3月31日現在

(単位：円)

科目	当期末 2020年3月31日	前期末 2019年3月31日	増減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	445,325,036	397,313,247	48,011,789
未収会費	7,169,987	3,404,826	3,765,161
未収金	29,379,712	33,101,158	△ 3,721,446
前払金	6,900,887	5,594,129	1,306,758
仮払金	2,605,050	475,267	2,129,783
支部仮払金	2,616,606	1,814,083	802,523
貸倒引当金	△ 420,000	△ 590,000	170,000
商品	3,504,719	2,734,793	769,926
貯蔵品	888,558	499,588	388,970
流動資産 合計	497,970,555	444,347,091	53,623,464
2. 固定資産			
(1) 特定資産			
退職給付引当資産	74,276,860	72,914,460	1,362,400
山下記念研究賞積立資産	3,016,191	2,608,962	407,229
記念事業積立資産	32,827,558	13,594,950	19,232,608
電子化積立資産	25,419,090	28,699,988	△ 3,280,898
公益目的事業積立資産	43,372,078	43,871,186	△ 499,108
調査研究積立資産	149,814,769	146,483,947	3,330,822
音楽情報科学積立資産	1,582,494	1,582,482	12
学術刊行物積立資産	123,994,626	123,987,473	7,153
学術講習会積立資産	138,417,369	138,398,235	19,134
人材育成積立資産	48,469,537	48,466,833	2,704
規格国際会議開催積立資産	51,701,721	51,698,119	3,602
規格国際会議派遣積立資産	66,910,098	66,904,421	5,677
規格電子化積立資産	31,222,868	31,220,218	2,650
規格長期運営積立資産	58,059,347	58,054,418	4,929
特定資産 合計	849,084,606	828,485,692	20,598,914
(2) その他固定資産			
什器備品	19,748,432	20,946,992	△ 1,198,560
リース資産	11,242,800	11,242,800	0
ソフトウェア	84,419,805	80,934,945	3,484,860
減価償却累計額	△ 89,181,616	△ 79,223,159	△ 9,958,457
長期前払費用	0	68,161	△ 68,161
敷金	19,868,800	19,868,800	0
その他固定資産 合計	46,098,221	53,838,539	△ 7,740,318
固定資産 合計	895,182,827	882,324,231	12,858,596
資産 合計	1,393,153,382	1,326,671,322	66,482,060
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	14,747,612	24,393,297	△ 9,645,685
未払消費税等	4,951,200	2,198,700	2,752,500
未払法人税等	70,000	70,000	0
前受金	112,438,657	62,851,047	49,587,610
預り金	1,130,743	3,109,751	△ 1,979,008
仮受金	872,691	99,210	773,481
1年以内返済リース債務	2,248,560	2,248,560	0
賞与引当金	17,700,000	18,900,000	△ 1,200,000
流動負債 合計	154,159,463	113,870,565	40,288,898
2. 固定負債			
リース債務	3,747,600	5,996,160	△ 2,248,560
退職給付引当金	74,276,860	72,914,460	1,362,400
固定負債 合計	78,024,460	78,910,620	△ 886,160
負債 合計	232,183,923	192,781,185	39,402,738
III 正味財産の部			
一般正味財産のみ	1,160,969,459	1,133,890,137	27,079,322
(うち特定資産への充当額)	(774,807,746)	(755,571,232)	△ (19,236,514)
負債および正味財産合計	1,393,153,382	1,326,671,322	66,482,060

1-付. 貸借対照表 内訳表

2020年3月31日現在

(単位: 円)

科目	実施事業等会計	法人会計	内部取引消去	合計
I 資産の部				
1. 流動資産				
現金預金	0	445,325,036		445,325,036
未収会費	0	7,169,987		7,169,987
未収金	29,379,712	0		29,379,712
前払金	3,684,860	3,216,027		6,900,887
仮払金	2,513,750	91,300		2,605,050
支部仮払金	2,616,606	0		2,616,606
貸倒引当金	△420,000	0		△ 420,000
商品	3,504,719	0		3,504,719
貯蔵品	888,558	0		888,558
他会計勘定	0	777,274,411	△ 777,274,411	0
流動資産 合計	42,168,205	1,233,076,761	△ 777,274,411	497,970,555
2. 固定資産				
(1) 特定資産				
退職給付引当資産	54,562,028	19,714,832		74,276,860
山下記念研究賞積立資産	3,016,191	0		3,016,191
記念事業積立資産	32,827,558	0		32,827,558
電子化積立資産	25,419,090	0		25,419,090
公益目的事業積立資産	43,372,078	0		43,372,078
調査研究積立資産	149,814,769	0		149,814,769
音楽情報科学積立資産	1,582,494	0		1,582,494
学術刊行物積立資産	123,994,626	0		123,994,626
学術講習会積立資産	138,417,369	0		138,417,369
人材育成積立資産	48,469,537	0		48,469,537
規格国際会議開催積立資産	51,701,721	0		51,701,721
規格国際会議派遣積立資産	66,910,098	0		66,910,098
規格電子化積立資産	31,222,868	0		31,222,868
規格長期運営積立資産	58,059,347	0		58,059,347
特定資産 合計	829,369,774	19,714,832	0	849,084,606
(2) その他固定資産				
什器備品	14,317,454	5,430,978		19,748,432
リース資産	7,261,500	3,981,300		11,242,800
ソフトウェア	67,105,716	17,314,089		84,419,805
減価償却累計額	△70,607,272	△18,574,344		△ 89,181,616
長期前払費用	0	0		0
敷金	0	19,868,800		19,868,800
その他固定資産 合計	18,077,398	28,020,823	0	46,098,221
固定資産 合計	847,447,172	47,735,655	0	895,182,827
資産 合計	889,615,377	1,280,812,416	△ 777,274,411	1,393,153,382
II 負債の部				
1. 流動負債				
未払金	9,433,503	5,314,109		14,747,612
未払消費税等	4,951,200	0		4,951,200
未払法人税等	70,000	0		70,000
前受金	34,098,272	78,340,385		112,438,657
預り金	92,288	1,038,455		1,130,743
仮受金	789,594	83,097		872,691
1年以内返済リース債務	1,452,300	796,260		2,248,560
賞与引当金	13,075,864	4,624,136		17,700,000
他会計勘定	777,274,411	0	△ 777,274,411	0
流動負債 合計	841,237,432	90,196,442	△ 777,274,411	154,159,463
2. 固定負債				
リース債務	2,420,501	1,327,099		3,747,600
退職給付引当金	54,562,028	19,714,832		74,276,860
固定負債 合計	56,982,529	21,041,931	0	78,024,460
負債 合計	898,219,961	111,238,373	△ 777,274,411	232,183,923
III 正味財産の部				
一般正味財産のみ (うち特定資産への充当額)	△ 8,604,584	1,169,574,043	0	1,160,969,459 (774,807,746)
負債および正味財産合計	889,615,377	1,280,812,416	△ 777,274,411	1,393,153,382

2. 正味財産増減計算書

2019年4月1日から2020年3月31日まで

(単位：円)

科目	当期 2019年度	前期 2018年度	増減	備考 (増減の主な理由ほか)
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
特定資産運用益	88,129	123,095	△ 34,966	
特定資産受取利息	88,129	123,095	△ 34,966	
受取入会金	678,000	688,000	△ 10,000	
受取入会金	678,000	688,000	△ 10,000	
受取会費	194,573,985	192,850,601	1,723,384	
正会員受取会費	150,911,720	150,051,231	860,489	
学生会員受取会費	12,612,265	13,149,370	△ 537,105	
賛助会員受取会費	31,050,000	29,650,000	1,400,000	
事業収益	454,957,105	438,182,816	16,774,289	
頒布・購読収益	44,833,451	45,304,037	△ 470,586	
掲載・別刷料収益	59,531,633	64,165,071	△ 4,633,438	
広告収益	43,702,548	43,186,446	516,102	
参加費収益（含予稿集）	167,625,402	137,590,830	30,034,572	*シンポジウム等増
審査料・登録料収益	5,005,060	8,301,960	△ 3,296,900	
研究会登録費収益	28,917,456	29,450,932	△ 533,476	
規格賛助員費収益	89,700,000	92,500,000	△ 2,800,000	
国際会議収益	5,110,036	1,452,573	3,657,463	
分担金収益	1,742,507	3,527,663	△ 1,785,156	
抄録料、著作権使用料等収益	1,334,765	628,889	705,876	
受取民間委託費	7,454,247	12,074,415	△ 4,620,168	
受取補助金等	13,074,301	10,434,729	2,639,572	
受取民間補助金	8,156,621	9,016,029	△ 859,408	
受取民間助成金	4,917,680	1,418,700	3,498,980	
受取寄付金	2,554,031	3,143,782	△ 589,751	
受取寄付金	2,554,031	3,143,782	△ 589,751	
雑収益	2,263,607	594,171	1,669,436	
受取利息	1,144	2,021	△ 877	
雑収益	2,262,463	592,150	1,670,313	
経常収益計	668,189,158	646,017,194	22,171,964	
(2) 経常費用				
事業費	565,752,334	545,966,184	19,786,150	
給料手当	129,334,658	129,328,834	5,824	
賞与引当金繰入額	15,483,381	16,935,044	△ 1,451,663	
臨時雇賃金	5,657,841	8,037,997	△ 2,380,156	
退職金	68,000	0	68,000	
退職給付費用	2,700,006	4,173,171	△ 1,473,165	
福利厚生費	28,728,569	28,206,903	521,666	
会議費	93,955,316	68,159,613	25,795,703	*シンポジウム・標準化経費増
旅費交通費	36,597,178	43,895,690	△ 7,298,512	*人材育成・学術講習会・標準化経費減
通信運搬費	17,560,695	16,395,561	1,165,134	
減価償却費	8,498,488	9,639,946	△ 1,141,458	
消耗品費	9,498,806	9,280,726	218,080	
印刷製本費	76,300,815	74,479,599	1,821,216	
光熱水料費	2,877,112	2,674,502	202,610	
賃借料	29,502,426	29,541,938	△ 39,512	
保険料	465,157	688,624	△ 223,467	
諸謝金	18,852,154	19,413,046	△ 560,892	
租税公課	13,355,633	11,135,453	2,220,180	
支払負担金	1,834,231	362,789	1,471,442	
支払助成金	311,660	312,000	△ 340	
委託費	68,385,451	66,768,989	1,616,462	
支払手数料	3,166,029	2,100,797	1,065,232	
支払分担金	2,251,286	3,927,883	△ 1,676,597	
貸倒損失	0	100,000	△ 100,000	
貸倒引当金繰入額	22,600	142,100	△ 119,500	
雑費	344,842	264,979	79,863	

管理費	75,357,500	73,498,524	1,858,976	
給料手当	18,441,944	16,516,870	1,925,074	
賞与引当金繰入額	2,216,619	1,964,956	251,663	
臨時雇賃金	793,200	843,400	△ 50,200	
退職給付費用	913,394	1,402,629	△ 489,235	
福利厚生費	4,699,745	4,029,924	669,821	
会議費	4,082,066	4,356,935	△ 274,869	
旅費交通費	3,370,099	4,598,191	△ 1,228,092	
通信運搬費	1,687,492	4,359,365	△ 2,671,873	
減価償却費	3,182,327	2,486,071	696,256	
消耗品費	1,020,952	806,859	214,093	
印刷製本費	404,370	783,639	△ 379,269	
光熱水料費	560,044	465,115	94,929	
賃借料	4,157,401	3,730,200	427,201	
保険料	74,829	74,750	79	
諸謝金	4,748,648	6,388,999	△ 1,640,351	
租税公課	61,588	92,288	△ 30,700	
支払負担金	3,900,226	3,919,353	△ 19,127	
委託費	14,597,268	13,550,953	1,046,315	
支払手数料	6,334,693	2,962,982	3,371,711	
雑費	110,595	165,045	△ 54,450	
経常費用計	641,109,834	619,464,708	21,645,126	
当期経常増減額	27,079,324	26,552,486	526,838	
2. 経常外増減の部				
(1) 経常外費用				
固定資産除却損	2	4	△ 2	
経常外費用計	2	4	△ 2	
当期経常外増減額	△ 2	△ 4	2	
当期一般正味財産増減額	27,079,322	26,552,482	526,840	
一般正味財産期首残高	1,133,890,137	1,107,337,655	26,552,482	
一般正味財産期末残高	1,160,969,459	1,133,890,137	27,079,322	
Ⅱ 正味財産期末残高	1,160,969,459	1,133,890,137	27,079,322	

2-付1. 正味財産増減計算書 内訳表

2019年4月1日から2020年3月31日まで

※会計および事業区分は、一般社団法人認可の事業区分。

(単位：円)

	実施事業等会計									法人会計	内部取引消去	合計
	継1 調査研究活動	継2 人材育成	継3 学術講習会	継4 会誌	継5 学術刊行物	継6 標準化活動	継7 国際活動	共通	小計			
I 一般正味財産増減の部												
1. 経常増減の部												
(1) 経常収益												
特定資産運用益	7,793	3,191	22,591	0	8,443	19,898	0	26,213	88,129	0		88,129
特定資産受取利息	7,793	3,191	22,591	0	8,443	19,898	0	26,213	88,129	0		88,129
受取入会金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	678,000		678,000
受取入会金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	678,000		678,000
受取会費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	194,573,985		194,573,985
正会員受取会費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	150,911,720		150,911,720
学生会員受取会費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12,612,265		12,612,265
賛助会員受取会費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	31,050,000		31,050,000
事業収益	160,948,083	10,465,646	67,651,325	18,517,680	98,400,991	96,620,301	2,353,079	0	454,957,105	0		454,957,105
頒布・購読収益	0	0	0	5,802,527	38,164,364	866,560	0	0	44,833,451	0		44,833,451
掲載・別刷料収益	0	0	0	745,571	58,786,062	0	0	0	59,531,633	0		59,531,633
広告収益	18,256,400	1,280,000	11,935,006	11,969,142	262,000	0	0	0	43,702,548	0		43,702,548
参加費収益（含予稿集）	110,881,190	382,000	53,964,132	0	0	2,398,080	0	0	167,625,402	0		167,625,402
審査料・登録料収益	0	5,005,060	0	0	0	0	0	0	5,005,060	0		5,005,060
研究会登録費収益	28,917,456	0	0	0	0	0	0	0	28,917,456	0		28,917,456
規格賛助員費収益	0	0	0	0	0	89,700,000	0	0	89,700,000	0		89,700,000
国際会議収益	2,756,957	0	0	0	0	0	2,353,079	0	5,110,036	0		5,110,036
分担金収益	0	0	1,742,507	0	0	0	0	0	1,742,507	0		1,742,507
抄録料、著作権使用料等収益	136,080	0	9,680	440	1,188,565	0	0	0	1,334,765	0		1,334,765
受取民間委託費	0	3,798,586	0	0	0	3,655,661	0	0	7,454,247	0		7,454,247
受取補助金等	3,617,680	0	1,300,000	0	0	8,156,621	0	0	13,074,301	0		13,074,301
受取民間補助金	0	0	0	0	0	8,156,621	0	0	8,156,621	0		8,156,621
受取民間助成金	3,617,680	0	1,300,000	0	0	0	0	0	4,917,680	0		4,917,680
受取寄付金	2,500,000	0	54,031	0	0	0	0	0	2,554,031	0		2,554,031
受取寄付金	2,500,000	0	54,031	0	0	0	0	0	2,554,031	0		2,554,031
雑収益	69,654	0	2,230	0	0	1,954,154	0	0	2,026,038	237,569		2,263,607
受取利息	10	0	13	0	0	52	0	0	75	1,069		1,144
雑収益	69,644	0	2,217	0	0	1,954,102	0	0	2,025,963	236,500		2,262,463
経常収益計	167,143,210	10,468,837	69,030,177	18,517,680	98,409,434	106,750,974	2,353,079	26,213	472,699,604	195,489,554	0	668,189,158

	実施事業等会計									法人会計	内部取引消去	合計
	継1 調査研究活動	継2 人材育成	継3 学術講習会	継4 会誌	継5 学術刊行物	継6 標準化活動	継7 国際活動	共通	小計			
(2) 経常費用												
事業費	167,772,737	11,536,845	86,900,223	75,204,264	102,296,973	104,939,098	3,957,401	13,144,793	565,752,334			565,752,334
給料手当	17,566,439	2,585,081	19,159,774	12,463,086	34,018,208	42,946,429	595,641	0	129,334,658			129,334,658
賞与引当金繰入額	2,111,387	310,712	2,302,899	1,497,993	4,088,797	5,100,000	71,593		15,483,381			15,483,381
臨時雇賃金	3,480,457	0	2,168,184	0	0	0	9,200	0	5,657,841			5,657,841
退職金	0	0	0	0	0	68,000	0		68,000			68,000
退職給付費用	324,710	47,773	354,320	230,432	606,623	1,125,200	10,948	0	2,700,006			2,700,006
福利厚生費	3,905,013	574,651	4,259,376	2,770,597	7,538,972	9,547,612	132,348	0	28,728,569			28,728,569
会議費	72,788,088	334,228	11,763,999	577,550	672,809	7,781,887	36,755	0	93,955,316			93,955,316
旅費交通費	16,175,262	1,758,347	2,700,761	136,688	184,300	12,977,234	2,664,586	0	36,597,178			36,597,178
通信運搬費	1,235,149	55,224	1,071,046	14,536,465	93,980	564,071	4,760	0	17,560,695			17,560,695
減価償却費	1,810,423	231,846	1,469,794	739,416	2,234,065	1,977,897	35,047	0	8,498,488			8,498,488
消耗品費	2,939,863	1,052,493	2,715,247	806,930	1,739,485	232,092	12,696	0	9,498,806			9,498,806
印刷製本費	11,006,785	191,753	8,657,748	29,091,603	26,968,789	384,137	0	0	76,300,815			76,300,815
光熱水料費	660,452	77,017	631,533	362,007	1,128,809	0	17,294	0	2,877,112			2,877,112
賃借料	4,902,746	571,717	4,688,084	2,687,286	8,379,526	8,144,698	128,369	0	29,502,426			29,502,426
保険料	24,678	2,000	92,439	0	0	346,040	0	0	465,157			465,157
諸謝金	7,805,279	1,600,036	4,002,030	2,901,218	779,291	1,704,300	60,000	0	18,852,154			18,852,154
租税公課	82,698	4,134	50,572	14,331	42,994	38,046	665	13,122,193	13,355,633			13,355,633
支払負担金	0	0	0	0	0	1,834,231	0	0	1,834,231			1,834,231
支払助成金	0	0	311,660	0	0	0	0	0	311,660			311,660
委託費	19,749,103	1,484,409	17,622,141	6,360,017	13,379,733	9,694,575	95,473	0	68,385,451			68,385,451
支払手数料	1,204,205	215,424	831,167	25,621	440,592	442,750	6,270	0	3,166,029			3,166,029
支払分担金	0	440,000	1,811,286	0	0	0	0	0	2,251,286			2,251,286
貸倒引当金繰入額	0	0	0	0	0	0	0	22,600	22,600			22,600
雑費	0	0	236,163	3,024	0	29,899	75,756		344,842			344,842

	実施事業等会計									法人会計	内部取引消去	合計
	継1 調査研究活動	継2 人材育成	継3 学術講習会	継4 会誌	継5 学術刊行物	継6 標準化活動	継7 国際活動	共通	小計			
管理費										75,357,500		75,357,500
給料手当										18,441,944		18,441,944
賞与引当金繰入額										2,216,619		2,216,619
臨時雇賃金										793,200		793,200
退職給付費用										913,394		913,394
福利厚生費										4,699,745		4,699,745
会議費										4,082,066		4,082,066
旅費交通費										3,370,099		3,370,099
通信運搬費										1,687,492		1,687,492
減価償却費										3,182,327		3,182,327
消耗品費										1,020,952		1,020,952
印刷製本費										404,370		404,370
光熱水料費										560,044		560,044
賃借料										4,157,401		4,157,401
保険料										74,829		74,829
諸謝金										4,748,648		4,748,648
租税公課										61,588		61,588
支払負担金										3,900,226		3,900,226
委託費										14,597,268		14,597,268
支払手数料										6,334,693		6,334,693
雑費										110,595		110,595
経常費用計	167,772,737	11,536,845	86,900,223	75,204,264	102,296,973	104,939,098	3,957,401	13,144,793	565,752,334	75,357,500	0	641,109,834
当期経常増減額	△ 629,527	△ 1,068,008	△ 17,870,046	△ 56,686,584	△ 3,887,539	1,811,876	△ 1,604,322	△ 13,118,580	△ 93,052,730	120,132,054	0	27,079,324
2. 経常外増減の部												
(1) 経常外費用												
固定資産除却損								2	2			2
経常外費用計	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	2
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0	0	△ 2	△ 2	0	0	△ 2
当期一般正味財産増減額	△ 629,527	△ 1,068,008	△ 17,870,046	△ 56,686,584	△ 3,887,539	1,811,876	△ 1,604,322	△ 13,118,582	△ 93,052,732	120,132,054	0	27,079,322
一般正味財産期首残高	△ 58,420,626	8,179,933	△ 136,246,183	△ 476,547,721	△ 126,863,064	△ 10,146,130	2,496,822	881,995,117	84,448,148	1,049,441,989	0	1,133,890,137
一般正味財産期末残高	△ 59,050,153	7,111,925	△ 154,116,229	△ 533,234,305	△ 130,750,603	△ 8,334,254	892,500	868,876,535	△ 8,604,584	1,169,574,043	0	1,160,969,459
Ⅱ 正味財産期末残高	△ 59,050,153	7,111,925	△ 154,116,229	△ 533,234,305	△ 130,750,603	△ 8,334,254	892,500	868,876,535	△ 8,604,584	1,169,574,043	0	1,160,969,459

2-付2. 正味財産増減計算書 事業別サマリー

実施事業	項 目	収益			経費			差額		
		2018決算	2019予算	2019決算	2018決算	2019予算	2019決算	2018決算	2019予算	2019決算
1	調査研究	129,423	149,576	167,144	137,060	156,338	167,773	-7,637	-6,762	-629
	研究会,調査委員会	35,927	36,404	36,568	40,279	41,831	38,145	-4,352	-5,427	-1,577
	シンポジウム等	90,954	110,672	128,068	78,463	93,695	110,038	12,491	16,977	18,030
	表彰	2,500	2,500	2,500	6,845	7,489	6,635	-4,345	-4,989	-4,135
	運用益,管理費割掛ほか	42	0	8	11,473	13,323	12,955	-11,431	-13,323	-12,947
2	人材育成	18,161	16,386	10,468	14,842	18,980	11,537	3,319	-2,594	-1,069
	教育活動	1,636	1,860	1,662	2,637	4,325	1,710	-1,001	-2,465	-48
	教育活動-受託分	8,220	3,834	3,799	7,109	3,404	3,456	1,111	430	343
	資格認定	8,302	10,692	5,004	3,431	9,508	4,663	4,871	1,184	341
	運用益,管理費割掛ほか	3	0	3	1,665	1,743	1,708	-1,662	-1,743	-1,705
3	学術講習会	71,875	84,410	69,030	91,851	107,293	86,900	-19,976	-22,883	-17,870
	全国大会	32,162	35,071	23,532	29,254	33,496	20,613	2,908	1,575	2,919
	F I T	9,193	19,513	21,628	9,110	19,193	21,122	83	320	506
	プロシン	4,867	4,867	3,731	4,602	4,864	3,412	265	3	319
	AIプロコン	930	1,000	825	1,597	1,554	1,356	-667	-554	-531
	その他事業	0	0	0	1,587	1,553	1,539	-1,587	-1,553	-1,539
	セミナー	10,385	12,416	11,689	8,828	8,950	8,115	1,557	3,466	3,574
	ITフォーラム	4,629	5,401	330	6,317	6,862	2,394	-1,688	-1,461	-2,064
	支部所管分	9,686	6,142	7,272	18,267	16,668	15,441	-8,581	-10,526	-8,169
	運用益,管理費割掛ほか	23	0	23	12,289	14,153	12,908	-12,266	-14,153	-12,885
4	会 誌	22,071	20,530	18,518	69,204	79,633	75,204	-47,133	-59,103	-56,686
	会誌	22,071	20,530	18,518	45,019	50,586	49,093	-22,948	-30,056	-30,575
	会誌発送経費				17,214	20,622	18,326	-17,214	-20,622	-18,326
	運用益,管理費割掛ほか	0	0	0	6,971	8,425	7,785	-6,971	-8,425	-7,785
5	学術刊行物	101,666	101,777	98,409	110,430	115,618	102,297	-8,764	-13,841	-3,888
	ジャーナル	63,837	64,210	60,177	42,973	45,860	36,517	20,864	18,350	23,660
	トランザクション	14,637	14,209	13,100	10,345	10,778	8,888	4,292	3,431	4,212
	出版-電子出版等	22,243	22,958	24,140	24,495	24,509	25,004	-2,252	-1,551	-864
	出版-DP	941	400	984	5,863	6,557	5,886	-4,922	-6,157	-4,902
	出版-歴史	0	0	0	2,827	2,050	2,192	-2,827	-2,050	-2,192
	運用益,管理費割掛ほか	8	0	8	23,927	25,864	23,810	-23,919	-25,864	-23,802
7	国際活動	1,038	1,340	2,353	3,590	4,478	3,957	-2,552	-3,138	-1,604
	国際活動	1,038	1,340	2,353	3,292	4,141	3,588	-2,254	-2,801	-1,235
	運用益,管理費割掛ほか	0	0	0	298	337	369	-298	-337	-369
	共通	26	200	26	11,016	14,570	13,145	-10,990	-14,370	-13,119
	運用益／共通経費	26	200	26	11,016	14,570	13,145	-10,990	-14,370	-13,119
本部 実施事業 小計		344,260	374,219	365,948	437,993	496,910	460,813	-93,733	-122,691	-94,865
法人会計		193,930	187,000	195,490	73,499	80,160	75,358	120,431	106,840	120,132
	会員	193,539	186,700	195,252	16,878	16,215	17,716	176,661	170,485	177,536
	会員	193,539	186,700	195,252	6,592	5,930	5,917	186,947	180,770	189,335
	運用益,管理費割掛ほか				10,286	10,285	11,799	-10,286	-10,285	-11,799
	管理	391	300	238	47,713	54,240	49,425	-47,322	-53,940	-49,187
	管理	391	300	238	19,621	21,860	17,319	-19,230	-21,560	-17,081
	運用益,管理費割掛ほか				28,092	32,380	32,106	-28,092	-32,380	-32,106
	支部所管				8,908	9,705	8,217	-8,908	-9,705	-8,217
本部 当期正味財産増減		538,190	561,219	561,438	511,492	577,070	536,171	26,698	-15,851	25,267
6	標準化活動	107,827	108,057	106,751	107,973	107,491	104,939	-146	566	1,812
本部＋標準化の合計		646,017	669,276	668,189	619,465	684,561	641,110	26,552	-15,285	27,079
								1,107,337	1,133,889	1,133,889
								1,133,889	1,118,604	1,160,968

3. 財務諸表に対する注記

3-1. 重要な会計方針

(1) 棚卸資産の評価基準および評価方法

棚卸資産の評価基準および評価方法は、先入先出法による原価法によります。

(2) 固定資産の減価償却の方法

固定資産の減価償却は、法人税法で定める定額法によります。なお、取得価額が30万円未満のものについては費用処理しています。

(3) 引当金の計上基準

1) 退職給付引当金は、職員に対する退職給与の支給に備えるため、自己都合による期末要支給額を計上しています。

2) 賞与引当金は、職員に支給する賞与の支出に充当するため、支給見込額を計上しています。

3) 貸倒引当金は、債権の貸倒れによる損失に備えるため、貸倒実績率法により計上しています。

引当金の明細は、次の通りです。

科目	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			目的使用	その他	
退職給付引当金	72,914,460	3,613,400	2,251,000	0	74,276,860
賞与引当金	18,900,000	17,700,000	18,900,000	0	17,700,000
貸倒引当金	590,000	22,600	192,600	0	420,000

(4) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方式によっています。

3-2. 特定資産の増減額およびその残高

特定資産の増減額およびその残高は次の通りです。

科目	期首残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
特定資産				
退職給付引当資産	72,914,460	3,613,400	2,251,000	74,276,860
山下記念研究賞積立資産	2,608,962	1,800,026	1,392,797	3,016,191
記念事業積立資産	13,594,950	20,001,636	769,028	32,827,558
電子化積立資産	28,699,988	1,200	3,282,098	25,419,090
公益目的事業積立資産	43,871,186	10,668	509,776	43,372,078
調査研究積立資産	146,483,947	3,332,008	1,186	149,814,769
音楽情報科学積立資産	1,582,482	14	2	1,582,494
学術刊行物積立資産	123,987,473	8,443	1,290	123,994,626
学術講習会積立資産	138,398,235	22,591	3,457	138,417,369
人材育成積立資産	48,466,833	3,191	487	48,469,537
規格国際会議開催積立資産	51,698,119	4,250	648	51,701,721
規格国際会議派遣積立資産	66,904,421	6,702	1,025	66,910,098
規格電子化積立資産	31,220,218	3,127	477	31,222,868
規格長期運営積立資産	58,054,418	5,819	890	58,059,347
合 計	828,485,692	28,813,075	8,214,161	849,084,606

3-3. 特定資産の財源等の内訳

特定資産の財源等の内訳は次の通りです。

科目	当期末残高	(うち指定正味財産 からの充当額)	(うち一般正味財産 からの充当額)	(うち負債に 対応する額)
特定資産				
退職給付引当資産	74,276,860	—	—	(74,276,860)
山下記念研究賞積立資産	3,016,191	—	(3,016,191)	—
記念事業積立資産	32,827,558	—	(32,827,558)	—
電子化積立資産	25,419,090	—	(25,419,090)	—
公益目的事業積立資産	43,372,078	—	(43,372,078)	—
長尾真記念特別賞積立資産	0	—	(0)	—
喜安記念業績賞積立資産	0	—	(0)	—
調査研究積立資産	149,814,769	—	(149,814,769)	—
音楽情報科学積立資産	1,582,494	—	(1,582,494)	—
学術刊行物積立資産	123,994,626	—	(123,994,626)	—
学術講習会積立資産	138,417,369	—	(138,417,369)	—
人材育成積立資産	48,469,537	—	(48,469,537)	—
規格国際会議開催積立資産	51,701,721	—	(51,701,721)	—
規格国際会議派遣積立資産	66,910,098	—	(66,910,098)	—
規格電子化積立資産	31,222,868	—	(31,222,868)	—
規格長期運営積立資産	58,059,347	—	(58,059,347)	—
合 計	849,084,606	—	(774,807,746)	(74,276,860)

3-4. 補助金等の内訳ならびに交付者、当期の増減額および残高

補助金等の内訳ならびに交付者、当期の増減額および残高は、次の通りです。

補助金等の名称	交付者	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	貸借対照表上 の記載区分
民間 補助金・助成金						(※注)
国際幹事等						
国際会議派遣事業補助	株)三菱総合研究所	0	5,427,621	5,427,621	0	
情報技術分野の標準化・規格 化の推進に関する補助	公財) JKA	0	2,280,000	2,280,000	0	
コンベンション開催事業補助 金 (ISO/IEC SC24&WG)	公財) 高松観光コンベンションビューロー	0	149,000	149,000	0	
国際会議開催事業補助金 (ISO/IEC SC25&WG)	一社) 長崎国際観光コンベンション協会	0	300,000	300,000	0	
コンベンション誘致推進事業補助金 (DAシンポジウム2019)	加賀市	0	117,600	117,600	0	
コンベンション誘致推進事業補助金 (DAシンポジウム2019)	石川県	0	80,000	80,000	0	
コンベンション開催支援事業補助金 (DICOM2019)	福島県	0	1,100,000	1,100,000	0	
コンベンション開催支援事業助成金 (DICOM2019)	公財) 郡山コンベンションビューロー	0	500,000	500,000	0	
学会開催補助金 (じんもんこん2019)	立命館大学OICリサーチオフィス	0	88,000	88,000	0	
コンベンション開催助成金 (CSS2019シンポジウム)	公財) 佐世保観光コンベンション協会	0	1,500,000	1,500,000	0	
コンベンション開催支援補助金 (第109回GN・第27回CDS・第24 回DCC合同研究発表会)	隠岐の島町長	0	232,080	232,080	0	
コンベンション開催事業補助金 (FIT2019)	公社) おかやま観光コンベンション協会	0	1,000,000	1,000,000	0	
郷土芸能等アトラクション費用助成 金 (FIT2019)	公社) おかやま観光コンベンション協会	0	50,000	50,000	0	
研究発表会開催助成金 (FIT2019)	公財) 中国電力技術研究財団	0	150,000	150,000	0	
講演会助成金 (東海支部講演会)	IEEE Nagoya Section	0	50,000	50,000	0	
コンベンション開催各種支援金 (東北支部2019年度連合大会)	公財) 秋田観光コンベンション協会	0	50,000	50,000	0	
合 計		0	13,074,301	13,074,301	0	

(※注) いずれも当該事業年度内に目的たる支出が完了するため、貸借対照表上の記載はありません。

4. 附属明細書

4－1. 特定資産の明細

「公益法人会計基準」の運用指針（平成20年4月11日 平成21年10月16日改正 内閣府公益認定等委員会）に定める附属明細書の記載上の留意事項に従い、財務諸表の注記2および3に記載しているので、内容の記載を省略します。

4－2. 引当金の明細

「公益法人会計基準」の運用指針（平成20年4月11日 平成21年10月16日改正 内閣府公益認定等委員会）に定める附属明細書の記載上の留意事項に従い、財務諸表の注記1(3)に記載しているので、内容の記載を省略します。

以上

5. 財産目録

2020年3月31日現在

(単位：円)

貸借対照表科目	場所・物量等	使用目的等	金額
(流動資産)			
現金預金	手元保管	運転資金	285,478
	三菱UFJ銀行 本店	同上	135,960,911
	みずほ銀行 虎ノ門支店	同上	132,424,301
	三井住友銀行 三田通支店	同上	107,097,694
	三井住友銀行 本店	同上	3,478,256
	三菱UFJ信託銀行 本店	同上	3,000,255
	ゆうちょ銀行 019店 (本部)	同上	58,829,657
	ゆうちょ銀行 008店	同上	4,248,484
未収会費	会費に関する未収額	法人会計の未収分	7,169,987
未収金	参加費等に関する未収額	調査研究事業の未収分	2,456,000
	認定情報技術者等に関する未収額	人材育成事業の未収分	884,300
	参加費、広告等に関する未収額	学術講習会事業の未収分	7,624,040
	頒布、購読、広告他に関する未収額	会誌事業の未収分	3,791,089
	頒布、掲載、購読に関する未収額	学術刊行物の未収分	12,344,283
	受託に関する未収額	標準化事業の未収分	2,280,000
前払金	次年度職員通勤費等の前払い	実施事業および法人の管理運営業務に関連した前払分	2,330,089
	次年度事務所家賃等の前払い	実施事業および法人の管理運営業務に関連した前払分	2,007,896
	関連団体年会費等の前払い	法人の管理運営業務の前払分	1,976,896
	次年度開催シンポジウム関連経費の前払い	調査研究事業の前払分	279,500
	次年度開催イベント関連経費の前払い	学術講習会事業の前払分	302,366
	次年度人材育成事業関連経費の前払い	人材育成事業の前払分	4,140
仮払金	国際会議開催準備の仮払金	国際事業の仮払分	2,500,000
	個人認証審査委員会会場取消の仮払	人材育成事業の仮払分	13,750
	理事会会場取消の仮払	法人の管理運営業務に関連した仮払分	91,300
支部仮払金	支部小口現金および関西支部への仮払分	学術講習会事業の仮払分	2,616,606
貸倒引当金	短期債権の貸倒れによる損失対応額	各実施事業に関連した引当金 (貸倒実績率法)	△420,000
商品	頒布用バックナンバーの図書相当額	学術刊行物事業の保有分 (先入先出法による原価法)	3,504,719
貯蔵品	封筒、手提げ袋、ノベルティ消耗品相当額	各実施事業の保有分 (先入先出法による原価法)	888,558
流動資産 合計			497,970,555
(固定資産)			
特定資産			
退職給付引当資産	三井住友銀行 三田通支店 (普通・定期預金)	実施事業と法人の管理運営業務に関連した退職給付引当金に対応する積立資産	74,276,860
山下記念研究賞積立資産	みずほ銀行 虎ノ門支店 (普通預金)	調査研究事業の積立資産	3,016,191
記念事業積立資産	みずほ銀行 虎ノ門支店 (普通・定期預金)	実施事業と法人の管理運営業務に関連する積立資産	32,827,558
電子化積立資産	みずほ銀行 虎ノ門支店 (普通・定期預金)	実施事業と法人の管理運営業務に関連する積立資産	25,419,090
公益目的事業積立資産	みずほ銀行 虎ノ門支店 (普通・定期預金)	実施事業と法人の管理運営業務に関連する積立資産	43,372,078
調査研究積立資産	三井住友銀行 三田通支店 (普通・定期預金)	調査研究事業の積立資産	149,814,769
音楽情報科学積立資産	みずほ銀行 虎ノ門支店 (普通・定期預金)	調査研究事業の積立資産	1,582,494
学術刊行物積立資産	三井住友銀行 三田通支店 (普通・定期預金)	学術刊行物事業の積立資産	123,858,381
同上	三菱UFJ銀行 本店 (普通・定期預金)	学術刊行物事業の積立資産	136,245
学術講習会積立資産	三菱UFJ銀行 本店 (普通・定期預金)	学術講習会事業の積立資産	138,417,369
人材育成積立資産	三菱UFJ銀行 本店 (普通・定期預金)	人材育成事業の積立資産	48,469,537
規格国際会議開催積立資産	三菱UFJ銀行 本店 (定期預金)	標準化事業の積立資産	51,701,721
規格国際会議派遣積立資産	三井住友銀行 本店 (定期預金)	標準化事業の積立資産	66,910,098
規格電子化積立資産	みずほ銀行 虎ノ門支店 (定期預金)	標準化事業の積立資産	31,222,868
規格長期運営積立資産	三菱UFJ銀行 本店 (定期預金)	標準化事業の積立資産	58,059,347
その他固定資産			
什器備品	PC、サーバ、書庫ほか、本部関連設備	調査研究事業で使用する備品	3,645,130
	PC、サーバ、書庫ほか、本部関連設備	人材育成事業で使用する備品	219,107
	PC、サーバ、書庫ほか、本部関連設備	学術講習会事業で使用する備品	3,598,591
	PC、サーバ、書庫ほか、本部関連設備	会誌事業で使用する備品	1,029,897
	PC、サーバ、書庫ほか、本部関連設備	学術刊行物事業で使用する備品	2,849,357
	PC、サーバ、書庫ほか、規格関連設備	標準化活動事業で使用する備品	2,926,508
	PC、サーバ、書庫ほか、本部関連設備	国際活動事業で使用する備品	48,864
	PC、サーバ、書庫ほか、本部関連設備	法人の管理運営業務で使用する備品	5,430,978
リース資産	コピー機	調査研究事業で使用するリース資産	1,687,544
	コピー機	人材育成事業で使用するリース資産	196,749
	コピー機	学術講習会事業で使用するリース資産	1,613,342
	コピー機	会誌事業で使用するリース資産	925,058
	コピー機	学術刊行物事業で使用するリース資産	2,794,960
	コピー機	国際活動事業で使用するリース資産	43,847
	コピー機	法人の管理運営業務で使用するリース資産	3,981,300

ソフトウェア	会員管理システム、経理システム、選挙システムほか	法人の管理運営業務のシステム	48,893,280
	研究会受付システム	調査研究事業で使用するシステム	5,990,640
	認定情報技術者管理システム	人材育成事業で使用するシステム	745,800
	出版歴史CMSソフト	学術刊行物事業で使用するシステム	3,150,000
	規格投票プログラム、セキュリティシステムほか	標準化事業で使用するシステム	25,640,085
減価償却累計額	什器備品・ソフトウェアの減価償却累計額（定額法）	実施事業と法人の管理運営業務に関連した左記累計額	△89,181,616
敷金	事務室借室 化学会館／機械振興会館	法人の管理運営に供している資産	19,868,800
固定資産 合計			895,182,827
資産 合計			1,393,153,382
(流動負債)			
未払金	研究会・シンポジウム開催に関する未払経費	調査研究事業の未払分	349,475
	教育認定情報技術者に関する未払経費	人材育成事業の未払分	1,533,789
	全国大会、AI7 ロン、支部講習会に関する未払経費	学術講習会事業の未払分	512,729
	学術刊行物の刊行に関する未払経費	学術刊行物事業の未払分	238,187
	標準化業務に関する未払経費	標準化事業の左記未払分	1,152,909
	社会保険料等の未払経費	実施事業と法人の管理運営業務に関連した未払分	4,433,710
	法人の管理運営に関する未払経費	法人の管理運営業務の未払分	6,526,813
未払消費税等	未払消費税等	実施事業と法人の管理運営業務に関連した未払分	4,951,200
未払法人税等	未払法人税等	法人税法上の実施事業に関連した未払分	70,000
前受金	次年度研究会登録費ほか受入額	調査研究事業の前受分	12,685,452
	次年度教育受託受入額	人材育成事業の前受分	5,000,000
	次年度会誌購読料受入額	会誌事業の前受分	382,800
	次年度論文誌等購読料受入額	学術刊行物事業の前受分	11,090,020
	次年度講習会参加費受入額	学術講習会事業の前受分	440,000
	次年度規格賛助員費受入額	標準化事業の前受分	4,500,000
	次年度会費・入会金受入額	法人の管理運営業務に関連した前受分	78,340,385
預り金	源泉所得税等預り金	実施事業と法人の管理運営業務に関連した預り分	1,130,743
仮受金	誤入金、未清算金等仮受金	実施事業と法人の管理運営業務に関連した仮受分	872,691
1年以内返済リース債務			2,248,560
賞与引当金	2020年6月の職員賞与支給に関する引当金	実施事業と法人の管理運営業務に関連した引当金	17,700,000
流動負債 合計			154,159,463
(固定負債)			
リース債務			3,747,600
退職給付引当金	2020年3月末日における自己都合による期末要支給額	各実施事業と法人の管理運営業務に関連した引当金（簡便法）	74,276,860
固定負債 合計			78,024,460
負債 合計			232,183,923
正味財産			1,160,969,459

[第 1 号議案]

1-3. 2019 年度 公益目的支出計画実施報告書

- ・ 参考：「定期提出書類の手引き」移行法人編より
公益目的支出計画実施報告書等の提出手続きの概要
- ・ 別紙 1. 法人の基本情報（掲載略）
- ・ 別紙 2. 公益目的支出計画実施報告書

※「実施事業の状況等」および「引当金の明細」の詳細は、前述の事業報告書・計算書類の内容と重複するため、本資料内への掲載は略し、次の Web サイトに掲載します。

<https://www.ipsj.or.jp/annai/aboutipsj/soukai/soukai-20200603.html>

I 公益目的支出計画実施報告書等の提出手続の概要

I-1 公益目的支出計画実施報告書等の提出等

移行法人（整備法 § 45 の認可を受けて移行の登記をした一般社団法人又は一般財団法人であって公益目的支出計画の実施の完了の確認を受けていないものをいう。以下同じ。）は、行政庁に公益目的支出計画の実施の完了の確認を受けるまでの間、公益目的支出計画に定めたとおりにしたがって、公益目的のための支出を適正に行う必要があります。このため、整備法では移行法人に対し、公益目的支出計画の実施状況を明らかにする書類（以下「公益目的支出計画実施報告書」という。）等の作成・開示・提出を求めています。

移行法人は、各事業年度ごとに、公益目的支出計画実施報告書を作成する必要があります（整備法 § 127 I）。また、移行法人は、法人法で定める計算書類等（各事業年度に係る貸借対照表、損益計算書及び事業報告並びにこれらの附属明細書（監査報告又は会計監査報告¹を含む。）をいう。以下同じ。）を作成し、監査を受け、理事会の承認を受けた後、社員又は評議員に提供し、社員総会又は評議員会への報告又は承認を受ける必要があります（法人法 § 123、§ 124、§ 125、§ 126、§ 199）。公益目的支出計画実施報告書についても、監査を受け、理事会の承認を受けた後、社員又は評議員に提供し、社員総会又は評議員会に報告する必要があります（整備法 § 127 II、整備法施行規則 § 43、44 等）。

また、定時社員総会又は定時評議員会の終結後、遅滞なく、貸借対照表を公告し（法人法 § 128）、また、計算書類等を、定時社員総会又は定時評議員会の日の 2 週間（理事会非設置一般社団法人にあっては、1 週間）前の日から 5 年間、その主たる事務所に、その写しを 3 年間、その従たる事務所に備え置かなければならず、社員又は評議員及び債権者から閲覧の請求があった場合、拒むことはできません（法人法 § 129、§ 199）。

加えて、移行法人は、公益目的支出計画実施報告書を、定時社員総会若しくは定時評議員会の日の 2 週間（理事会非設置一般社団法人にあっては、1 週間）前の日から 5 年間、主たる事務所に備え置き、閲覧の請求があったときは、正当な理由なくこれを拒んではならないこととされています（整備法 § 127 V、VI）。

さらに、移行法人は、公益目的支出計画実施報告書及び法人法で定める計算書類等（以下「公益目的支出計画実施報告書等」という。）を、毎事業年度の経過後 3 箇月以内に、移行認可を受けた行政庁に提出しなければならないこととされています。（整備法 § 127 III）。

¹ 監査報告又は会計監査報告については、監事又は会計監査人を置いていない法人にあっては、作成、備え置きは不要です。

【別紙2:公益目的支出計画実施報告書】

2. 公益目的支出計画実施報告書

【 令和 元 年度(平成31年4月1日 から 令和2年3月31日 まで)の概要】

1. 公益目的財産額	966,141,129 円
2. 当該事業年度の公益目的収支差額(①+②-③)	974,745,713 円
①前事業年度末日の公益目的収支差額	881,692,981 円
②当該事業年度の公益目的支出の額	565,752,336 円
③当該事業年度の実施事業収入の額	472,699,604 円
3. 当該事業年度末日の公益目的財産残額	-8,604,584 円
4. 2の欄に記載した額が計画に記載した見込み額と異なる場合、その概要及び理由 ^注	
収入は諸事業収入の減少により約300万円減、支出は概ね計画通りで、公益目的収支差額の単年度消化は計画に対して約300万円減ではあったが、当該事業年度の公益目的財産残額は約マイナス860万円となり、計画上の完了見込みのとおりに公益目的支出計画の実施を完了した。	

注:詳細は、別紙様式に個別の実施事業等ごとに記載してください。

【公益目的支出計画の状況】

公益目的支出計画の 完了予定事業年度の末日	①. 計画上の完了見込み	令和2年3月31日
	②. ①より早まる見込みの場合	

	前事業年度		当該事業年度		翌事業年度
	計画	実績	計画	実績	計画
公益目的財産額	966,141,129 円	966,141,129 円	966,141,129 円	966,141,129 円	966,141,129 円
公益目的収支差額	892,205,033 円	881,692,981 円	988,222,033 円	974,745,713 円	1,084,239,033 円
公益目的支出の額	565,332,000 円	545,966,186 円	565,332,000 円	565,752,336 円	565,332,000 円
実施事業収入の額	469,315,000 円	452,087,345 円	469,315,000 円	472,699,604 円	469,315,000 円
公益目的財産残額	73,936,096 円	84,448,148 円	-22,080,904 円	-8,604,584 円	-118,097,904 円

※前事業年度及び当該事業年度の計画及び実績の額、翌事業年度の計画の額を記載してください。

[第 1 号議案]

1-4. 2019 年度監査報告書

監査報告書

2020年5月13日

一般社団法人 情報処理学会

会 長 江村 克己 殿

一般社団法人 情報処理学会

監 事 串 田 高 幸 

私たち監事は、2019年4月1日から2020年3月31日までの2019年度事業年度における事業報告、計算書類、これらの附属明細書、公益目的支出計画実施報告書その他理事の職務の執行を監査いたしました。その方法及び結果について、次のとおり報告いたします。

1. 監査の方法及びその内容

各監事は、理事及び使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、業務及び財産の状況を調査いたしました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告及びその附属明細書について検討いたしました。

さらに会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該事業年度に係る計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）及びその附属明細書並びに財産目録について検討いたしました。

2. 監査意見

- (1) 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。
- (2) 理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事実は認められません。
- (3) 計算書類及びその附属明細書並びに財産目録は、法人の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に示しているものと認めます。
- (4) あすなろ監査法人の監査の方法および結果は正当であると認めます。
- (5) 公益目的支出計画実施報告書は、法令または定款に従い、法人の公益目的支出計画の実施状況を正しく示しているものと認めます。

以上

監査報告書

2020年5月13日

一般社団法人 情報処理学会

会 長 江村 克己 殿

一般社団法人 情報処理学会

監 事

渡辺 尚 

私たち監事は、2019年4月1日から2020年3月31日までの2019年度事業年度における事業報告、計算書類、これらの附属明細書、公益目的支出計画実施報告書その他理事の職務の執行を監査いたしました。その方法及び結果について、次のとおり報告いたします。

1. 監査の方法及びその内容

各監事は、理事及び使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、業務及び財産の状況を調査いたしました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告及びその附属明細書について検討いたしました。

さらに会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該事業年度に係る計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）及びその附属明細書並びに財産目録について検討いたしました。

2. 監査意見

- (1) 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。
- (2) 理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事実は認められません。
- (3) 計算書類及びその附属明細書並びに財産目録は、法人の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に示しているものと認めます。
- (4) あすなる監査法人の監査の方法および結果は正当であると認めます。
- (5) 公益目的支出計画実施報告書は、法令または定款に従い、法人の公益目的支出計画の実施状況を正しく示しているものと認めます。

以上

独立監査人の監査報告書

2020年5月13日

一般社団法人 情報処理学会

会長 江村 克己 殿

あすなる監査法人

代 表 社 員

業 務 執 行 社 員

公認会計士

嶋 茂

監査意見

当監査法人は、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第124条第2項第1号の規定に基づく監査に準じて、一般社団法人情報処理学会の2019年4月1日から2020年3月31日までの2019年度の貸借対照表、損益計算書（公益認定等ガイドラインⅡ-4の定めによる「正味財産増減計算書」をいう。）及び財務諸表に対する注記並びに附属明細書について監査し、あわせて、貸借対照表内訳表及び正味財産増減計算書内訳表（以下、これらの監査の対象書類を「財務諸表等」という。）について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表等が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して、当該財務諸表等に係る期間の財産及び損益（正味財産増減）の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表等の監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、法人から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

財務諸表等に対する理事者及び監事の責任

理事者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して財務諸表等を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表等を作成し適正に表示するために理事者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表等を作成するに当たり、理事者は、継続事業の前提に基づき財務諸表等を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に基づいて継続事業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監事の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における理事の職務の執行を監視することにある。

財務諸表等の監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表等に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表等に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表等の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判

断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 財務諸表等の監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 理事者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに理事者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 理事者が継続事業を前提として財務諸表等を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続事業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続事業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表等の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表等の注記事項が適切でない場合は、財務諸表等に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、法人は継続事業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 財務諸表等の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表等の表示、構成及び内容、並びに財務諸表等が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監事に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

利害関係

法人と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

[第2号議案]

2. 新名誉会員の推薦

新名誉会員の推薦

第 642 回理事会（2020 年 1 月 28 日開催）の議を経て，定款第 5 条 1 項 2 号
および名誉会員候補者推薦基準にもとづき，下記の方々を新名誉会員に推薦する
こととしたい（順不同，敬称略）。

記

西尾 章治郎

土井 美和子

Zide Du

[第3号議案]

3. 一部役員の任期満了による 新役員の選任

一部役員任期満了による新役員選任

定款第 27 条により、一部役員が本定時総会の終結と同時に任期満了退任となるので、2020 年 3 月に行われた役員選挙を踏まえ、下記の候補者をそれぞれ選任することとしたい。（参考：選挙投票率：★22.9%）

記

理事：萩谷 昌己
 理事：井上 創造
 理事：上原 忠弘
 理事：鎌田真由美
 理事：岸野 泰恵
 理事：高橋 克巳（再任）
 理事：辰己 丈夫
 理事：中小路久美代
 理事：中山 泰一
 理事：西田 知博
 理事：樋口 毅
 理事：松尾 豊
 理事：森嶋 厚行
 監事：河内谷清久仁

注）代表理事および業務執行理事は、本総会直後に開催の新体制理事会において選定。

（参考）

留任役員	退任役員
代表理事（会 長）： 江村 克己 代表理事（副会長）： 中川八穂子	代表理事（副会長）： 岡部 寿男
業務執行理事： 伊藤 智、鬼塚 真、小野寺民也、 窪田 歩、清水 佳奈、下條 真司、 高橋 尚子、田中 淳裕、長 健太、 西垣 正勝、西山 博泰、本田新九郎	業務執行理事： 川原 圭博、楠 房子、倉本 到、 栗原 英俊、佐藤 真一、高橋 克巳、 田島 玲、寺田 努、中野美由紀、 並木美太郎、平井 規郎、湊 真一
監 事： 渡辺 尚	監 事： 串田 高幸

[第 1 号報告]

1-1. 2020 年度事業計画書

1. 概況：重点活動
2. 会員の異動予想
3. 会議等に関する事項
4. 実施事業 1：調査研究活動（定款第 4 条 1 項 1 号および 2 号）
5. 実施事業 2：人材育成（定款第 4 条 1 項 4 号）
6. 実施事業 3：学術講習会の開催（定款第 4 条 1 項 1 号および 2 号）
7. 実施事業 4：会誌の刊行（定款第 4 条 1 項 1 号および 2 号）
8. 実施事業 5：論文誌・学術図書等の刊行（定款第 4 条 1 項 1 号および 2 号）
9. 実施事業 6：標準化活動（定款第 4 条 1 項 3 号）
10. 実施事業 7：国際活動（定款第 4 条 1 項 5 号および 2 号）
11. その他：関連学協会との連絡および協力（定款 4 条 1 項 6 号）
12. 法人運営

2020 年度 事業計画書

1. 概況および重点活動

政府が推進する Society 5.0 や、様々な分野で取り組みが進むデジタルトランスフォーメーションにおいて、社会課題解決や価値創造を支える根幹として、情報処理技術の重要性はますます高まっている。このような情報処理分野での指導的役割を担う立場として、本会の果たすべき役割はますます拡大しており、社会と文化の発展に寄与するための、より長期的視点に基づいた事業の推進が求められている。2020 年は、本会創立 60 周年記念でもあり学会事業の将来にわたる健全な継続、発展に向けた各事業の見直しと強化を図りながら、これまで進めてきた学会価値向上への取り組みを一層加速させる。

学会の価値向上については、2019 年度に引き続き、以下の三つの柱による取り組みを進める。第一は IT エンジニア向け活動の強化として、認定情報技術者制度（CITP）の応募者拡大と CITP コミュニティや外部 IT 団体との連携などの活性化を図るとともに、データサイエンティストや IoT 人材などの育成に向けた検討を進め、本会が日本の産業界の成長に資する役割を拡大する。第二は学生・若手研究者育成のための活動および体制強化として、若手教員向け施策や、ジュニアを指導する小中高校教員を対象とした施策を加え、これまでの活動を更に発展させる。第三はグローバル化の推進として、海外学協会（欧米の他アジアパシフィック等）との連携や研究会活動を中心とした国際会議の開催および JIP 論文の国際ビジビリティ向上を推進する。

学会のコア活動としては、調査研究活動では、新たな研究領域開拓やグローバル化などの取り組みにより研究コミュニティの国際的かつ持続的発展を促す環境整備を継続して実施する。教育活動では、情報専門系カリキュラム標準(J17)の普及や中等教育での情報教育支援、ア krediyteshon 活動などを推進する。会誌については、話題性の高い解説記事提供等により「読まれる会誌」をめざし、デジタルプラクティス、論文誌との連携を更に強化するとともに、学会誌オンラインの充実を図る。

具体的には、下記に示す重点活動項目の活動を通じて学会運営体制の充実と会員サービスの向上を図るとともに本会が社会に提供する価値拡大に寄与する。

1.1 学会運営体制の充実および財政基盤の強化

急激に変化する環境の中で、学会を安定的に運営しつつ、これを発展させるためには、学会としてのトラディショナルな活動は今までどおり大切にしつつ、新しいアイデアを積極的に取り入れて、学会を柔軟に改革できる運営体制が必要である。このため、下記の施策を実施する。

- ① 学会価値の向上による会員増と財政基盤の強化に取組み、会員数減少幅の縮小を目指す。
- ② 長期戦略理事を中心に、各事業の健全な継続性に向けて前年度整理をした各事業の課題について、その解決方法についての検討を進めていく。
- ③ 新世代企画委員会活動を推進し、そこから生まれた新たなチャネルの活用とともに既存の枠組みを活用して新世代の情報処理技術および本会への関心を高める。
- ④ ジュニア会員活性化委員会を中心にジュニア会員制度を定着・活用し会員数の増加を図る。
- ⑤ データサイエンティスト戦略委員会を新設し、教育から資格制度までの総合的な施策検討を行う。
- ⑥ 会員サービスの向上、運用コストの削減、セキュリティ対策の強化等を目標に2018年度より運用を開始した学会システムの機能とサービスの充実を図る。
- ⑦ 第三者機関であるアドバイザリーボードからの提言を適宜諸事業へ反映する。
- ⑧ 財務状況の見える化を図るとともに健全な法人運営を行う。

1.2 IT エンジニア向け活動の強化

- ① 認定情報技術者（Certified IT Professional：略称 CIP）制度について、IFIP IP3 からの認定に伴う CIP の認知度の向上を生かし、個人認証および企業認定の応募者の拡大を図る。2019 年度より個人認証による受審者が増大基調にある中、企業認定の再拡大を図るべく企業への勧誘活動に取り組む。Society 5.0 やデジタルトランスフォーメーション（DX）に代表される IT 技術分野の広がり和社会ニーズを踏まえ、データサイエンティストや IoT 人材などの新しい職種の資格化に向けての検討を引き続き進める。また、CIP コミュニティの更なる活性化を目指す。
- ② デジタルプラクティス、連続セミナー・短期集中セミナー、IT フォーラムなどにより、IT エンジニアの育成に貢献するとともに、会員増、収入増を図る。具体的にはメーリングリストやフォーラムなど、CIP の交流・発表の基盤の拡大を進め、コミュニティへの参加を促し、活性化を図る。また会誌を含め多様な媒体を駆使して活動を紹介し、利用者の増加を図る。デジタルプラクティスに関しては、トランザクション、DP コミュニケーション、DP レポートの 3 本柱での新体制確立にむけ、投稿数の確保、認知度の向上、財政面の改善施策を実施。施策の効果を定量的な KPI（投稿数、ダウンロード数、収支など）で計測して PDCA を回す。CIP や IT フォーラム・研究会、業界団体とも連携する。
- ③ 情報処理推進機構（IPA）、情報サービス産業協会（JISA）、日本情報システム・ユーザー協会（JUAS）、電子情報技術産業協会（JEITA）、科学技術振興機構（JST）、先端 IT 活用推進コンソーシアム（AITC）、インターネット協会（IAJ）、情報通信技術委員（TTC）、日本データ通信協会（JADAC）、新世代 M2M コンソーシアム（M2M）、日本規格協会（JSA）、モバイルコンピューティング推進コンソーシアム（MCPC）、日本 IT 団体連盟（IT 連）、全国地域情報産業団体連合会（ANIA）などの IT エンジニアを対象とする団体や企業との連携をさらに深め、共同イベントの開催などを推進して、会員増に貢献する。

1.3 学生・若手研究者育成のための活動および体制強化

- ① 新世代理事を中心とする横串の組織「新世代企画委員会」活動を推進し、新世代（学生・若手研究者・若手技術者）の発想を学会運営に取り込む。特に、若手の教員向けの施策として、企業と研究者のマッチングの取り組みの継続、国際会議で人脈形成や運営ノウハウを共有するためのイベントを実施する。
- ② 教育理事を中心とする「ジュニア活性化委員会」において、小中高校生、高専生、大学学部 1～3 年生を対象とする会費無料の「ジュニア会員制度」を活用し、学生・生徒の育成を支援するとともに、学部 4 年生以降における有料学生会員への移行・学会活動の継続を促進する。若い IT 人材を育成し日本の将来の成長に資する。
- ③ 研究会や支部などの協力も得て、学生や若手研究者、ジュニア会員のためのイベントを企画開催する。

1.4 グローバル化

- ① IEEE や ACM 等のグローバルトップの国際学会活動を参考にして、学会のグローバル運営戦略を検討し、これを実施する。また、Joint Award の継続、浸透を図る。
- ② アジアの関連学会である中国 CCF (China Computer Federation)、韓国 KIISE (Korean Institute of Information Scientists and Engineers) と中長期的な CJK 連携の強化活動を加速し、国際会議の合同開催等を継続する。
- ③ 日本に留学生を多く輩出している中国や他のアジア地域などの国々との連携の機会を検討し、人的交流を含めた活動を実施する。
- ④ ACM、SEARCC などパシフィックでの学会活動の調査と連携の可能性検討を継続する。
- ⑤ 研究会活動を中心に、国際会議を積極的に主催するとともに、海外学協会との連携も推進する。
- ⑥ 英文論文誌 Journal of Information Processing（以下、JIP）のインパクトファクタ取得の再申請を目指す。そのために論文の Citation 増の方策を検討し、arXiv といったパブリックなプレプリント・サーバーを活用した JIP 論文のビジビリティ向上、クラリベイト・アナリティクス社の Emerging

Sources Citation Index (ESCI)への登録などを実施する。

- ⑦ JIP を中心に、査読プロセスの一部をグローバルスタンダードに合致させてきた。特集号、国際会議連携などの自由度を持つことの重要性も考慮しつつ、査読管理システム ScholarOne Manuscripts が適切かつ効率的に利用できるようマニュアルなどを整備する。

1.5 会員サービスおよび広報の充実

会員サービスの向上および広報宣伝の充実のための諸施策を企画し、会員の目線で、魅力ある学会作りを目指し、必要に応じて会員制度の見直しも検討する。具体的には下記の項目を実施する。

- ① オンライン刊行物の新しいビジネスモデルの推進、マルチメディアコンテンツ配信などの新しいサービス提供形態を推進する。
- ② 2014年度に提携したドワンゴ社のニコニコ動画配信は継続し、強化を図る。
- ③ 会員のアクティビティの電子的な記録を収集するため、イベント・シンポジウム等申込サイトの試行を継続する。また、新たなサービスとして、イベント・シンポジウム会場でのQRコードによる受付システム、当日参加者の電子決済システムを導入し、事務工数の削減や会員サービスの利便性の向上などの効果検証を行う。
- ④ You Yube / JM00Cなど新しい学会メディアチャネルを拡充していく。
- ⑤ 小中高教員のための新規入会キャンペーンを試行実施する。

1.6 情報システムの拡充

2019 年度に検討した 8 支部サイトの Web システム統合について、利用可能な共通プラットフォームや CMS 等の調査および各支部の意向を確認し、また費用対効果を考慮して、今後のサイト統合やマイグレーションの方向性や優先度を定める。また、学会 Web やメールニュースなどのユーザビリティ、アクセシビリティの改善検討を行う。

1.7 各種学会創立 60 周年記念事業の実施

学会創立 60 周年にあたる今年度は、記念会誌特集号「2050 年の情報処理（2020 年 5 月号）」発行、記念論文（記念式典にて表彰）、60 年史「情報処理学会 60 年のあゆみ」の刊行、記念出版「情報処理技術遺産とパイオニアたち」、記念式典開催（10 月 30 日（金）、明治記念館）を実施する。

2. 会員数について

下記の取り組みを実施し、会員数の増加を目指す。

- ・将来の正会員の母体となる学生会員とジュニア会員の勧誘に注力する。具体的には、理事、支部、各研究会、大学の先生方に協力を依頼するとともに、ジュニア会員活性化委員会を中心に、ジュニア会員向けコンテンツやサービスの充実を図り、入会を促進する。また、ジュニア会員獲得と初等中等教育機関の児童生徒の情報教育への貢献を目的とし、初等中等教育機関の教職員の正会員を増やすための割引キャンペーンを試行的に実施する。
- ・正会員(主に産業界)および賛助会員拡大の為にITエンジニア向け新規分野取り組み等に関してIT関連企業団体との連携など企画政策委員会を中心に検討する。
- ・シニア層会員がリタイア後も会員を継続いただけるよう、学会の価値向上とご自身の生きがいを両立する施策を検討する。
- ・各活動において学会の価値向上に取り組み、会員マイページのアクセス率向上と新規会員の獲得に努める。

会員種別	会員数		増減数 ①－②	備考：2020年度の異動内訳				
	① 2020 年度末	② 2019 年度末		入会		退会		資格 喪失
名誉会員	43	40	3	1 2	新入会 正会員から異動			
正会員	15,028	15,211	-183	540 760 0	学生会員から異動 ジュニアから異動	980 2	名誉会員に異動	501
学生会員	2,508	2,585	-77	1,350 35	ジュニアから異動	650 760	正会員に異動	52
ジュニア会員	2,277	1,927	350	930		545 0 35	正会員に異動 学生会員に異動	
個人会員 計	19,856	19,763	93	3,618		2,972		553
賛助会員 (口数)	269 (611)	275 (621)	-6 (-10)	15 (15)		21 (25)		

*2020年度期末正会員数には終身会員 685 名を含む。

3. 会議等に関する事項

下記の会議を計画する。遠隔会議システム等を活用し効率的な運用に努める。

3.1 2020年度通常総会

2020年6月3日(水)に、学士会館(東京都千代田区)で開催する。同時に賛助会員向けに講演会と交流会を計画する。また、歴代会長懇談会も実施する。

3.2 理事会

年度内に6回以上開催し、学会活動に関する諸事項を審議する。

3.3 アドバイザリーボード

第三者機関であるアドバイザリーボードの助言も得て、引続き学会価値の向上と運営の改善への取り組みを継続する。IT ユーザ業界からのメンバ増強も検討する。

3.4 学会創立 60 周年記念式典

2020 年 10 月 30 日（金）に、明治記念館（東京都港区）にて開催する。

3.5 各種委員会

必要に応じて開催し、所轄活動に関する諸事項を審議する。

4. 実施事業 1：調査研究活動（定款第 4 条 1 項 1 号および 2 号）

学会のコアの活動として重点的に取り組み、関連諸活動とも連携して研究会登録数の減少を食い止めるとともに活動の拡大・発展を目指す。

具体的には下記の取り組みを推進する。

- ① 長期的な研究のグランドデザインや 2019 年度に開催した研究ラウンドテーブルでの検討を元に、第 6 期科学技術基本計画に向けて、情報処理分野における学術大型研究計画の企画・立案の検討を継続する。
- ② 国の政策や方針に関する各研究分野の提言活動を推進する。
- ③ 本会として必要なグローバル化のための議論を継続する。国際会議を積極的に主催、共催し財務の健全化に努める。CCF, KIISE との連携を軸に CJK での活動を加速し CNCC での CJK Joint Technical Forum の継続推進と、国際会議の開催等を継続する。
- ④ 研究会活動の国際化, 特に, 海外学会との共同シンポジウム, 合同ワークショップを積極的に開催し, 国際的かつ継続的な“研究コミュニティの形成”を行い, 新しい研究, 技術の国際的発信を継続的に行う研究活動環境を構築する。
- ⑤ 調査研究運営委員会直下に設置・移動する 2 つの研究グループを中心に, 領域横断的な研究分野に対する研究活動実施体制の深化を含む, 研究コミュニティの持続的発展を支える体制構築を促す環境整備を継続して検討・実施する。
- ⑥ 学生・若手に向けた積極的な取り組みにより, 将来を担う学生・若手研究者の育成を図る。学生会員の 1 研究会無料登録制度や学生プログラムコンテスト等, 若手研究者の積極性を促すような企画を計画・実施する。
- ⑦ 調査研究積立資産を活用し, 個々の研究会活動を超えて, 領域単位のプロジェクト, 若手表彰, 国際化の推進など調査研究全体の活動も積極的に展開する。研究会の収支の透明化を図り, 適切な管理費の負担を行う。
- ⑧ 若手の意見を吸上げ, 研究会の動画配信・動画コンテンツを含む研究会資料などの取組を継続して実施する。その他, 必要に応じて, 研究会組織の見直し, 研究発表会への新たな参加方法の検討などを行う。

4.1 研究発表会 [所掌：調査研究運営委員会]

全 41 研究会, 5 研究グループ（詳細は p. 93 「付表 1」 参照）により, 155 回程度（前年度 158 回）の研究発表会を開催する。

4.2 シンポジウム・ワークショップ等 [所掌：調査研究運営委員会]

シンポジウム・ワークショップ等については、マルチメディア、分散、協調とモバイル（DICOM02020）シンポジウム、コンピュータセキュリティシンポジウム（CSS2020）やインタラクション2021など計20回の開催を計画する（詳細は p. 94「付表2」参照）。

4.3 表彰 [所掌：各選奨等委員会]

優れた研究発表および業績等に対して、山下記念研究賞、業績賞、情報処理技術研究開発賞、マイクロソフト情報学研究賞、IPSJ/ACM Award for Early Career Contributions to Global Research, IPSJ/ IEEE Computer Society Young Computer Researcher Award, 若手奨励賞などを贈呈する。

5. 実施事業2：人材育成（定款第4条1項4号）

初等中等教育を含む情報教育、および企業の技術者を対象とした教育プログラムの推進に向けて、以下の施策を実施する。

5.1 情報教育 [所掌：情報処理教育委員会]

(1) J17 カリキュラム標準の普及活動

2017 年度に策定した J17-CS, J17-IS, J17-CE, J17-SE, J17-IT の情報専門学科用カリキュラム標準および、一般情報教育用カリキュラム標準 J17-GE について、フォローアップ作業を行う。また、一般情報教育用カリキュラム標準 J17-GE に準拠した教科書を発行する。

(2) 初等中等教育での情報教育支援

「会員の力を社会につなげる」研究グループ(SSR)と連携して、初等中等教育現場の情報分野の教員の養成支援、教材開発や出張授業などを通じて、教育現場支援をさらに推進する。国の情報教育の方向および内容に関して、他学協会とも連携して意見書や試作学習指導要領の公表などの提言を行う。また、NAPROCK（高専プロコン交流育成協会）、IT ジュニア育成交流協会などとの連携により、高専生向け産学連携シンポジウムの実施や、各地での勉強会・大会の実施を支援する。

5.2 アクレディテーション（技術者教育プログラムの認定） [所掌：情報処理教育委員会]

アクレディテーションによる大学・大学院専門教育の質的向上の推進のため、日本技術者教育認定機構（JABEE）委託の認定評価を継続する。関連して、認定校・受審予定校のコミュニティの育成、専門職大学院認証評価などの活動支援を行う。また、JABEEに協力して情報専門系課程教育の品質保証に努め、ソウル協定による国際水準を目指して教育改善を推進する。

5.3 認定情報技術者制度 [所掌：資格制度運営委員会、個人認証審査委員会、企業認証審査委員会]

高度 IT 人材資格「認定情報技術者（Certified IT Professional：略称 CITP）」制度の IFIP IP3 認定に伴う認知度向上を生かし、個人認証および企業認定の応募者の拡大を図る。2019 年度より個人認証による受審者が増大基調にある中、企業認定の再拡大を図るべく企業への勧誘活動に取り組む。Society5.0 やデジタルトランスフォーメーション（DX）に代表される IT 技術分野の広がり和社会ニーズを踏まえ、データサイエンティストや IoT 人材などの新しい職種の資格化に向けてデータサイエンティスト戦略委員会の中で検討を引き続き進める。また、CITP コミュニティの更なる活性化を目指す。技術士会等関連組織との連携強化を引き続き進める。

5.4 情報教育を担う教員のへの支援 [所掌：情報処理教育委員会]

2014 年度から実施している選択必修領域「ICT 活用」、および選択領域（プログラミングなど）の教員免許更新講習を引き続き実施する。東京以外の地域でも開催する。本会が講習を実施することで、「情報」に関する更新講習不足を補うとともに、高校の情報科教員の養成を支援する。加えて、2022 年度から始まる新指導要領の高校「情報Ⅰ/Ⅱ」に関する教員研修に対し、講師の派遣やオープン教材 MOOC の提供を行っていく。更には、小中高の教職員を対象とした新規入会キャンペーンを試行実施する。

5.5 その他 [所掌：情報処理教育委員会]

(1) 教育シンポジウムならびにコンテストの運営・後援等

教育に関するシンポジウムならびにコンテストを企画運営する。高校教科「情報」に関するシンポジウムは東京と関西で開催する。情報システムに関連する教育実践の一層の拡充を図るために、情報システム教育コンテストを開催する。また、若い世代への本会のプレゼンス向上をめざして、大学生、高校生等を対象とするコンテストの後援（表彰活動）等を推進する。

(2) 大学入試科目に「情報」を導入するための活動

「情報科」での「知識・技能」＋「思考力・判断力・表現力」を評価するための試験問題について、今までに作った問題の整理（問題集や解説本）や新たな作問を継続して行う。加えて、実施方法として CBT など情報ならではの手法の検討を行う。

(3) ジュニア（中高生）世代の活性化をはかる活動

全国大会において、中高生を対象とした中高生情報学研究コンテストを継続実施すると共に、初等中等教員の研究発表セッションを開催し、教員を取り込んで中高生の活性化を図る。「ジュニア会員活性化委員会」により、活動をさらに推進する。

(4) 情報学分野に隣接する領域の教育への協力

データサイエンス・AI 教育に関して、高等教育向けモデルカリキュラム、および教育プログラム認定制度の動向を調査し策定に貢献するとともに、データサイエンティスト資格認定プログラムの策定に向けて協力する。

(5) 情報教育の国際化への活動

2021 年に開催予定の WCCE2021（IFIP/TC3 との共催）の準備を本格化させ、具体的な実施計画を策定する。ソフトウェア工学教育を始め国際化に関して引き続き国際動向を調べる。

(6) 学会誌への教育関連記事の掲載

会員の情報教育への関心を高め、初中等教育現場関係者の学会活動への参加を促すために、学会誌に「ぺた語義」などの教育関連連載記事を企画・編集する。

(7) 表彰、その他

- ① 優れた情報教育の実践等を顕彰するため、優秀教育賞・教材賞を贈呈する。
- ② 教材、講義素材、講義資料などのデジタルアーカイブ実現に向けて調査・検討を行う。
- ③ 教育関連の事業活動の成果を学会収益に結びつける仕組みや寄付の募集を検討する。

6. 実施事業 3：学術講習会の開催（定款第 4 条 1 項 1 号および 2 号）

学術講習会は、学会の重要な収入源であるとともに、学生も含めた若手研究者の活動の場あるいは企業の IT 技術者の情報交換の場でもある。2020 年度は下記の方針で取り組む。

- ・全国大会は、例年通りに開催する。

- ・情報科学技術フォーラム（FIT）は、事務局を本会が全面的に引き受け経費削減に努める。
- ・企業の IT エンジニア向けの連続セミナー，短期集中セミナーなどは魅力的なテーマを選定し，活動を活性化する。
- ・イベント周知のため，学会誌への定期的な記事掲載，各種媒体での告知を検討する。
- ・ジュニア会員向けのプログラミング教室やプログラミングコンテスト，中高生情報学研究コンテストを継続する。

6.1 全国大会／FIT

(1) 第 83 回全国大会 [所掌：全国大会組織委員会]

会期：2021年3月18日(木)～20日(土)，会場：大阪大学豊中キャンパス

参加者見込：約 3,000 名（前年度 2,419 名）

ニコニコ生放送，中高生情報学研究コンテスト（ポスターセッション）も継続実施する。

(2) 第 19 回情報科学技術フォーラム（FIT2020） [所掌：FIT 推進委員会]

会期：2020 年 9 月 1 日(火)～3 日(木)，会場：北海道大学

参加者見込：約 1,400 名（前年度 1,336 名）

選奨セッション，トップコンファレンスセッションを継続実施する。研究会との合同開催も継続し，集客とスポンサー獲得にも注力する。

(3) 表彰 [所掌：全国大会組織委員会]

優れた発表を顕彰するため，全国大会優秀賞・奨励賞などを贈呈する。

6.2 セミナー／その他イベント

(1) 連続セミナー2020 [所掌：セミナー推進委員会]

産業界向けのイベントとして以下を企画，開催する。参加者数見込：延 675 名（遠隔含む）。

全体テーマ 「人間中心社会を支える情報技術の新潮流」

- ①「量子ソフトウェア」
- ②「ブロックチェーンの社会実装／産業応用」
- ③「AI-人文社会科学，意思決定」
- ④「インタラクション」
- ⑤「AI-産業応用」
- ⑥「AI-オープンデータ，データ流通」

(2) 短期集中セミナー等 [所掌：セミナー推進委員会]

学生・若手開発者向けの 1 日開催のセミナーを 6 回程度開催する。IT エンジニア向けのイベントをタイムリーに開催する。関連団体と共催しセミナーを開催する。ジュニア会員向けのプログラミング教室をジュニア会員活性化委員会と連携し開催する。

(3) IT フォーラム 2021 [所掌：IT フォーラム推進委員会]

会期：2021 年 2 月予定，会場：東京都内予定，参加者数見込：500 名

- ① 本イベント開催形態，プログラム等の改善などにより，集客力を強化する。
- ② IT フォーラム，デジタルプラクティスとの連携によりシナジー強化を図る。

(4) プログラミング・シンポジウム [所掌：事業運営委員会]

以下3つのシンポジウムを開催する。

- ① 夏のプログラミング・シンポジウム 会期：2020年9月頃予定 合宿形式
- ② 情報科学若手の会 会期：2020年10月頃予定 合宿形式
- ③ 第62回プログラミング・シンポジウム 会期：2021年1月頃予定 合宿形式

6.3 ITフォーラム [所掌：ITフォーラム推進委員会]

- ① 次の4つのフォーラムで活動する。

サービスサイエンス／CITP／コンタクトセンター／勉強会

- ② 年1回の成果報告と評価を実施し、それに基づくフォーラム組み替えの仕組みを確立し、新たなフォーラムの立ち上げを検討する。
- ③ 戦略的な広報活動とアウト・リーチする仕組みの確立のため、情報処理推進機構（IPA）、情報サービス産業協会（JISA）、日本情報システム・ユーザー協会（JUAS）、電子情報技術産業協会（JEITA）、モバイルコンピューティング推進コンソーシアム（MCPC）、一般社団法人情報通信技術委員会（TTC）、インターネット協会（IAJ）など、ターゲットとする関連コミュニティとの連携を強化する。また、ITエンジニアが学会に何を期待するのかを、フォーカスグループなどにより調査する。
- ④ デジタルプラクティス編集委員会、ITプロフェッショナル委員会との連携を強化して、ITエンジニアに魅力のあるコミュニティに向けて検討する。

6.4 AI プログラミングコンテスト [所掌：プログラミングコンテスト委員会]

本プログラミングコンテストは、インターネット・IoT 産業および人工知能技術の急速な発展によるエンジニアの質と量の確保がますます重要となる中、若い世代から将来第一線の研究者や開発者になりうる、また世界市場を舞台に活躍できる人材を育てることを目的に、2012 年度より「IPSJ International AI Programming Contest "SamurAI Coding"」として開催している。今年度で第9回目となる。

- ① より広い層の参加者を求めるため、次のような施策を検討・実施する。
 - ・2019年度に引き続き多数の企業や国内学会からのスポンサードおよび協賛を得て、国内で広く認知を得るとともに参加を呼びかける。
 - ・2019年度に引き続きIEEE-CS、CCF、KIISE等の海外の学会や組織の協賛を得て、国際的に広く認知を得るとともに参加を呼びかける。
 - ・決勝戦は、3月の第83回全国大会と同会場での開催を予定する。
 - ・名称は、「SamurAI Coding 2020-21」とする。
- ② 競技システムの信頼性・利便性の向上に努める。また、観客にとって判り易い、楽しめるゲームを開発する。

6.5 各支部による支部連合大会、講習会等の開催 [所掌：各支部]

各支部において支部連合大会、講習会、ジュニア会員向けイベント等を開催する。

7. 実施事業4：会誌の刊行（定款第4条1項1号および2号）

全会員に冊子で配布される唯一の媒体として「読まれる会誌」、「魅力ある会誌」を目指す。会員からのフィードバックを参考に、特集と連載中心の編集を行う。

7.1 会誌「情報処理」 [所掌：会誌編集委員会]

(1) コンテンツ

「読まれる学会誌」を目指して、会員サービスという観点からも、会員増という観点からも学会誌をさらに面白いものにする。動画・ソースコードなどを加えた学会誌オンラインを充実する。オンラインのみの記事の検討も行うとともに、紙媒体の会誌は一覧性を考慮しつつ厳選する。

- ① 時事性・話題性の高い「特別解説」や連載記事のバラエティを増やすなど、幅広い読者に読まれる会誌を目指す。
- ② 毎月の季節を考慮した定番記事を工夫する。

- ③ ジュニア会員を含めた会員モニタによる意見をフィードバックする。
- ④ 記事の補足情報を Web に掲載するなどオンライン版との連携強化、また過去の記事・論文を利活用するオンライン版別冊の企画などについて検討する。
- ⑤ デジタルプラクティス、論文誌との連携を強化する。デジタルプラクティスは、61 巻 11 号から会誌コンテンツの一部(デジタルプラクティスコナー)となるため、連動した特集を企画していく。
- ⑥ 小中高生(ジュニア会員)向け記事を増やす。
- ⑦ 女性編集委員増を委員会活性化、記事の魅力の増加、新たな企画提案につなげる。
- ⑧ 冊子体では伝えきれないような、体験型の情報提供・啓蒙に資するため、会誌に付録をつける。
- ⑨ 記事と連動したマルチメディアデータの情報学広場への掲載についても検討する。
- ⑩ 会員へ国内外会議の周知、また積極的な参加を呼びかけるため会議レポートを毎月 1,2 本は掲載する。
- ⑪ 会員外にも訴求するように記事を工夫する。
- ⑫ 研究室、研究所のインタビュー・取材記事を検討する。
- ⑬ 非専門家や学びたい初学者、教えたが教員のためにフレッシュマンコースや学校での講義素材となるような記事を企画する。
- ⑭ 分野を越え、多くの領域とつながる情報技術に目を向けた記事を増やす。

(2) その他、広報・宣伝の充実および編集体制の改善

- ① 技術書典など技術者の集まるイベントへの出展とグッズ販売を通し、学会の認知度を高める。
- ② 一貫した編集方針のもとで円滑に編集作業を進められるよう、編集長の業務をサポートしフォローできる役職として副編集長制度継続する。
- ③ 会誌への広告掲載、IPSJ メールニュースへの広告掲載、Web サイトへのバナー広告掲載、カタログ同封サービスへの広告掲載の魅力を高め、総務財務委員会等と協力して広告獲得に一層努力する。
- ④ 別刷の購入、書籍化を視野に入れた特集等の企画を積極的に行う。
- ⑤ 特集記事に関連した広告を掲載できるように広報活動を強化する。
- ⑥ 一般読者が読み物として気軽に読めるように、各記事のページ数を減らす。
- ⑦ Kindle, Fujisan において会誌電子版、特集別刷電子版の販売・購読を促進する。
- ⑧ LINE スタンプの販売を促進する。
- ⑨ amazon に加え書店連携等による拡販を促進する。
- ⑩ 学校への出前授業を毎年継続して行う。

8. 実施事業 5：論文誌・学術図書等の刊行（定款第 4 条 1 項 1 号および 2 号）

論文誌の論文投稿数、採録数の増加と論文の質の確保を継続する。英文論文誌 Journal of Information Processing（以下、JIP）は基幹英文論文誌として育成・強化する。トランザクションのインパクトファクタの取得も目指す。

8.1 論文誌（ジャーナル/JIP/トランザクション/デジタルプラクティス）

(1) 「情報処理学会論文誌（ジャーナル）」（月刊） [所掌：ジャーナル編集委員会]

1) 論文投稿数の増加に向けた取り組み、および採択数の増加に向けた取り組み

- ① 年間の論文採択数は、230 編以上を目標とする。また他学会の採択数の増減傾向とも比較しながら今後の適切な目標値について検討する。
- ② 論文執筆のための心構えの広報の強化による投稿論文の質の向上を図るとともに、「べからず集」の徹底による査読の質の向上とそれに伴う採択率の安定・向上を目指す。

- ③ 研究会推薦論文制度や招待論文制度等を積極活用し、良質の論文の投稿を喚起する。
 - ④ 付録データの活用を促進し、論文の価値の向上を目指す。
 - ⑤ 論文誌編集委員会企画の特集号を継続する。
 - ⑥ 全国大会でイベント企画（論文必勝法）を実施する。イベント企画における DP 誌との連携も検討する。
 - ⑦ ジュニア会員の掲載料無料化を実施し広報を行う。
- 2) 編集体制と論文査読管理システム運用の見直し
- ① 2017 年度に整備された編集体制にもとづき、論文誌担当理事とは独立した編集長（任期は 1 期 2 年で再任まで）のもとで、引き続き編集委員会を運営する。グループ主査および副査の任期についても柔軟に対応し、編集委員会の継続性向上やノウハウの伝承がよりの確に行われるように配慮する。
 - ② 査読システム ScholarOne Manuscripts の適切な利用方法に関するマニュアル等を整備し、安定的運用に加えて、査読システムに関する中長期的な検討を行う。
- 3) 電子化を有効活用した改善
- 論文誌関連の統計情報（例：ダウンロード数）の有効利用を検討する。
- 4) その他
- オープンアクセス時代に向けた中長期的な論文誌のあり方について随時検討を行う。

(2) 「Journal of Information Processing (JIP)」 [所掌：JIP 編集委員会]

- 1) JIP の海外投稿促進と国際化
- Web of Science 収録基準を満たし、インパクトファクタ（IF）の取得に向けた施策を実施する。
- ① 年間論文採択数は 70 編以上を目指す。
 - ② 研究会推薦論文の英語化を促し JIP に掲載するというパスを確立させ、良質の論文を呼び込む。
 - ③ 編集委員に海外の研究者を迎え入れて国際化された編集委員会を本格化させる。
 - ④ 国際会議の優秀論文、著名な研究者の招待論文、国内の大規模プロジェクト等の成果論文を積極的に採録する。また、国際会議・海外の学会との連携等、JIP 独自の特集号を企画する。
 - ⑤ arXiv などパブリックなプレプリント・サーバーを活用して JIP 論文のビジビリティ向上を図る。
 - ⑥ クラリベイト・アナリティクス社の Emerging Sources Citation Index (ESCI) への登録による citation の向上計測を行う。

(3) トランザクション (10 誌) [所掌：各トランザクション編集委員会]

発行の安定性と永続性、ジャーナルとの協調、JIP との連携、購読数の拡大を目標に、トランザクション 10 誌合計で採択論文数 130 編以上を目指す。特に研究会との連携による投稿数増大を目指すとともに、分野の特性に応じた論文の種類について検討する。ジャーナルと同様に英文論文の投稿促進、および英文トランザクションのインパクトファクタ取得の検討を進める。また、トランザクションにおける論文査読管理の電子化の推進を行う。なお、IPSJ Transactions on Computer Vision and Applications は 12 月をもって休刊、トランザクションデジタルプラクティスを 10 月より発行する予定。

(4) 実務活動の論文誌「トランザクション デジタルプラクティス」[所掌：デジタルプラクティス編集委員会]

- ① 掲載論文の位置付けを明確にするため、実践による知見の有用性を重視して査読する論文と実践事例の記録性を重視して確認する論文との複線化を行う（査読・編集・掲載形態の峻別）。
- ② 論文投稿数を確保するため、投稿母体となるユーザ会、フォーラム、研究会・グループ、業界団体などと連携して論文発表の利点（成果業績の公的記録）を訴求し、執筆投稿を促進する。
- ③ 認知度を向上させるため、Web やメールマガジン、会誌、行事企画など継続的かつ戦略的に PR を行い、KPI を観測（論文ダウンロード数やアンケートなど）して PDCA を回す。
- ④ 財政面を改善するため、査読システム活用や査読複線化による査読コストの低減、html 化外注など編集コストの低減、ならびに論文掲載有料化の効果をシミュレーションの上、実施する。

- ⑤ 上記施策を推進するため、技術応用委員会に体制を作って施策を詳細に検討し随時実行する。施策の効果を有期で確認して適宜見直しを行うとともに上位委員会および理事会に状況報告する。
- ⑥ 44 号から開始する新体制の周知をし、発刊がスムーズにいくよう規程を整え委員の補充等を実施する。

(5) その他

各誌の優れた論文を顕彰するため、論文賞、デジタルプラクティス論文賞等を贈呈する。
編集委員の貢献に報いるため、論文誌編集委員会の貢献賞を贈呈する。また、60 周年記念論文の準備を進める。

8.2 専門誌：教科書シリーズ [所掌：出版委員会]

発行済 59 冊の教科書の改訂を着実に進めるとともに、新規企画の検討を行う。改訂と新規企画にあたっては、書籍の電子化を進めると共に、産業界向けに話題性の高い技術の企画出版を検討する。

8.3 歴史資料の保存・公開 [所掌：歴史特別委員会、コンピュータ博物館小委員会]

- ① 現存している歴史的に価値のある機器の保存活動を継続して行う。
- ② 60周年記念出版として、「情報処理技術遺産」と「オーラルヒストリー」の書籍を発行する

8.4 電子図書館事業の推進 [所掌：デジタルコンテンツ事業検討委員会]

- ① 多くのユーザへのビジビリティ向上を目的に2014年4月よりサイトライセンスサービスを開始した。2014年度36件（大学のみ），2015年度50件（大学＋企業），2016年度59件，2017年度62件，2018年度67件，2019年度70件とサービスを拡大した。2020年度は74件を目指す。
- ② サイトライセンス機能のユーザビリティ向上等，会員からの要望に応え，情報学広場のサービスの充実を図る。
- ③ 研究会，論文誌編集委員会と連携し，マルチメディアコンテンツを含む論文の採録に取り組む。
- ④ 論文誌ジャーナル掲載論文に doi を付与する。
- ⑤ 電子図書館の財政面，運用面，プラットフォーム等の抜本的な改革検討を WG 体制にて行う。

9. 実施事業 6：標準化活動（定款第 4 条 1 項 3 号）

ISO/IEC JTC 1 対応を主に，情報技術に関する国際規格の審議およびこれに関する調査研究，国内規格の審議などによる標準化活動を行う。より戦略的かつ健全な運営を行うために，標準化活動の重み付けのさらなる検討と，規格賛助員および委員会メンバのためのサービス向上に努める。

9.1 情報規格調査活動 [所掌：情報規格調査会]

(1) ISO/IEC JTC1 対応組織としての戦略的な貢献

ISO/IEC JTC 1 直属の 19 の SC（全 22SC 委員会中）および各 AG（Advisory Group），WG，AHG（Ad Hoc Group）の対応を行う。さらに国際提案準備と，JIS 原案作成を適宜行う。

- ① JTC1総会を11月初旬，岡山県にてホスト国として開催する。
- ② メディア符号化（SC29），デジタル記憶媒体（SC23），文字コード（SC2）などの重点領域の議長，幹事国役職引き受けを継続する。
- ③ デリー総会で JTC1直下に新たに設置された WG13（Trustworthiness）に対しては，対応する小委員会を設置して対応していく。③ 議長，幹事国，コンビーナ，プロジェクトエディタ等を引き受けているものも含め，活動の優先度を見極め人的資源の集中化・重点化を図る。

- ④ ビジネス機械・情報システム産業協会（JBMA）、電子情報技術産業協会（JEITA）、情報通信技術委員会（TTC）などの協力を得ながら積極的に対応を図る。JTC 1が取り組むテーマが ISO, IEC, および ITU-T と重複する傾向があることから、日本として整合の取れた対応をすべく、関連の国内対応委員会との情報交換を推進する。

(2) 健全な情報規格調査会の運営の維持

- ① 次世代情報システムについては、本会本部の次世代システムの検討と歩調を合わせながら、本部システムとの統合を視野に入れつつ情報規格調査会としてのシステムのあり方を検討する。
- ② 本部と情報規格調査会との連絡会を継続して開催し、予算計画など本部との情報共有を図りつつ健全な運営を図る。

(3) 標準化活動の支援と広報

- ① 昨年に引き続き、有料の標準化セミナーを開催し、国際標準化におけるホットトピックスや各委員会における活動内容を紹介することで、国際標準化に対する意識を高め、国際標準化活動への参加者を募る。
- ② 広報活動を強化し、情報規格調査会の存在と活動に関する認知度を高める。
- ③ 昨年に引き続き、システムのセキュリティ強化と委員会活動の効率化を推進する。

10. 実施事業7：国際活動（定款第4条1項5号および2号）

研究会活動を中心に、国際会議を積極的に主催、共催し活動の活性化を図るとともに、海外学協会との連携を推進する。

(1) International Federation for Information Processing (IFIP) 活動への参加 [所掌：IFIP 委員会]

- ① IFIP 日本代表、各 TC 日本代表の総会 General Assembly (GA)・理事会 Council への参加
- ② 各 TC 日本代表の TC-meeting への参加と IFIP 活動周知の活性化
- ③ IFIP IP3の活動に参加し、CITP 資格の国際的相互認証の仕組みを構築
- ④ 2021年に日本での開催が決定した国際会議「World Conference on Computers in Education(WCCE 2021)」の開催に向けてコンピュータと教育研究会および情報処理教育委員会で準備

(2) IEEE ならびに IEEE-Computer Society との連携・協力

- ① The 44th Annual International Computer Software & Applications Conference (COMPSAC2020) への技術協力
日程：2020年7月13日（月）～ 17日（金），場所：Madrid, Spain
- ② 全国大会での IEEE-CS 会長招待講演実施と連携の為のミーティングを継続
- ③ IEEE-CS との姉妹学会 MOU を継続するとともに、会員向けの連携サービスを検討
- ④ IEEE-CS と本会との Joint Award として、3名に「IPSJ/IEEE-CS Young Computer Researcher Award」を授与

(3) 海外学協会との連携・協力

- ① China Computer Federation (CCF) と双方の全国大会への交互招聘を継続し連携・協力を推進する。
- ② Korean Institute of Information Scientists and Engineers (KIISE) との連携・協力および双方の全国大会での会長の交互招聘・招待講演を実施する。
- ③ CJK-meeting（中国・日本・韓国）、CJK Joint Technical Forum（10月、深セン）を継続する。
- ④ Association for Computing Machinery (ACM) との連携・協力を推進し、本会との Joint Award として、1名に「IPSJ/ACM Award for Early Career Contribution to Global Research」を授与す

る。

- ⑤ 下記の海外学協会との協力関係を継続する。
 - ・ Computer Society of India (CSI)
 - ・ Australian Computer Society (ACS)
 - ・ South East Asia Regional Computer Confederation (SEARCC) とともに協力関連構築を模索
- ⑥ The International Association for Pattern Recognition (IAPR) 活動への参加。
- ⑦ 日本に留学生を多く輩出しているアジア地域などの国々の情報系学会との共同シンポジウムなどによる連携の機会を検討し、新たな取り組みを企画する。

(4) 国際会議

COMPSAC2020の他、下記3件の国際会議を開催する。

- ・ International Workshop on Security (IWSEC2020)
2020年9月2日～4日、福井県国際交流会館（日本）
- ・ International Conference on Mobile Computing and Ubiquitous Networking (ICMU2020)
2020年10月28日～30日、機械振興会館（日本）
- ・ 26th Asia and South Pacific Design Automation Conference 2021 (ASP-DAC 2021)
2021年1月18日～21日、日本科学未来館（日本）

1 1. その他：関連学協会等との連携および協力（定款4条1項6号）

関連学協会との連携および協力を行う。情報処理推進機構（IPA）、情報サービス産業協会（JISA）、日本情報システム・ユーザー協会（JUAS）等とこれまでの協力関係をさらに強化する。

11.1 関連学協会・日本学術会議

(1) 日本工学会および電気・情報関連学会連絡協議会への参加

日本工学会および電気・情報関連学会連絡協議会に参加し、関連学協会との協力連携を図る。

(2) 研究発表・学術講習会等の共催

電子情報通信学会との共催による「情報科学技術フォーラム（FIT）（前6項参照）」ほか、研究発表会および学術講習会において関連学協会等と適宜共催を行う。

(3) 日本学術会議など関連団体等への協力

日本学術会議に協力学術研究団体として参加協力する。

11.2 会議の協賛後援等

関連学協会等からの要請に応じて適宜、会議の協賛後援等を行う。

1 2. 法人運営

会員の視点での会員サービスのあり方を検討し、必要に応じて会員制度および学会情報システムの見直しを実施する。

12.1 入会促進

(1) 新規会員の獲得と会員減の防止

- ① 各活動において学会の価値向上に取り組み、新規会員の獲得に努める。
- ② 理事を中心に新規会員獲得の地道な勧誘と企業への働きかけを継続するとともに、引続き、退会要因の分析による退会抑止に努める。
- ③ 会費の口座引落、クレジットカード決済等の推進により「滞納→資格喪失」を防止するよう継続して対応する。
- ④ 外部 IT 団体との連携推進により、産業界に属する会員への学会価値向上に向けた検討を進める。
- ⑤ 会員マイページのアクセス率向上を推進する。

(2) 小中高校教員、学生会員ならびにジュニア会員の獲得と育成

- ① ジュニア会員活性化委員会を中心にジュニア会員制度を通じて若年層に学会活動を広く周知し、学生会員の獲得を促進する。
- ② 学生会員の 1 研究会無料登録を継続し、研究会活動への参画を通じて学生会員の育成に努める。
- ③ 学生会員の新規獲得と正会員への定着率の向上のため、学生から企業若手社員をターゲットとしたコンテンツの拡充によって学会の魅力を向上させる。
- ④ 新たに、ジュニア会員獲得の施策として、ジュニアを指導する小中高校の教員の入会を促進する入会キャンペーンを実施する。
- ⑤ 2018 年度に新たに発足した、教育担当理事をはじめ関連担当理事が参画した「ジュニア会員活性化委員会」により、上記の活動をさらに推進する。

12.2 政策提言活動の推進

政策提言委員会は、学会各種委員会と連携して、国の政策および方針について学会としての意見を積極的に提言・情報発信することにより、国および関連機関から「頼られ&相談される学会」を目指して、学会の一層の発信力向上に繋げる。

12.3 運営体制の充実・改善等

(1) 長期的ビジョンの継続体制の確立

「魅力ある学会」に向け長期戦略理事を中心に、各事業の健全な継続性に向けて前年度整理をした各事業の課題について、その解決方法についての検討を進めていく。

(2) ワークプレイスへの取り組み

Info-WorkPlace 委員会を中心に、働き方改革に対する取り組みを実施する。具体的にはさまざまなメディアを通じて、個々人の働き方を紹介し、イベント企画(enPiT, WiT, 全国大会等との連動企画)を積極的に行っていく。

(3) 新世代発想の学会運営への取り組み

新世代理事を中心とする横串の組織「新世代企画委員会」の活動を推進し、新世代（学生・若手研究者・若手技術者）の発想を学会運営に取り込む。若手研究者によるトークイベント「IPJSJ-ONE」は継続し発展させる。また、2019 年度新たに開始した企業と研究者のマッチング、学会イベント支援として、受付のオンライン化の試行を引き続き行う。学生会員・ジュニア会員の育成に資するサービスやイベントの充実に向けた施策を、関係委員会やエンジニア教育に熱心な企業等との連携を視野に入れて検討し、試行するとともに引続きジュニア会員活性化委員会・企画政策委員会・政策提言委員会・調査研究運営委員会などと連携して対応する。若手研究者のための新たな施策として、国際的活動ノウハウの共有イベントの実施、研究会アーカイブの拡充を図る。

(4) 財務基盤の強化

- ① 財務基盤安定のための検討と学会のビジネスモデルの検討を長期戦略の検討と合わせて継続する。
- ② 終身会員や仕事をリタイアされた個人および企業の皆様に幅広く寄付の御願いをし、学会活動の更

なる活性化を図っていく。寄付は現金に加えて、情報技術に関わる有形無形の資産、ボランティアで提供いただける役務なども可能とする。

(5) アドバイザリーボードによる運営改善

第三者機関であるアドバイザリーボードの助言も得て、引続き学会価値の向上と運営の改善への取り組みを継続する。IT ユーザ業界からのメンバ増強も検討する。

(6) 広報活動の推進・諸活動のデータ収集

- ① 学会 Web の充実の他, Facebook, Twitter, 情報処理学会公式ニコニコチャンネル, You Tube, Kindle, などソーシャルメディアを活用した積極的な広報活動を推進する。
- ② 各種行事等の場での入会促進および学会紹介, IPSJ メールニュースの内容充実に継続して努める。
- ③ 諸活動データの収集・分析により, その評価・改善を継続する。
- ④ 学会 Web サイトのアクセシビリティ, ユーザビリティの課題洗い出しと改善策検討を進める。

12.4 情報システムの拡充

2018 年度に運用を開始したクラウド型 (SaaS, ASP 型) 新学会情報システムの拡充に努める。また, 共通プラットフォームと CMS の構築を行う等, 8 支部サイトの統合化を検討する。また, 事務局に関しては, ファイル共有システム, 遠隔会議システムを駆使した申請承認, 委員会開催業務, 勤怠管理, 給与計算システムの定着, テレワークの試行等を行う。

12.5 その他表彰等

功績賞, 学会活動貢献賞, 感謝状の贈呈のほか, フェロー認定, シニア会員認定, 情報処理技術遺産・分散コンピュータ博物館の認定等を行う。

以上

【付表 1：研究会・研究グループ】

【コンピュータサイエンス領域：研究会（11）（括弧内は英略称）】

データベースシステム（DBS），ソフトウェア工学（SE），システム・アーキテクチャ（ARC），システムソフトウェアとオペレーティング・システム（OS），システムとLSIの設計技術（SLDM），ハイパフォーマンスコンピューティング（HPC），プログラミング（PRO），アルゴリズム（AL），数理モデル化と問題解決（MPS），組込みシステム（EMB），量子ソフトウェア（QS） 各研究会

【情報環境領域：研究会（16）（括弧内は英略称）】

マルチメディア通信と分散処理（DPS），ヒューマンコンピュータインタラクション（HCI），情報システムと社会環境（IS），情報基礎とアクセス技術（IFAT），オーディオビジュアル複合情報処理（AVM），グループウェアとネットワークサービス（GN），ドキュメントコミュニケーション（DC），モバイルコンピューティングとパーベイシブシステム（MBL），コンピュータセキュリティ（CSEC），高度交通システムとスマートコミュニティ（ITS），ユビキタスコンピューティング（UBI），インターネットと運用技術（IOT），セキュリティ心理学とトラスト（SPT），コンシューマ・デバイス&システム（CDS），デジタルコンテンツクリエーション（DCC），高齢社会デザイン（ASD） 各研究会

【メディア知能情報領域：研究会（14），研究グループ（3）（括弧内は英略称）】

自然言語処理（NL），知能システム（ICS），コンピュータビジョンとイメージメディア（CVIM），コンピュータグラフィックスとビジュアル情報学（CG），コンピュータと教育（CE），人文科学とコンピュータ（CH），音楽情報科学（MUS），音声言語情報処理（SLP），電子化知的財産・社会基盤（EIP），ゲーム情報学（GI），エンタテインメントコンピューティング（EC），バイオ情報学（BIO），教育学習支援情報システム（CLE），アクセシビリティ（AAC） 各研究会
ネットワーク生態学（NE），会員の力を社会につなげる（SSR），情報処理に関する法的問題（LIP） 各研究グループ

【調査研究運営委員会：研究グループ（2）（括弧内は英略称）】

ビッグデータ解析のビジネス実務利活用（PBD），オープンサイエンスと研究データマネジメント研究グループ（RDM） 各研究グループ

【付表 2：シンポジウム・ワークショップ等】

シンポジウム等名（主催研究会）	開催日	場所
マルチメディア、分散、協調とモバイル(DICOMO 2020)シンポジウム (DPS, GN, MBL, CSEC, ITS, UBI, IOT, SPT, CDS, DCC)	2020. 6. 24(水)～26(金)	ロイヤルホテル土佐
cross-disciplinary workshop on computing Systems, Infrastructures, and programminG (xSIG2020) (ARC, OS, HPC, PRO)	2020. 7. 29(水)	福井フェニックスプラザ
量子ソフトウェア研究会発足記念講演会「量子コンピュータ最前線」 (QS)	2020. 7.	東京大学小柴ホール
情報教育シンポジウム (SSS2020) (CE, CLE)	2020. 8. 22(土)～24(月)	福岡工業大学
エンタテインメントコンピューティング 2020 (EC)	2020. 8. 29(土)～31(月)	名城大学 天白キャンパス
DA シンポジウム 2020 (SLDM)	2020. 9. 7(月)～ 9(水)	鳥羽シーサイドホテル
ソフトウェアエンジニアリングシンポジウム (SES2020) (SE)	2020. 9. 10(木)～12(土)	日立製作所 横浜研究所
コンピュータセキュリティシンポジウム 2020 (CSS2020) (CSEC, SPT)	2020. 10.	(神戸)
マルチメディア通信と分散処理ワークショップ (DPS)	2020. 11. 11(水)～13(金)	下田プリンスホテル
ゲームプログラミングワークショップ (GPW2020) (GI)	2020. 11.	箱根セミナーハウス
コンピュータシステム・シンポジウム (ComSys2020) (OS)	2020. 11.	東京農工大学 (予定)
グループウェアとネットワークサービスワークショップ 2020 (GN)	2020. 11.	(未定)
Asia Pacific Conference on Robot IoT System Development and Platform (APRIS2020) (EMB)	2020. 11.	(タイ)
ユーザブルセキュリティ・プライバシー(USP)論文読破会 (SPT)	2020. 11.	(東京)
インターネットと運用技術シンポジウム (IOTS2020) (IOT)	2020. 12. 3(木)～ 4(金)	京都大学 (予定)
災害コミュニケーションシンポジウム (IS, IOT, SPT)	2020. 12.	キャンパスプラザ 京都
人文科学とコンピュータシンポジウム (じんもんこん 2020) (CH)	2020. 12.	(未定)
ITS 研究フォーラム (ITS)	2021. 1.	慶應義塾大学 日吉キャンパス
ウィンターワークショップ 2021 (SE)	2021. 1.	(未定)
インタラクション 2021 (HCI, GN, UBI, DCC, EC)	2021. 3.	学術総合センター

[第 1 号報告]

1-2. 2020 年度収支予算書

2020年度収支予算書（損益計算ベース）

2020年4月1日から2021年3月31日まで

（単位：円）

※公益法人会計基準（2008年4月11日 内閣府公益認定等委員会）に準拠。

科目	2020年度予算	2019年度予算	増減	備考（増減5,000千円以上のコメントほか）
※一般正味財産のみ				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
特定資産運用益	228,000	228,000	0	
特定資産受取利息	228,000	228,000	0	
受取入会金	600,000	800,000	△ 200,000	
受取入会金	600,000	800,000	△ 200,000	
受取会費	189,400,000	185,900,000	3,500,000	
正会員受取会費	146,500,000	145,000,000	1,500,000	
学生会員受取会費	12,000,000	11,800,000	200,000	
賛助会員受取会費	30,900,000	29,100,000	1,800,000	
事業収益	430,118,000	468,529,000	△ 38,411,000	
頒布収益	44,600,000	45,378,000	△ 778,000	
掲載料収益	62,799,000	63,729,000	△ 930,000	
広告収益	33,536,000	44,536,000	△ 11,000,000	*シンポジウム減、講習会スポンサー減
参加費収益	133,676,000	169,464,000	△ 35,788,000	*シンポジウム減、講習会減
審査料、登録料収益	8,030,000	10,692,000	△ 2,662,000	
研究会登録費収益	28,574,000	29,500,000	△ 926,000	
規格賛助員費収益	90,400,000	90,200,000	200,000	
国際会議収益	2,360,000	2,230,000	130,000	
分担金収益	871,000	1,486,000	△ 615,000	
抄録料、著作権使用料等収益	650,000	650,000	0	
受取民間委託費	24,622,000	10,664,000	13,958,000	*人材育成委託増
受取補助金等	19,570,000	10,659,000	8,911,000	
受取民間補助金	13,498,000	9,109,000	4,389,000	
受取民間助成金	6,072,000	1,550,000	4,522,000	
受取寄付金	2,500,000	2,840,000	△ 340,000	
受取寄付金	2,500,000	2,840,000	△ 340,000	
雑収益	320,000	320,000	0	
受取利息	160,000	160,000	0	
雑収益	160,000	160,000	0	
経常収益計	642,736,000	669,276,000	△ 26,540,000	
(2) 経常費用				
事業費	591,526,000	604,401,000	△ 12,875,000	
給料手当	128,207,000	131,808,000	△ 3,601,000	
賞与引当金繰入額	15,404,000	16,108,000	△ 704,000	
臨時雇賃金	7,793,000	9,245,000	△ 1,452,000	
退職給付費用	2,836,000	846,000	1,990,000	
福利厚生費	29,483,000	30,098,000	△ 615,000	
会議費	82,467,000	90,239,000	△ 7,772,000	*シンポジウム・講習会会議費減
旅費交通費	44,911,000	45,495,000	△ 584,000	
通信運搬費	19,476,000	20,321,000	△ 845,000	
減価償却費	7,669,000	9,048,000	△ 1,379,000	
消耗品費	11,728,000	12,021,000	△ 293,000	
印刷製本費	82,327,000	86,688,000	△ 4,361,000	
光熱水料費	3,673,000	3,224,000	449,000	
賃借料	29,819,000	29,986,000	△ 167,000	
保険料	700,000	739,000	△ 39,000	
諸謝金	24,535,000	24,809,000	△ 274,000	
租税公課	14,455,000	14,823,000	△ 368,000	
支払負担金	430,000	480,000	△ 50,000	
支払助成金	450,000	350,000	100,000	
委託費	78,813,000	72,132,000	6,681,000	*60周年記念事業増・人材育成委託増
支払手数料	2,168,000	2,306,000	△ 138,000	
支払分担金	4,045,000	3,504,000	541,000	
研修費	10,000	10,000	0	
雑費	127,000	121,000	6,000	

管理費	99,637,000	80,160,000	19,477,000	
給料手当	18,853,000	16,742,000	2,111,000	
賞与引当金繰入額	2,296,000	1,992,000	304,000	
臨時雇賃金	958,000	888,000	70,000	
退職給付費用	1,064,000	454,000	610,000	
福利厚生費	5,197,000	4,682,000	515,000	
会議費	10,684,000	4,848,000	5,836,000	*60周年記念事業増
旅費交通費	7,092,000	6,326,000	766,000	
通信運搬費	2,549,000	3,244,000	△ 695,000	
減価償却費	3,704,000	3,132,000	572,000	
消耗品費	1,394,000	1,574,000	△ 180,000	
印刷製本費	5,193,000	658,000	4,535,000	*60周年記念事業増
光熱水料費	727,000	576,000	151,000	
賃借料	4,231,000	3,842,000	389,000	
保険料	100,000	80,000	20,000	
諸謝金	6,160,000	6,430,000	△ 270,000	
租税公課	109,000	104,000	5,000	
支払負担金	3,900,000	3,800,000	100,000	
委託費	18,143,000	16,180,000	1,963,000	
支払手数料	6,788,000	3,649,000	3,139,000	
雑費	495,000	959,000	△ 464,000	
経常費用計	691,163,000	684,561,000	6,602,000	
当期経常増減額	△ 48,427,000	△ 15,285,000	△ 33,142,000	
2. 経常外増減の部				
(1) 経常外収益				
(該当なし)	0	0	0	
経常外収益計	0	0	0	
(2) 経常外費用			0	
(該当なし)	0	0	0	
経常外費用計	0	0	0	
当期経常外増減額	0	0	0	
当期正味財産増減額	△ 48,427,000	△ 15,285,000	△ 33,142,000	
正味財産期首残高	1,160,969,459	1,133,890,137	27,079,322	
正味財産期末残高	1,112,542,459	1,118,605,137	△ 6,062,678	

注) 収支予算書は、「公益法人会計基準」により、損益ベースで作成しています。

付1. 2020年度収支予算書（損益計算ベース） 内訳表

2020年4月1日から2021年3月31日まで

※会計および事業区分は、一般社団法人認可の事業区分。

（単位：円）

	実施事業等会計									法人会計	内部取引控除	合計
	継1 調査研究活動	継2 人材育成	継3 学術講習会	継4 会誌	継5 学術刊行物	継6 標準化活動	継7 国際活動	共通	小計			
※一般正味財産のみ												
1. 経常増減の部												
（1）経常収益												
特定資産運用益						28,000		200,000	228,000			228,000
特定資産受取利息						28,000		200,000	228,000			228,000
受取入会金										600,000		600,000
受取入会金										600,000		600,000
受取会費										189,400,000		189,400,000
正会員受取会費										146,500,000		146,500,000
学生会員受取会費										12,000,000		12,000,000
賛助会員受取会費										30,900,000		30,900,000
事業収益	113,697,000	31,836,000	65,200,000	20,667,000	100,332,000	95,616,000	1,560,000		428,908,000			430,118,000
頒布収益				5,825,000	38,275,000	500,000			44,600,000			44,600,000
掲載料収益				1,242,000	61,557,000				62,799,000			62,799,000
広告収益	7,030,000	1,500,000	10,196,000	13,600,000					32,326,000	1,210,000		33,536,000
参加費収益	77,143,000	1,200,000	54,133,000			1,200,000			133,676,000			133,676,000
審査料、登録料収益		8,030,000							8,030,000			8,030,000
研究会登録費収益	28,574,000								28,574,000			28,574,000
規格賛助員費収益						90,400,000			90,400,000			90,400,000
国際会議収益	800,000						1,560,000		2,360,000			2,360,000
分担金収益			871,000						871,000			871,000
抄録料、著作権使用料等収益	150,000				500,000				650,000			650,000
受取民間委託費		21,106,000				3,516,000			24,622,000			24,622,000
受取補助金等	672,000		5,510,000			13,388,000			19,570,000			19,570,000
受取民間補助金			110,000			13,388,000			13,498,000			13,498,000
受取民間助成金	672,000		5,400,000						6,072,000			6,072,000
受取寄付金	2,500,000	0							2,500,000			2,500,000
受取寄付金	2,500,000	0							2,500,000			2,500,000
雑収益						20,000			20,000	300,000		320,000
受取利息						10,000			10,000	150,000		160,000
雑収益						10,000			10,000	150,000		160,000
経常収益計	116,869,000	31,836,000	70,710,000	20,667,000	100,332,000	109,052,000	1,560,000	200,000	451,226,000	191,510,000	0	642,736,000

	実施事業等会計									法人会計	内部取引控除	合計
	継1 調査研究活動	継2 人材育成	継3 学術講習会	継4 会誌	継5 学術刊行物	継6 標準化活動	継7 国際活動	共通	小計			
(2) 經常費用												
事業費	134,684,000	30,127,000	95,124,000	85,888,000	115,146,000	111,961,000	4,526,000	14,070,000	591,526,000			591,526,000
給料手当	16,994,000	2,649,000	20,189,000	12,961,000	31,399,000	43,460,000	555,000		128,207,000			128,207,000
賞与引当金繰入額	2,066,000	322,000	2,456,000	1,576,000	3,817,000	5,100,000	67,000		15,404,000			15,404,000
臨時雇賃金	3,760,000	64,000	3,854,000	19,000	45,000	50,000	1,000		7,793,000			7,793,000
退職給付費用	352,000	55,000	420,000	269,000	629,000	1,100,000	11,000		2,836,000			2,836,000
福利厚生費	3,972,000	619,000	4,720,000	3,030,000	7,313,000	9,700,000	129,000		29,483,000			29,483,000
会議費	44,134,000	1,191,000	17,356,000	996,000	1,122,000	17,647,000	21,000		82,467,000			82,467,000
旅費交通費	17,349,000	5,755,000	5,613,000	258,000	880,000	11,736,000	3,320,000		44,911,000			44,911,000
通信運搬費	1,250,000	121,000	2,398,000	14,673,000	119,000	915,000			19,476,000			19,476,000
減価償却費	1,937,000	330,000	1,524,000	906,000	2,586,000	350,000	36,000		7,669,000			7,669,000
消耗品費	3,316,000	82,000	2,054,000	1,805,000	3,616,000	802,000	53,000		11,728,000			11,728,000
印刷製本費	11,595,000	548,000	7,145,000	30,110,000	32,591,000	338,000			82,327,000			82,327,000
光熱水料費	821,000	100,000	747,000	504,000	1,479,000		22,000		3,673,000			3,673,000
賃借料	4,779,000	584,000	4,343,000	2,934,000	8,610,000	8,450,000	119,000		29,819,000			29,819,000
保険料	218,000	3,000	145,000			334,000			700,000			700,000
諸謝金	7,885,000	3,504,000	5,733,000	3,405,000	1,370,000	2,638,000			24,535,000			24,535,000
租税公課	108,000	8,000	39,000	27,000	76,000	126,000	1,000	14,070,000	14,455,000			14,455,000
支払負担金		50,000				380,000			430,000			430,000
支払助成金			450,000						450,000			450,000
委託費	13,316,000	13,162,000	12,053,000	12,400,000	19,357,000	8,414,000	111,000		78,813,000			78,813,000
支払手数料	832,000	100,000	677,000	15,000	127,000	381,000	36,000		2,168,000			2,168,000
支払分担金		880,000	3,165,000						4,045,000			4,045,000
研修費					10,000				10,000			10,000
雑費			43,000			40,000	44,000		127,000			127,000

	実施事業等会計									法人会計	内部取引控除	合計
	継1 調査研究活動	継2 人材育成	継3 学術講習会	継4 会誌	継5 学術刊行物	継6 標準化活動	継7 国際活動	共通	小計			
管理費										99,637,000		99,637,000
給料手当										18,853,000		18,853,000
賞与引当金繰入額										2,296,000		2,296,000
臨時雇賃金										958,000		958,000
退職給付費用										1,064,000		1,064,000
福利厚生費										5,197,000		5,197,000
会議費										10,684,000		10,684,000
旅費交通費										7,092,000		7,092,000
通信運搬費										2,549,000		2,549,000
減価償却費										3,704,000		3,704,000
消耗品費										1,394,000		1,394,000
印刷製本費										5,193,000		5,193,000
光熱水料費										727,000		727,000
賃借料										4,231,000		4,231,000
保険料										100,000		100,000
諸謝金										6,160,000		6,160,000
租税公課										109,000		109,000
支払負担金										3,900,000		3,900,000
委託費										18,143,000		18,143,000
支払手数料										6,788,000		6,788,000
雑費										495,000		495,000
経常費用計	134,684,000	30,127,000	95,124,000	85,888,000	115,146,000	111,961,000	4,526,000	14,070,000	591,526,000	99,637,000	0	691,163,000
当期経常増減額	△17,815,000	1,709,000	△24,414,000	△65,221,000	△14,814,000	△2,909,000	△2,966,000	△13,870,000	△140,300,000	91,873,000	0	△48,427,000
2. 経常外増減の部												
(1) 経常外収益												
(該当なし)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0
経常外収益計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用												
(該当なし)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0
経常外費用計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
当期正味財産増減額	△17,815,000	1,709,000	△24,414,000	△65,221,000	△14,814,000	△2,909,000	△2,966,000	△13,870,000	△140,300,000	91,873,000	0	△48,427,000
正味財産期首残高	△59,050,153	7,111,925	△154,116,229	△533,234,305	△130,750,603	△8,334,254	892,500	868,876,535	△8,604,584	1,169,574,043		1,160,969,459
正味財産期末残高	△76,865,153	8,820,925	△178,530,229	△598,455,305	△145,564,603	△11,243,254	△2,073,500	855,006,535	△148,904,584	1,261,447,043	0	1,112,542,459

2-付2. 正味財産増減計算書 事業別サマリー (2020年4月27日現在)

実施事業	項 目	収益			経費			差額		
		2019予算	2019決算	2020予算	2019予算	2019決算	2020予算	2019予算	2019決算	2020予算
1	調査研究	149,576	167,144	116,869	156,338	167,773	134,684	-6,762	-629	-17,815
	研究会,調査委員会	36,404	36,568	35,374	41,831	38,145	41,830	-5,427	-1,577	-6,456
	シンポジウム等	110,672	128,068	78,995	93,695	110,038	70,415	16,977	18,030	8,580
	表彰	2,500	2,500	2,500	7,489	6,635	8,407	-4,989	-4,135	-5,907
	運用益,管理費割掛ほか	0	8	0	13,323	12,955	14,032	-13,323	-12,947	-14,032
2	人材育成	16,386	10,468	31,836	18,980	11,537	30,127	-2,594	-1,069	1,709
	教育活動	1,860	1,662	2,700	4,325	1,710	4,167	-2,465	-48	-1,467
	教育活動-受託分	3,834	3,799	21,106	3,404	3,456	16,084	430	343	5,022
	資格認定	10,692	5,004	8,030	9,508	4,663	7,857	1,184	341	173
	運用益,管理費割掛ほか	0	3	0	1,743	1,708	2,019	-1,743	-1,705	-2,019
3	学術講習会	84,410	69,030	70,710	107,293	86,900	95,124	-22,883	-17,870	-24,414
	全国大会	35,071	23,532	27,029	33,496	20,613	25,806	1,575	2,919	1,223
	F I T	19,513	21,628	24,436	19,193	21,122	22,811	320	506	1,625
	プロシン	4,867	3,731	4,967	4,864	3,412	4,945	3	319	22
	AIプロコン	1,000	825	1,000	1,554	1,356	1,793	-554	-531	-793
	その他事業	0	0	0	1,553	1,539	1,501	-1,553	-1,539	-1,501
	セミナー	12,416	11,689	10,837	8,950	8,115	8,421	3,466	3,574	2,416
	ITフォーラム	5,401	330	0	6,862	2,394	2,519	-1,461	-2,064	-2,519
	支部所管分	6,142	7,272	2,441	16,668	15,441	13,083	-10,526	-8,169	-10,642
運用益,管理費割掛ほか	0	23	0	14,153	12,908	14,245	-14,153	-12,885	-14,245	
4	会 誌	20,530	18,518	20,667	79,633	75,204	85,888	-59,103	-56,686	-65,221
	会誌	20,530	18,518	20,667	50,586	49,093	57,440	-30,056	-30,575	-36,773
	会誌発送経費				20,622	18,326	19,231	-20,622	-18,326	-19,231
	運用益,管理費割掛ほか	0	0	0	8,425	7,785	9,217	-8,425	-7,785	-9,217
5	学術刊行物	101,777	98,409	100,332	115,618	102,297	115,146	-13,841	-3,888	-14,814
	ジャーナル	64,210	60,177	62,504	45,860	36,517	45,269	18,350	23,660	17,235
	トランザクション	14,209	13,100	13,037	10,778	8,888	10,223	3,431	4,212	2,814
	出版-電子出版等	22,958	24,140	24,676	24,509	25,004	25,818	-1,551	-864	-1,142
	出版-DP	400	984	115	6,557	5,886	3,834	-6,157	-4,902	-3,719
	出版-歴史	0	0	0	2,050	2,192	4,271	-2,050	-2,192	-4,271
	運用益,管理費割掛ほか	0	8	0	25,864	23,810	25,731	-25,864	-23,802	-25,731
7	国際活動	1,340	2,353	1,560	4,478	3,957	4,526	-3,138	-1,604	-2,966
	国際活動	1,340	2,353	1,560	4,141	3,588	4,152	-2,801	-1,235	-2,592
	運用益,管理費割掛ほか	0	0	0	337	369	374	-337	-369	-374
	共通	200	26	200	14,570	13,145	14,070	-14,370	-13,119	-13,870
	運用益／共通経費	200	26	200	14,570	13,145	14,070	-14,370	-13,119	-13,870
本部 実施事業 小計		374,219	365,948	342,174	496,910	460,813	479,565	-122,691	-94,865	-137,391
法人会計		187,000	195,490	191,510	80,160	75,358	99,637	106,840	120,132	91,873
	会員	186,700	195,252	191,210	16,215	17,716	18,005	170,485	177,536	173,205
	会員	186,700	195,252	191,210	5,930	5,917	6,995	180,770	189,335	184,215
	運用益,管理費割掛ほか				10,285	11,799	11,010	-10,285	-11,799	-11,010
	管理	300	238	300	54,240	49,425	71,823	-53,940	-49,187	-71,523
	管理	300	238	300	21,860	17,319	34,640	-21,560	-17,081	-34,340
	運用益,管理費割掛ほか				32,380	32,106	37,183	-32,380	-32,106	-37,183
	支部所管				9,705	8,217	9,809	-9,705	-8,217	-9,809
本部 当期正味財産増減		561,219	561,438	533,684	577,070	536,171	579,202	-15,851	25,267	-45,518
6	標準化活動	108,057	106,751	109,052	107,491	104,939	111,961	566	1,812	-2,909
本部＋標準化の合計		669,276	668,189	642,736	684,561	641,110	691,163	-15,285	27,079	-48,427
								1,133,889	1,133,889	1,160,968
								1,118,604	1,160,968	1,112,541

[第2号報告]

2. 会費滞納会員の取り扱い

会費滞納会員の取扱い

定款第 10 条 1 項 1 号にもとづき、2018 年度からの会費を滞納した会員 553 名については、その会員資格を喪失したものと扱う。